

イワツクバネウツギ

被子植物 スイカズラ科

Zabelia integrifolia (Koidz.) Makino ex Ikuse et S.Kuros.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、各地点の個体数は250未満である。

【種概要】山地に生える高さ1~2mでよく分岐する落葉低木である。成長した樹皮は灰褐色で6本の縦溝が目立つ。若枝はほとんど平滑で緑色から赤褐色に変わり、光沢がある。葉は対生し3~7cm、幅1~3cmの卵形から卵状楕円形で先は尖り、全縁または波状鋸歯がある。花は5~6月で4裂平開し、花筒は長い。萼も4裂し、裂片が目立ち、名前の由来となっている。固有種。

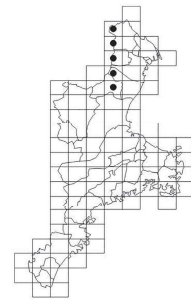
【分布】おもに石灰岩や蛇紋岩地に生える。本州（関東地方以西）、四国、九州。県内ではいなべ市、菰野町、鈴鹿市、亀山市で記録されている。

【現況・減少要因】枯死による減少傾向が強い。石灰岩採掘の影響が懸念される。

【保護対策】石灰岩採掘の中止が必要である。

(市川正人)

(写真：いなべ市，2016年，池田博撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

VU

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

ケチドメ (ケチドメグサ)

被子植物 ウコギ科

Hydrocotyle dichondrioides Makino

【選定理由】既知の生育地点数は5前後。クローン繁殖を行うので個体数は不明。九州からの隔離分布で、分布北限にあたる。

【種概要】神社やその周辺の裸地および石垣に生育する匍匐性の多年生草本。茎は糸状で、若いときは白色の短縮毛を有する。葉柄は長さ5~30mm、白色の短縮毛を有する。葉は円状腎形で膜質、表面は暗緑色で光沢はなく、径0.5~1cm。2~8花からなる傘形花序を形成する。花はほぼ無柄。果実の径は0.8mm前後。

【分布】国内では、紀伊半島、九州南部、南西諸島に分布。国外では、台湾に分布。県内では、尾鷲市、熊野市に分布。

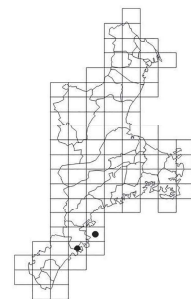
【現況・減少要因】神域周辺のため、現状は安定している。

【保護対策】現状を維持できれば問題ない。

【文献】17。

(藤井伸二)

(写真：尾鷲市，2020年，山本和彦撮影)



三重県 2025

EN

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ハリモミ

裸子植物 マツ科

Picea polita (Siebold et Zucc.) Carrière

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。個体数が少ないうえ、林業開発により天然林が人工林に転換され減少した。

【種概要】高木性の常緑針葉樹。樹高30m、幹の直径は1mにもなる。葉は線形で長さ1.5~2.0cm。先が尖り葉身はやや湾曲する。

【分布】日本固有種。国内では本州（福島県以南）、四国、九州に分布し、我が国に産するトウヒ属の種としては最も暖かい地域に生育する。県内では台高山脈（津市美杉町、大台町ほか）とその周辺の山地帯などに分布。

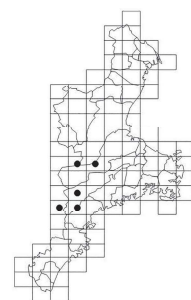
【現況・減少要因】大杉谷源流域の西谷最奥（三津河落山）の斜面ほか、台高山脈の山地帯で他種と混生。個体数は多くない。生育地の多くがスギ・ヒノキ植林に転換された。また近年、野生植食動物の食害で更新が妨げられている。

【保護対策】現存する母樹の保全に努めると同時に、後継稚幼樹への野生植食動物の食害等を防ぐ対策が必要。

【文献】138, 139。

(武田明正)

(写真：大台町，2005年，山本和彦撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類

その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

トガサワラ

裸子植物 マツ科

Pseudotsuga japonica (Shiras.) Beissner

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。生育地は山地に局限され、その多くがスギ、ヒノキ植林に転換されたほか、多様な要因によって個体数が減少している。

【種概要】高木性の常緑針葉樹。樹高30 m以上、幹の直径は1 mを超えることがある。葉は線形で長さ2.0~2.5 cmで扁平。葉裏に白色の気孔帯が2条ある。球果は卵形。苞鱗は先が3裂、種鱗から長く出て反曲する。

【分布】日本固有種。国内では紀伊半島（三重県、和歌山県、奈良県）と四国（高知県）の山地に分布。県内では大台町、松阪市飯高町、大紀町、尾鷲市、熊野市。

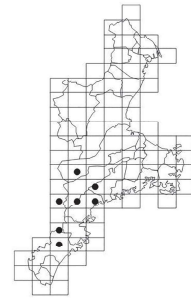
【現況・減少要因】台高山脈の山地帯で、スギ、ヒノキ、コウヤマキや広葉樹類などと混生するが、個体数は多くない。好陽性の本種は母樹が少ないという人為的要因（林種転換）などにより更新適地が減り、個体数を減らしている。

【保護対策】現存する母樹の保全に努めると同時に、後継稚幼樹への野生獣の食害等を防ぐ対策が必要。

【文献】139.

(武田明正・山本和彦)

(写真：大台町，2012年，山本和彦撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

コメツガ

裸子植物 マツ科

Tsuga diversifolia (Maxim.) Mast.

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。分布は高標高地に限定されている。近年、野生獣の食害を受け、母樹、稚幼樹ともに個体数が激減すると同時に、更新も妨げられている。

【種概要】高木性の常緑針葉樹。樹高25 m、幹の直径は1 m程度に達する。若い枝は短毛が多い。葉は線形、長さ0.4~1.4 cm、幅0.2 cm程度。球果は卵円形で若枝に頂生する。長さ1.5~2.0 cm、幅1.5 cm。ツガより高地に分布。

【分布】日本固有種。国内では本州（紀伊半島以北、中部山地の亜高山帯）、四国、九州に分布。県内では大台町大台ヶ原山、紀北町で確認されている。他にも分布情報があるが判然としない。

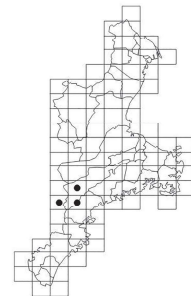
【現況・減少要因】日出ヶ岳を中心とする大台ヶ原の高所に分布するが、個体数は多くない。近年、母樹、稚幼樹ともに野生植食動物の食害により個体数が減少している。

【保護対策】現存する母樹の保全に努めると同時に、後継稚幼樹への野生植食動物の食害等を防ぐ対策が必要。

【文献】139.

(武田明正・山本和彦)

(写真：大台町，2012年，山本和彦撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

イセノウマノスズクサ

被子植物 ウマノスズクサ科

Asarum kaempferi var. *laevipes* Watan.-Toma & Ohi-Toma

【選定理由】既知の生育地点数は13である。

【種概要】海岸に近い林縁から山地に分布する。オオバウマノスズクサと混生していたものの中から花柄に毛が無いという点でイセノウマノスズクサとして区別された。他種とは葉の形態では変異が多く区別できない。

【分布】本州伊勢志摩及び尾張東部で認められている。

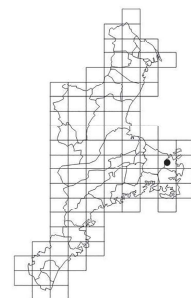
【現況・減少要因】2021年10月に新変種として発表された。県内では今のところ伊勢志摩地域のみで確認されている。

【保護対策】海岸林の開発や照葉樹林の伐採には注意を要する。

【文献】179, 180.

(山脇和也)

(写真：伊勢市，2023年，半田俊彦撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

コブシ

被子植物 モクレン科

Magnolia kobus DC. var. *kobus*

【選定理由】 既知の生育地点数は10以下。県内では自生と思われる個体が著しく少ない。

【種概要】 落葉高木。樹高15 mを超えるものがある。互生する葉は倒卵形から広卵形。長さ6~13 cm、上部はしだいに細くなり先は突出する。基部はくさび形に細まる。白色の花の基部は淡紅色、葉の展開に先立って4月頃咲く。

【分布】 国内では北海道、本州、四国、九州。国外では朝鮮半島(済州島)に分布。県内では、菰野町(御在所岳、朝明溪谷)、津市(三重大学演習林、大洞山)ほか。比較的標高の高いところ(暖带上部)に稀に自生する。

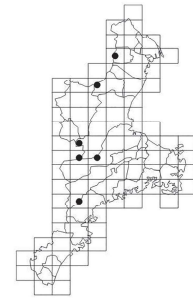
【現況・減少要因】 鈴鹿山系や台高山系の尾根から山麓にかけてタムシバと混じって自生しているが、個体数は多くない。観賞用としての採取や野生獣の食害が危惧される。

【保護対策】 生育地は主として室生赤目青山国定公園域、鈴鹿国定公園域である。

【特記事項】 花期にはタムシバ(*Magnolia salicifolia*)と混同されることが多いので注意を要する。なお、同種とコブシとの雑種(シバコブシ)の分布も確認されている。

(武田明正・市川正人)

(写真: 松阪市, 2009年, 池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ハナゼキショウ

被子植物 チシマゼキショウ科

Tofieldia nuda Maxim. var. *nuda*

【選定理由】 既知の生育地点数は10以下であり、各地点の個体数は50未満であり、採取圧が認められる。

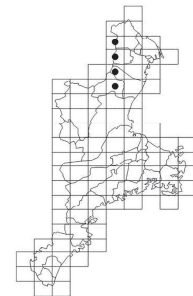
【種概要】 山中のやや湿った岩に生える多年草。地下茎は短く根が発達している。根生葉は線形・鎌形の単面葉である。花茎は高さ10~30 cm、茎葉は線形で根生葉より小さい。花は7~8月。総状花序で白色、斜上する。苞は卵状披針形、小苞が花の下にあり、杯状で中裂する。花被片は3~4 mmで6、雄蕊は6で花被片とほぼ同長である。固有種。

【分布】 本州(関東地方以西)、九州。県内ではいなべ市、菰野町、鈴鹿市、亀山市、津市で記録されている。

【現況・減少要因】 比較的安定した場所に生育しており、減少要因としては採取が考えられる。

【保護対策】 自生地の環境を現状のまま維持し、採取を禁止する策を講じる。(市川正人)

(写真: 亀山市, 2021年, 池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

イワショウブ

被子植物 チシマゼキショウ科

Triantha japonica (Miq.) Baker

【選定理由】 既知の生育地点数は10以下であり、生育立地が限られている。

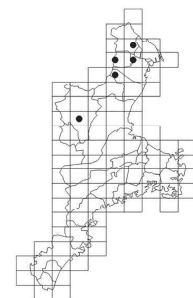
【種概要】 多年草。根茎は短く斜めにでる。葉は茎の下部に2列につき、直立する。8~9月には、花茎の頂に総状花序が出て、苞の腋に3個の白花がつく。

【分布】 本州(西限は伯耆大山)の固有種。亜高山帯の湿原に生育するが、県内では標高の低い湿地にも生育する。北勢と伊賀地域で記録がある。

【現況・減少要因】 いなべ市、菰野町、伊賀市で各1か所の生育地が確認されている。菰野町の生育地は標高が高いが、他の生育地は湧水に涵養された丘陵地に生育するもので、開発による生育地の減少が危惧される。

【保護対策】 生育地は湿地であるので、湿地全体の保全が重要である。(後藤稔治)

(写真: 菰野町, 2019年, 市川正人撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

スブタ

被子植物 トチカガミ科

Blyxa echinosperma (C.B.Clarke) Hook.f.

【選定理由】既知の生育地点数は20以下であり、乾田化や開発によって生育地そのものが減少している。

【種概要】湿田や浅い池に生育する一年生の沈水植物。線形の葉を多数根生し、葉腋から花柄をのぼし白い小さな花を水面上に咲かせる。花期は8～10月。

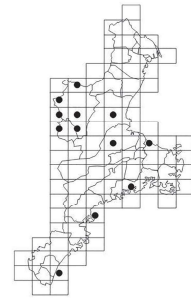
【分布】国外では東南アジア、極東、オーストラリア。国内では本州から九州。県内では伊賀市、名張市、津市、松阪市、明和町、南伊勢町、尾鷲市、御浜町、紀宝町などで記録がある。

【現況・減少要因】山間の小さな水田や溜池に生育している。減少要因は水田の乾田化および除草剤の影響、または水田や水路の管理放棄による環境変化が考えられる。

【保護対策】残された生育地の保全のため、地域の人に絶滅危惧種保護への理解を促すことが大切である。

(山路武夫・半田俊彦)

(写真：明和町，2021年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

ヤナギスブタ

被子植物 トチカガミ科

Blyxa japonica (Miq.) Maxim. ex Asch. et Gürke

【選定理由】既知の生育地点数は50以下であるが、現在生育が確認できる地点は少なく、減少傾向が著しい。各生育地の個体数は50未満である。

【種概要】水田や溜池などに生育する一年生の沈水植物。植物体は5～25 cmの長さでよく分枝し、多くの無柄の葉を互生に着ける。葉は線形で漸減し、先は尖る。長さ2.5～5 (～8) cm、幅約2 mmで細鋸歯がある。花期は7～10月。花は白色、3花弁は細く、長さ3～8 mm。果実は細長く、花柱を除いて1.5～3 cm。

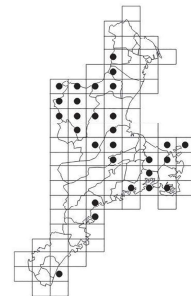
【分布】本州、四国、九州。ほぼ全県下に生育記録がある。国外ではアジア東部、インド、ニューギニア、ヨーロッパ。

【現況・減少要因】かつて水田・溜池など広範囲に生育したが、土地造成・圃場整備・農薬使用で激減し、現在も減少傾向にある。

【保護対策】上記の減少要因を回避・低減する必要がある。

(市川正人)

(写真：多気町，2008年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

イバラモ

被子植物 トチカガミ科

Najas marina L.

【選定理由】既知の生育地点数は20以下であり、生育地の改変などの人為圧力がきわめて強く、減少するおそれがある。

【種概要】一年生の沈水植物。湖沼、溜池、まれに流れのゆるやかな河川や水路などに生育。水中茎は円柱状で、分岐しながら横に広がり、草長は2 mに達することもある。葉は対生で基部は葉鞘となり、葉身の長さは2～6 cm。葉縁に刺状の大きな鋸歯があることが多い。花期は6～8月。形態の変異が著しい種である。

【分布】世界中に広く分布。国内では全国各地に分布し、県内では松阪市、多気町、玉城町、南伊勢町、大紀町、大台町、伊賀市で記録がある。

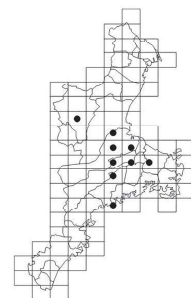
【現況・減少要因】南伊勢町、大台町以外はいずれの生育地も2000年前後に確認されており、最も古い記録でも1997年である。2015年以降、南伊勢町、大台町でも新産地が確認されている。

【保護対策】生育地である溜池などで改修工事等を行う場合には、生育場所の干出を避け、改修後の個体群の存続を可能にする配慮が必要である。

【文献】96.

(中 優・福田知子)

(写真：大台町，2018年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ミズオオバコ

被子植物 トチカガミ科

Ottelia alismoides (L.) Pers.

【選定理由】既知の生育地は多数あげられるが、多くのところで環境が悪化または改変されて、個体数が激減している。

【種概要】水田や溝、溜池に生える沈水性1年草。花は淡紅色で8～10月水面に咲く。葉の形がオオバコに似ており、水中に生えるのでこの名がある。

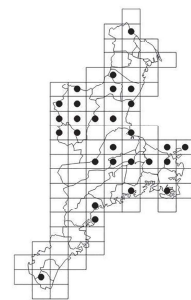
【分布】アジアとオーストラリアに分布。国内では北海道、本州、四国、九州、琉球。県内ではいなべ市、桑名市、四日市市、鈴鹿市、亀山市、津市、松阪市、多気町、伊賀市、名張市、鳥羽市、伊勢市、志摩市、南伊勢町、紀北町、尾鷲市、熊野市、紀宝町など。

【現況・減少要因】水田の乾田化ともなう水路の消滅や溜池の消滅等、生育環境の激減により、現在生育しているところでも、個体数は激減している。

【保護対策】溜池や水路等の改修にあたっては、本種が生育する水環境を保全する必要がある。

(加田勝敏・山本和彦)

(写真：南伊勢町，2018年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

コアマモ

被子植物 アマモ科

Zostera japonica Asch. et Graebn.

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であるが、うち4か所の生育地は開発圧が強い。

【種概要】湾の奥や河口の干潟などの浅い水底の砂泥に生える多年草。根茎は細く、径0.5～1.5 mmで、横に這い、節から根と葉だけをつける枝と、葉と花序とをつける枝を出す。葉は長さ10～40 cm、幅1.5～2 mm。

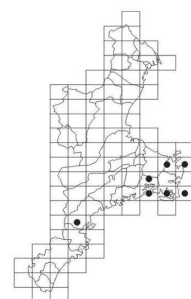
【分布】国内では北海道から沖縄の海岸。国外では東アジアの亜寒帯から熱帯。県内では伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町、紀北町で確認されている。

【現況・減少要因】鳥羽市では湾内に、志摩市の1生育地では砂浜に自生、他の生育地は河口付近に生育している。河口付近の生育地は、いずれも開発圧が強く、いつまで群落が維持されるか危惧されるところである。紀北町船津川河口の群落は浚渫工事により個体数は減少した。

【保護対策】河川改修にあたっては、本種の自生地をできる限り温存する工法を実施することが必要である。

(山本和彦)

(写真：伊勢市，2018年，半田俊彦撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

オヒルムシロ

被子植物 ヒルムシロ科

Potamogeton natans L.

【選定理由】既知の生育地点は10以下、個体数は1,000未満。将来減少するおそれがある。

【種概要】溜池や湧水のある河川などに生育する多年生の浮葉植物。水中茎に沈水葉と浮葉をつける。沈水葉は葉柄と葉身の区別がなく針状で長さ12～30 cm。浮葉は長楕円形～広楕円形で長さ5～12 cm、幅2～5 cm、縁は全縁でしばしば波打つ。

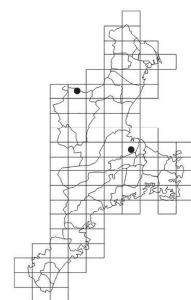
【分布】北半球の温帯域に広く分布。国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内ではいなべ市、伊賀市、松阪市での標本記録がある。

【現況・減少要因】自生地はいずれも溜池である。伊賀市の記録は3件あるうち2件は50年以上前の記録であるため、現況は不明。いなべ市も現況は不明。他は比較的近年の記録であり、生育している可能性は高いと思われる。

【保護対策】自生している溜池の改修工事を行う際には、池底の乾燥を避ける等の工法を検討し、個体群の保全に配慮することが必要。

(山本和彦)

(写真：伊賀市，2018年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ツツイトモ

Potamogeton panormitanus Biv.

被子植物 ヒルムシロ科

【選定理由】既知の生育地点数は約10。殖芽によるクローン繁殖を行うので個体数は不明。生育環境の開発にともなう減少が懸念される。

【種概要】湖沼（とくに海跡湖）、河川、水路、養魚池などに生育する繊細な多年生の沈水植物。葉は無柄で線形、長さ2～5 cm、幅0.5～1 mm、鋭頭。托葉の両側が合着して筒状となる。花茎は長さ1.5～2 cm。花穂は長さ5～7 mm、花は上下2段に分かれてつく。殖芽は小さく、長さ1.5～2 cm。

【分布】国内では、全国に分布。海外では、汎世界に分布。本県では、四日市市、松阪市、志摩市、南伊勢町、大紀町に分布。

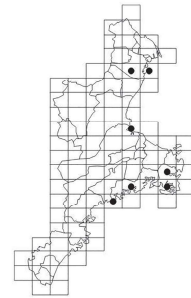
【現況・減少要因】自生地の状態は安定しているが、いくつかの海跡湖では開発が計画されている。また、放棄された養魚池については、埋め立てられる可能性が高い。

【保護対策】生育環境である海跡湖の開発を抑制する必要がある。

【文献】11, 14.

(藤井伸二)

(写真：四日市市，1998年，中優採集，三重県総合博物館所蔵)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

イトモ

Potamogeton pusillus L.

被子植物 ヒルムシロ科

【選定理由】既知の生育地点数は20以下であり、生育地の改変などの人為圧力がきわめて強く、減少するおそれがある。

【種概要】多年生の沈水植物。湖沼、溜池、小川などの浅水中に生育。造成地の調整池などの新しく創造された環境にも出現することがある。水中茎は糸状で細く、断面は楕円形。葉は線形、無柄、鋭頭で、長さは2～6 cm。花期は6～8月で、茎の先端部の葉腋から花茎を伸ばす。秋になると枝の先端部が殖芽となり水底で越冬する。和名は葉の外形が糸状であることに由来、漢字名は糸藻。

【分布】世界中に広く分布。国内では全国各地に分布し、県内では津市、松阪市、多気町、玉城町、伊勢市、南伊勢町、大紀町、紀北町、伊賀市で記録がある。

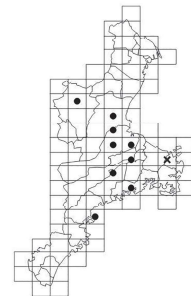
【現況・減少要因】伊賀市では1959年に記録があるが、その後については不明。伊勢市では一時的に発生したもので、その後消失した。

【保護対策】生育地である溜池などで改修工事等を行う場合には、生育場所の干出を避け、改修後の個体群の存続を可能にする配慮が必要である。

【文献】96.

(中 優・福田知子)

(写真：南伊勢町，2013年，中優採集，三重県総合博物館所蔵)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

カワツルモ

Ruppia maritima L.

被子植物 カワツルモ科

【選定理由】既知の生育地点数は10ほど。生育地が点在しており、個体群は分断されている傾向がある。

【種概要】海水の流入する汽水中に群生する多年草。地下茎が水底を這い、各節から水中茎が伸びる。葉は、針状で互生、長さ5～10 cm、幅0.3 mm内外。花は6～8月、葉腋からでて両性、花被はない。

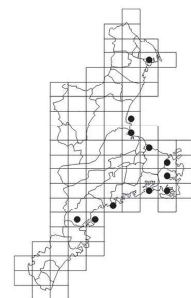
【分布】国内では北海道、本州、四国、九州、沖縄。世界中に広く分布。県内では桑名市、四日市市、津市、松阪市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町、大紀町、紀北町からの記録がある。

【現況・減少要因】県内では河口域、養魚場跡、海跡湖等に生育している。養魚場は水質の悪化や埋め立てで、今後減少あるいは消滅の可能性もある。河口域も河川改修の影響が懸念される地域もある。尾鷲市矢ノ川河口域からも過去の記録があるが、河川工事により消滅した。

【保護対策】河口域や養魚場跡には、本種以外に水草類や塩湿地植物が多く生育している。これらの植物群が消滅してしまうことのないよう、自生地の自然環境の保全について、十分な配慮が必要。

(山本和彦)

(写真：南伊勢町，2019年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

タマガワホトトギス

被子植物 ユリ科

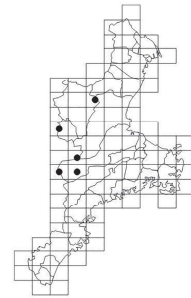
Tricyrtis latifolia Maxim. var. *latifolia*

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
苔蘚類
藻類
キノコ

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下である。
 【種概要】 深山の涼しい溪流沿いの岩壁などに生育する多年草。茎は40～80 cm。葉は広楕円形で長さ8～18 cm，基部は心形で茎を抱く。茎や葉にはほとんど毛がない。花期は7～9月，茎頂と上部葉腋に腺毛のある散房花序をつける。花被片は黄色で内側に茶褐色の斑点がある。
 【分布】 日本固有種。北海道から本州北部に分布。県内では松阪市，伊賀市，名張市で記録されている。
 【現況・減少要因】 生育地が谷筋の岩壁に限られているため，増水時の崩落等による消失や，開花時の採集により減少する可能性がある。
 【保護対策】 生育地は登山者や釣り人がたまたま通るだけの深い山中であり，花期以外は目立つ草でもないのて，自然の中にそっとしておくのがよい。
 【特記事項】 名前の「タマガワ」は京都府井出の玉川から借りたもの。
 (山路武夫・半田俊彦)

(写真：松阪市，2007年，山路武夫撮影)



三重県 2025	VU
三重県 2015	VU
環境省 2020	—

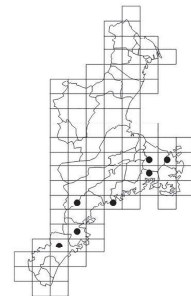
チャボホトトギス

被子植物 ユリ科

Tricyrtis nana Yatabe

【選定理由】 既知の生育地点数は10以下である。
 【種概要】 常緑広葉樹林に生える。茎は高さ2～15 cm，硬い毛がある。葉は倒披針形で，長さ5～15 cm，光沢のある緑色の表面に紫色の斑紋があり，基部はしだいに狭くなる。8～9月に茎頂または上部の葉腋に1～2花がつく。花は黄色に紫褐色の斑点があり，径は約2 cm。
 【分布】 国内では本州（東海地方から近畿地方），四国，九州に分布し，南限は屋久島である。県内では伊勢市，鳥羽市，紀北町，尾鷲市，熊野市などに分布する。
 【現況・減少要因】 造成などによる大規模な土地開発のため，減少している。また，園芸採取による減少もみられる。
 【保護対策】 生育地の保全が必要である。
 (中馬千鶴・福田知子)

(写真：伊勢市，2014年，池田博撮影)



三重県 2025	VU
三重県 2015	VU
環境省 2020	—

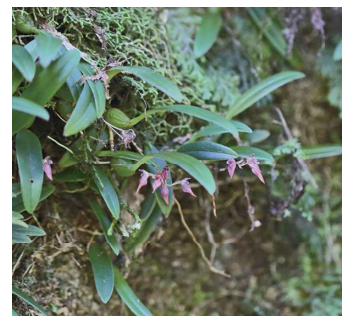
ミヤマムギラン

被子植物 ラン科

Bulbophyllum japonicum (Makino) Makino

【選定理由】 既知の生育地点数は12ほどで，生育地が限られている。
 【種概要】 常緑の着生ラン。茎は横に這い，まばらに偽球をつけ，その上から1個の葉が上方に伸びる。葉は披針形，長さ3～8 cm，幅5～10 mm。6～7月，偽球の基部から花柄を出し，紅紫色の小さな花を数個散状につける。
 【分布】 国内では本州（中部地方以西），四国，九州。国外では台湾に分布。県内では中勢，南勢および紀州地域での記録がある。
 【現況・減少要因】 安定した森林内の樹幹や岩上に着生している。群生して着生するため，一つの生育地点の個体数は多い。しかし森林伐採等による環境の激変で，消失した地点もみられる。また園芸目的の採取圧も大きい。
 【保護対策】 自生地周辺の生育環境の改変には注意が必要である。またマニアによる乱獲を防ぐために，自生地の情報公開は避けることが望ましい。
 【特記事項】 県内には黄色花をつけるキバナミヤマムギランも確認されている。
 (山本和彦)

(写真：尾鷲市，2021年，池田博撮影)



三重県 2025	VU
三重県 2015	VU
環境省 2020	NT

非公表

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ギンラン 被子植物 ラン科
Cephalanthera erecta (Thunb.) Blume var. *erecta*

【選定理由】生育地点数は比較的多いが、各地点の亜個体群の成熟個体数はおよそ50未満しかない。

【種概要】山や丘陵地の明るい林床に生える多年草。高さは10～30 cmで、5～6月に白色の花を3～10個つける。菌従属栄養性の高い種であり、生育にはブナ科の樹木・外生菌根菌・ギンランの三者共生系が必要である。

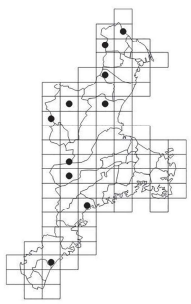
【分布】国内では本州から九州。国外では朝鮮半島に分布。県内では全域に生育する。

【現況・減少要因】県内各地の里山で散発的にみられるが、いずれも小規模な個体群である。減少要因としては、開発による里山の消失、植生の遷移、園芸目的の採取等が挙げられるが、これらに加えて、近年全国的に拡大しているランミモグリバエの寄生による結実率の低下も指摘されている。

【保護対策】消失したようにみえる場所でも、間伐や下草刈りを行った後に再発生する事例が多くみられる。したがって、里山林の下層植生の適切な管理が重要である。ランミモグリバエの食害に対しては、果実の袋掛け、薬剤散布の有効性が報告されている。やむを得ず移植する場合には、三者共生系の確立に配慮が必要である。

【文献】154, 163, 167, 174。

(写真：松阪市，2014年，市川正人撮影) (細川健太郎)



三重県 2025	VU
三重県 2015	VU
環境省 2020	—

キンラン 被子植物 ラン科
Cephalanthera falcata (Thunb.) Blume

【選定理由】生育地点数は比較的多いが、各地点の亜個体群の成熟個体数はおよそ50未満しかない。

【種概要】山や丘陵地の明るい林床に生える多年草。高さは30～70 cmで、4～6月に黄色の花を3～12個つける。近縁のギンランと同様に菌従属栄養性の高い種であり、生育にはブナ科の樹木・外生菌根菌・キンランの三者共生系が必要である。

【分布】国内では本州から九州。国外では朝鮮半島，中国に分布。県内では全域に生育する。

【現況・減少要因】県内各地の里山で、小規模な個体群が散発的にみられる。生育環境・生態ともに近縁のギンランと類似しており、減少要因としても、里山の開発、植生遷移、園芸目的の採取等が同様に挙げられる。また、ランミモグリバエの寄生による影響も同様である。

【保護対策】ギンランと同様に、里山林を適切に管理することが重要である。また、ランミモグリバエに対しての防除策も検討する必要がある。移植にあたって注意すべき点も同様である。

【文献】154, 163, 167, 174。

(写真：菰野町，2014年，市川正人撮影) (細川健太郎)



三重県 2025	VU
三重県 2015	VU
環境省 2020	VU

クマガイソウ 被子植物 ラン科
Cypripedium japonicum Thunb. var. *japonicum*

【選定理由】既知の生育地点数は10以上だが、観賞、園芸目的の採取圧が非常に高い。

【種概要】樹林下に群生する多年草。茎は高さ20～40 cm。径が10～20 cmの扇形葉が茎上部に2枚つく。葉脈は放射状に多数出る。花は4～5月頃に茎の頂に1個下垂して開く。花は淡緑白色。唇弁が大きな袋状となり、紅紫色の脈が浮き出る。

【分布】国内では北海道西南部，本州，四国，九州。国外では朝鮮半島，中国にも分布。県内では各地の樹林下で稀に群落が確認されている。

【現況・減少要因】山地の樹林下に群生するが、林内の光条件に敏感で、被圧が進むと衰退する。観賞用、園芸目的の採取圧が著しく高い。

【保護対策】採取を禁止し、生育地の光環境を適度に管理することが必要。県指定天然記念物「霧生のクマガイソウ群落」（伊賀市霧生）は衰退が著しく、積極的な保護増殖が望まれる。

(写真：大台町，2023年，山本和彦撮影) (武田明正)



三重県 2025	VU
三重県 2015	VU
環境省 2020	VU

タシロラン

被子植物 ラン科

Epipogium roseum (D.Don) Lindl.

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、各生育地の個体数は50未満である。

【種概要】常緑樹林下に生える。地生の菌従属栄養植物。塊茎は楕円形で長さ20~25 mm。茎は高さ20~25 cmで白黄色、膜質の梢状葉がまばらに数個つく。6~7月に6~20個の白色花を総状につける。花の大きさは約2 cm、外花被と内花被の側弁は披針形、唇弁は広卵形、内面には肥圧した3条があり、そのうえに球状突起が並ぶ。葉梢、苞と内花被には紅紫色の斑点が散在する。

【分布】国内では本州（関東以西）、四国、九州、沖縄にまれ。国外では中国（南部）、台湾、インドシナ、インド、マレーシア、オセアニア、熱帯アフリカなどに分布。県内では中勢、南勢、紀州地域に分布する。

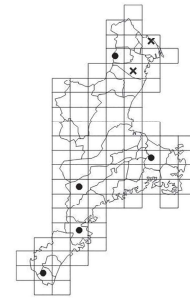
【現況・減少要因】個体数、生育地ともに少ない。

【保護対策】生育地の森林を保全することが必要である。

【文献】8, 122.

(中馬千鶴・福田知子)

(写真：大台町，2023年，井元俊介撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

アキザキヤツシロラン

被子植物 ラン科

Gastrodia confusa Honda et Tuyama

【選定理由】既知の生育地点数は1であり、個体数も少ないが、今後の調査により新たな生育地が発見される可能性がある。

【種概要】常緑樹林下に生えるが、しばしば竹林下にも生える。地生の菌従属栄養植物。塊茎は多肉で太く、紡錘形、単細胞毛が密に被う。茎は暗紫黒色、2~3個の鱗片はさや状で茎を抱く。花は紫褐色、鐘状の筒形、長さ約11 mm、唇弁は無毛で、基部近くに1対の四角柱状の突起がある。

【分布】国内では本州（関東地方以西）、四国、九州、国外では台湾に分布。県内では伊賀地域に生育する。

【現況・減少要因】生育地点数、個体数ともきわめて少ない。

【保護対策】生育地の森林を保全することが必要である。また県内における分布調査が急務である。

【特記事項】ハルザキヤツシロランと比べて花期が遅く9~10月に開花、また花の数も2~8個と多い。

【文献】184.

(中馬千鶴・福田知子)

(写真：滋賀県，2021年，三谷有幸撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

クロムヨウラン

被子植物 ラン科

Lecanorchis nigricans Honda var. *nigricans*

【選定理由】既知の生育地点数は5以下で個体数も少ない。ただし、これらの情報は下記で述べるようにトサノクロムヨウランが混同されたものである。

【種概要】常緑樹林下に生える多年生の菌従属栄養植物。高さ10~30 cm、上部に3~15個の閉鎖花をつける。花期は6月下旬~9月中旬。唇弁先端部には短くて分枝した毛が密に生える。

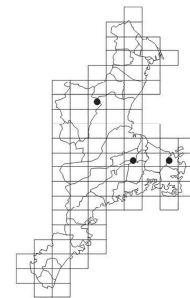
【分布】伊豆諸島、和歌山県、高知県、徳島県、福岡県、宮崎県、鹿児島県において分布が確認されている。県内では伊賀および伊勢地域で記録されているが、トサノクロムヨウランとの混同があるために再検討が必要。

【現況・減少要因】伊勢市で採集されたクロムヨウラン標本 (TI所蔵) は、トサノクロムヨウランを誤同定したものであった (Suetsugu et al. 2018)。一方、伊賀地域のものは標本の再検討が行われておらず、どちらの種類かが不明である。両種は樹林下だけでなく山地の林縁などにもみられ、道路拡張などによる消失が懸念される。

【特記事項】これまで県内でクロムヨウランと同定されてきた植物にはトサノクロムヨウランが含まれているため、今後の精査を待ちたい。両種とも県内ではVUに相当する種である。

【文献】185, 186, 187.

(山本和彦・藤井伸二)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蕨類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ボウラン

Luisia teres (Thunb.) Blume

被子植物 ラン科

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、各地点の個体数は50未満である。

【種概要】常緑の着生ラン。茎は多年生では灰褐色。葉は円柱形緑色、長さ8 cm。花期は7～8月、茎から短い花茎を出し、2～5個の花をつける。クロマツやカキノキなどの樹幹に着生する。

【分布】国内では本州（和歌山県、三重県）、四国、九州、沖縄。県内では南勢地域および紀州地域に分布。

【現況・減少要因】里山のカキノキや神社の着生樹の伐採により減少している。ときには、暴風により株が落下することもある。また、里山管理が放棄されることにより急激に減少することが予想される。

【保護対策】着生樹は伐採せずに保護することである。

(花尻 薫・土永知子)

(写真：御浜町、2013年、池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

フウラン

Neofinetia falcata (Thunb.) Hu

被子植物 ラン科

【選定理由】既知の生育地点数は10程度。個体数はいずれの生育地でも少なく、採取圧が強い。

【種概要】暖地の樹幹や岩石上に着生する。根は太く四方に走り、茎は革質の葉鞘で密に被われる。葉は肉厚で湾曲する。6～7月に白色の花をつける。

【分布】国内では本州（関東南部以西）から沖縄。国外では朝鮮半島、中国に分布。県内では伊賀、北勢、中勢、南勢、紀州地域での記録がある。

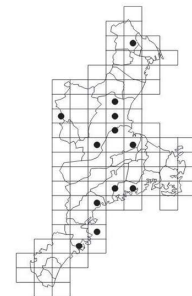
【現況・減少要因】園芸目的の採取や着生木となる木の伐採により激減している。県内には絶滅した生育地も散見される。

【保護対策】採取対策が必要であり、生育地の詳細な情報は公開しない方がよい。

【特記事項】松阪市、紀北町の生育地は県の天然記念物に指定されている。

(岡 与一・半田俊彦)

(写真：紀北町、2024年、山本和彦撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

コフタバラン

Neottia cordata (L.) Rich.

被子植物 ラン科

【選定理由】既知の生育地点は1。三重県新産であるが、自生地と同じ山系に属する奈良県側でも確認されており、同様な環境を精査すれば確認個体数はある程度増加するものと思われる。評価の結果VUとなった。

【種概要】亜寒帯～冷温帯の針葉樹林下に生える小形の多年草。茎は高さ10～20 cm。葉は中程に対生し、三角状腎形、長さ幅とも1～2 cm、無毛。花は6～8月、緑黄色。唇弁の裂片は先端が細く長くとがる。

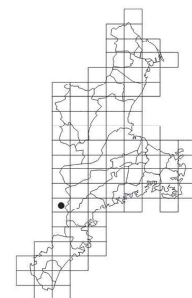
【分布】国内では北海道、本州、四国、九州。国外では周北極に広く分布する。県内では大台山系で確認されている。

【現況・減少要因】2023年に大台ヶ原山（大台町）の針葉樹林内で発見されている。当生育地は吉野熊野国立公園内であり、開発により消滅する心配はないが、ニホンジカによる食害が懸念される。

【保護対策】ニホンジカの食害を防ぐ対策が必要。

(山本和彦)

(写真：大台町、2023年、石山麻子撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

ヒメフタバラン

被子植物 ラン科

Neottia japonica (Blume) Szlach.

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。生育地情報が増え、今後も増加する可能性もあることからENからVUに変更となった。

【種概要】茎は高さ5~20 cm、茎の中部に無柄の葉を2個つける。葉から上はまばらに腺毛がある。花は褐紫色、4~5月に開き、2~6個がまばらにつく。唇弁は深く2裂し線形。

【分布】国内では本州（宮城県・山形県以南）から沖縄の山地の樹林下に分布。県内では伊勢市、大紀町、尾鷲市、熊野市からの記録がある。

【現況・減少要因】いずれの生育地も今のところ安定しており、個体数も減少はしていない。しかし、森林伐採や踏みつけ、マニアによる採取等で激減する可能性も否めない。

【保護対策】生育地を含めた周辺の森林環境の保全や生育地の公表を避けることが必要。

【文献】57.

(山本和彦)

(写真：熊野市，2022年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

ヨウラクラン

被子植物 ラン科

Oberonia japonica (Maxim.) Makino

【選定理由】既知の生育地点数は10以下、各生育地の個体数は50未満である。採取圧により減少傾向にある。

【種概要】樹幹または岩上に着生する。茎の長さ1~4 cmで束生し、下垂する。葉は4~10個左右から互生し、長さ1~3 cm、幅2~5 cm。4~6月に淡黄褐色の小花を密につける。

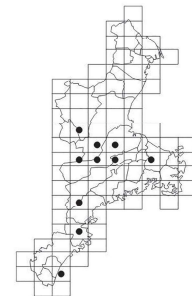
【分布】国内では本州（宮城県以南）から沖縄に分布。県内では伊賀市、名張市、津市、松阪市、多気町、伊勢市、大台町、尾鷲市、御浜町で記録がある。

【現況・減少要因】古い記録が多いが、1990年以降の確認は津市、松阪市、多気町、御浜町等からの報告がある。園芸栽培目的の採取や着生木の伐採等により激減した。

【保護対策】採取対策を講じる必要があるが、現状では隠して守るしか術がない。

(岡 与一・半田俊彦)

(写真：松阪市，2016年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

サギソウ

被子植物 ラン科

Pecteilis radiata (Thunb.) Raf.

【選定理由】既知の生育地点数は10以上だが、土地開発のため生育地が消滅傾向にある。また観賞、園芸目的の採取圧が著しく強い。

【種概要】日当たりの良い湿地に生える小形の多年草。茎の高さは15~40 cm。茎の下部に3~5枚の葉をつけ、その上部に数枚の鱗片葉をつける。7~8月頃径3 cm程度でシラサギを思わせる白色の花を頂生する。

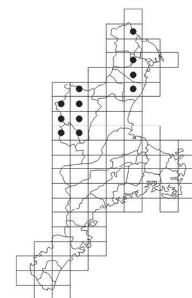
【分布】国内では本州、四国、九州。国外では朝鮮半島、台湾に分布。県内では北勢、中勢、伊賀の各地域に分布し、南勢、紀州地域では確認されていない。

【現況・減少要因】北勢、伊賀地域では丘陵地における土地開発により生育地が激減した。観賞用、園芸目的の採取が頻繁である。

【保護対策】採取を禁止し、土地開発にあたっては、本種が生育する水湿地を保全し、観賞・園芸目的の乱獲を防ぐ必要がある。

(武田明正)

(写真：伊賀市，2019年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ムカデラン

被子植物 ラン科

Pelatantheria scolopendrifolia (Makino) Aver.

【選定理由】 既知の生育地点数は10以下であり、各地点の個体数は50未満である。

【種概要】 常緑の着生ラン。日当たりのよい岸壁や樹幹上に生える。茎はやや灰褐色、分枝が少なく、所々より太い糸状の根を出す。6～8月に花茎を出し1花をつける。

【分布】 国内では本州（岩手県以南）、四国、九州。県内では松阪市と紀州地域（熊野市、御浜町、紀宝町）に分布。

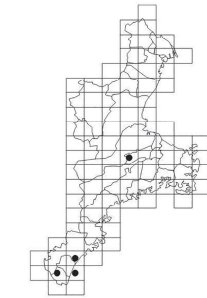
【現況・減少要因】 水田や河畔の着生樹を、農業用の道路の敷設のために伐採するので減少している。また、老木になり枯死するものもみられる。

【保護対策】 着生樹の保護や、切り倒しを防ぐ方法を所有者に喚起することが必要。

【特記事項】 松阪市の生育地は国天然記念物。

(花尻 薫)

(写真：紀宝町，2020年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

コバノトンボソウ

被子植物 ラン科

Platanthera tipuloides (L.f.) Lindl. subsp. *nipponica* (Makino) Murata

【選定理由】 既知の生育地点数は10以下であり、各生育地の個体数も少ない。

【種概要】 多年草。高さ20～40 cm、葉は1個、狭長楕円形から広線形、長さ3～7 cm、巾3～10 mm、基部は茎を抱く。リン片葉は披針形、茎にへばりつき目立たない。花は6～8月、淡黄緑色の小花を数個、偏側性につける。苞は披針形。背萼片は卵形、長さ2～2.5 mm、側萼片は長楕円形、側花弁は斜楕円形、ともに背萼片より少し長い。唇弁は舌状、長さ2.5 mm～4 mm、距は長さ12～18 mm、後方にはね上げる。花粉塊は棍棒状。

【分布】 日本全土。暖温帯から冷温帯。県内ではいなべ市、菰野町、伊賀市、津市、南伊勢町などに分布する。

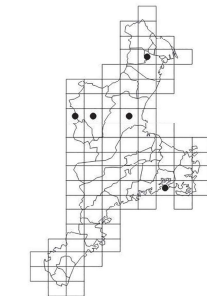
【現況・減少要因】 日当たりの良い湿った草地に生えるが、そうした立地は高茎草本などの侵入も早く、遷移の進行により、絶滅したところもある。また採取圧も減少要因となっている。

【保護対策】 本種の生育する環境は、他にも絶滅の危険性の高い種が多く、植生遷移の進行等環境変化圧の軽減に努めるとともに、採取圧から守るために分布情報の公表には慎重な配慮が必要である。

【文献】 69。

(葛山博次)

(写真：伊賀市，2016年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

トキシソウ

被子植物 ラン科

Pogonia japonica Rehb.f.

【選定理由】 既知の生育地点数は10以上だが、観賞、園芸目的の採取圧が強い。さらに、土地開発によって生育場所である湿地の減少が著しい。

【種概要】 日当たりの良い湿地に生える小形の多年草。茎の高さは10～30 cm。茎の中ほどに葉を1枚つける。花は淡紅紫色で、5～6月頃茎に頂生し、横向きに開き、その基部には葉状の苞をつける。類似種のヤマトキシソウは、花が小さく上向きにつき、花弁がほとんど開かないので区別できる。

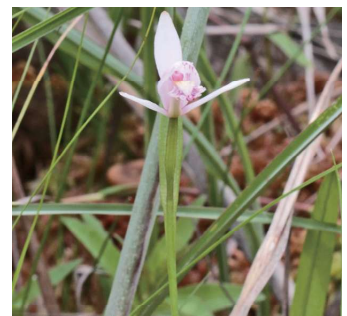
【分布】 国内では北海道、本州、稀に四国と九州に分布。国外では朝鮮半島、中国に分布。県内では北勢、中勢、伊賀地域に多いが、志摩地域にも確認されている。

【現況・減少要因】 以前は県内の丘陵地の湿地で普通に見られたが、土地開発のために生育地が激減した。また遷移の進行によって被圧が強くなり個体数が減っている。

【保護対策】 土地開発にあたっては、本種が生育する湿地を保全し、観賞・園芸目的の乱獲を防ぐ必要がある。

(武田明正)

(写真：伊賀市，2023年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

ヤマトキソウ

被子植物 ラン科

Pogonia minor (Makino) Makino

- 【選定理由】既知の生育地点数は10以下、各生育地の個体数も少ない。
- 【種概要】多年草。茎は直立し、高さ10~20 cm。葉は楕円形で長さ3~7 cm、巾は広くときには18 mmぐらいになる。花は6~8月、茎の先端に1個つき淡紅色から白色。花被片はそり返らず、唇弁も花被片に包まれ、先端だけわずかに外に出る。3裂した中央裂片の巾は、トキソウの唇弁に比べて狭い。長さも短く花外に出ることはまれ。
- 【分布】日本全土。国外では台湾、朝鮮半島。県内ではいなべ市、菰野町、亀山市、鈴鹿市、津市、伊賀市、名張市、伊勢市などの暖温帯から冷温帯の丘陵や山間の湧水湿地に生育。
- 【現況・減少要因】生育地の開発、大形草本の侵入・繁茂などで生存が脅かされている。採取圧も減少の要因となっている。
- 【保護対策】生育地の開発などの刈取りによる植生遷移の停止。開発や採取などの人為圧の排除が望まれる。ラン科植物の分布情報は園芸目的の採取の手助けとなるので、公表に際しては慎重な配慮が必要である。
- 【特記事項】和名は山地に生えるトキソウ。トキソウは湿地に生える。トキの羽根に似た淡い紅色にもとづいている。
- 【文献】69, 81.

(葛山博次)

(写真：名張市，2003年，市川正人撮影)



三重県 2025	VU
三重県 2015	VU
環境省 2020	—

ウチョウラン

被子植物 ラン科

Ponerorchis graminifolia Rchb.f. var. *graminifolia*

- 【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、各地点の個体数は少ない。
- 【種概要】山地の湿った岩壁などに生える高さ7~20 cmの多年草。葉は広線形で2~3個をつけ、茎は斜上する。花は6~8月に開き赤紫色である。唇弁は3深裂し、中裂片は楕円形で、大きさは側裂片と同じぐらいである。根は球状で肥厚する。
- 【分布】本州（関東地方以西）、四国、九州。県内ではいなべ市、菰野町、四日市市、亀山市、伊賀市、名張市、大台町、熊野市で記録がある。国外では朝鮮。
- 【現況・減少要因】漸減傾向にある。きわめて園芸採取圧が高く、強い減少要因となっている。
- 【保護対策】園芸採取の対象種であり、人の手が届くようなところには柵をするなど、保護管理対策が必要である。

(市川正人)

(写真：大台町，2023年，池田博撮影)



三重県 2025	VU
三重県 2015	VU
環境省 2020	VU

クモラン

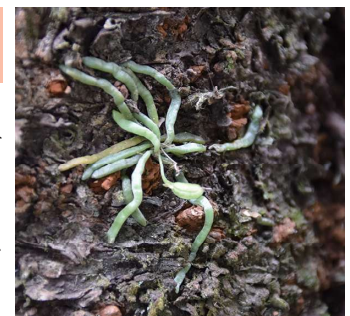
被子植物 ラン科

Taeniophyllum glandulosum Blume

- 【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、最近の情報が少ない。
- 【種概要】長さ2~3 cmの灰緑色の根を放射状に束生し、樹幹に着生する多年草。葉が退化しており、根の中心から短い花茎を出し、6~7月に小さい花を咲かせる。
- 【分布】国外では朝鮮半島、中国、ヒマラヤ。国内では本州（関東地方以西）から九州。県内では伊賀市、桑名市、津市、松阪市、多気町、南伊勢町、大台町、尾鷲市、紀宝町で生育の記録がある。
- 【現況・減少要因】現在ははっきりしている生育地ではウメの木などに着生している。減少しているかどうかは不明であるが、もともと生育地は少ない。
- 【保護対策】生育地での土地開発や着生樹木の伐採などは避けることが大切である。

(山路武夫・半田俊彦)

(写真：大台町，2023年，山本和彦撮影)



三重県 2025	VU
三重県 2015	VU
環境省 2020	—

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- 維管束植物
- 蘚苔類
- 藻類
- キノコ

- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ヒトツボクロ

Tipularia japonica Matsum.

被子植物 ラン科

【選定理由】既知の生育地点は5以下。個体数はどの生育地も10未満。園芸採取による採取圧が強い。

【種概要】暖温帯域の森林の林床に生える多年草。偽球茎は球状に肥厚し1個の葉と花茎を出す。葉は狭卵形で先は尖り、基部は浅心形。表面は光沢のある深緑色、裏面は紅紫色を帯びる。花茎は細く高さ20~30 cm、5~6月、黄緑色の小さな花を総状につける。

【分布】本州、四国、九州。国外では朝鮮に分布する。県内では亀山市、菟野町、津市、松阪市、伊賀市、紀北町から記録されている。

【現況・減少要因】紀北町の記録は古く、現況は不明。他は最近確認された生育地で、いずれも個体数はわずかであるが、今のところ健在。シカの食害や園芸採取目的の乱獲による個体数の減少が懸念される。

【保護対策】ニホンジカの食圧を軽減すること、自生地情報は公表しないことなどの対策が必要。

(山本和彦)

(写真：松阪市，2023年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ノハナショウブ

Iris ensata Thunb. var. *spontanea* (Makino) Nakai ex Makino et Nemoto

被子植物 アヤメ科

【選定理由】既知の生育地点数は10程度。生育地周辺の開発などにより生育環境が狭められ、個体数も減少している。

【種概要】日当たりのよい湿地や草原に群生する多年草。花期は6~7月で、花茎は高さ40~100 cmとなり、赤紫色の花を咲かせる。

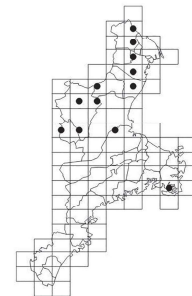
【分布】国内では北海道、本州、四国、九州。県内では北勢、中勢、南勢、伊賀地域などに点在する。

【現況・減少要因】大規模な開発などにより生育する湿地が減少している。また、湿地の環境変化も大きく、生育地内への帰化植物などの侵入もみられ、本種の個体数も減少してきている。

【保護対策】本種の移植は容易であるが、生育地の湿地環境が保護されることが重要である。安易な移植は慎むべきである。

(桐生定巳)

(写真：いなべ市，2012年，市川正人撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ヤマトユキザサ

Maianthemum viridiflorum (Nakai) H.Li

被子植物 クサスギカズラ科

【選定理由】既知の生育地点数は3。三重県内で確認できる自生地は、今のところ台高山脈北部のみであるが、他所で発見される可能性も否定できない。

【種概要】山地帯から亜高山帯下部の樹林下に生育する多年草。ユキザサに似るが、ユキザサの花は雌雄同株、柱頭は丸いか浅く3裂するのに対し、ヤマトユキザサは雌雄異株、柱頭は深く3裂する。花期は6~7月。

【分布】日本固有種。奈良県以北の本州に分布。県内では台高山脈北部からの標本記録および矢頭による三重大学平倉演習林(1969年)および大台ヶ原の日出ヶ岳(1972年)からの報告がある。

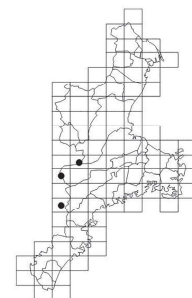
【現況・減少要因】日出ヶ岳および三重大学平倉演習林での現況は不明。ニホンジカの食害により絶滅した可能性もある。台高山脈北部自生地は2012年に新たに確認されているが、ニホンジカが容易に侵入できないような崖地や岩上にかろうじて生存している状況である。

【保護対策】ニホンジカの食害対策が必要。

【文献】48, 100, 138, 139.

(山本和彦)

(写真：松阪市，2013年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

クロホシクサ

被子植物 ホシクサ科

Eriocaulon parvum Körn.

【選定理由】既知の生育地点数はおよそ30と比較的多く点在するものの、その個体数は少ない。また開発圧が強く、減少傾向にある。

【種概要】湿地に生える高さ5~20 cmの1年草。8~9月頃茎頂に直径4~5 mmの藍黒色の球形の頭花をつける。ホシクサに類似するが雌花には花弁があり、葯は藍黒色である。

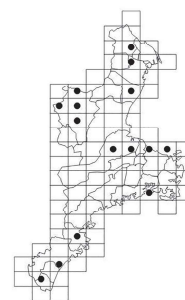
【分布】朝鮮半島。国内では本州から九州。県内では、桑名市、いなべ市、四日市市、鈴鹿市、伊賀市、松阪市、鳥羽市、南伊勢町、尾鷲市、熊野市、紀宝町で記録がある。

【現況・減少要因】県内では、湿地、溜池の周辺、水田等に点在しているが、埋め立て、改修、土地整備、乾田化、農薬汚染等により減少が著しい。

【保護対策】既知の生育地の保全について十分な見当が早急に必要である。

【文献】43.

(加田勝敏)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

ゴマシオホシクサ

被子植物 ホシクサ科

Eriocaulon senile Honda

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。全国的にも生育地の少ない植物である。あらたな生育地が確認され、個体数も増加したことにより、ENからVUに変更となった。

【種概要】休耕田など湿った草地に生える1年草。根生葉は長披針形で幅は広い。頭花は黒っぽくて大きい。花期は10月頃である。

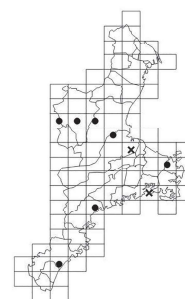
【分布】国内では本州（静岡県、三重県、兵庫県）、九州（熊本県、宮崎県、福岡県、鹿児島県）。県内では津市、伊賀市、松阪市、鳥羽市、南伊勢町、紀北町、熊野市で生育の記録がある。

【現況・減少要因】津市と松阪市は湿った休耕田、鳥羽市は湿地で生育が確認されている。しかし、松阪市の生育地は農業基盤整備の工事のため、南伊勢町のそれは太陽光発電施設設置によりごく最近、消滅した。また、鳥羽市の生育地には開発計画がある。熊野市の記録は古い標本によるものであり、現況は不明。

【保護対策】全国的にも少ない種であるので、生育地はできるだけ現状のままにして保護することが望ましい。

【特記事項】県のカテゴリーはENからVUに変更になったものの生育地が増えることはないため、継続して保全していく必要がある。

(山路武夫・岡田峰尚)



三重県 2025

VU

三重県 2015

EN

環境省 2020

EN

ヒメコウガイゼキショウ

被子植物 イグサ科

Juncus bufonius L.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下で、個体数は1,000未満である。

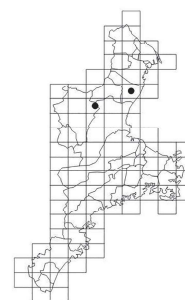
【種概要】湿った畑や道端に生える1年草。茎は約20 cmで叢生する。葉は茎より短く、細くてやや平たく、溝がある。花期は6~9月。花はまばらに凹集散花序を呈し、苞は葉状で花序枝より短い。外花被片は4~5 mm、内花被片は少し短い。果実は3稜状長楕円形である。

【分布】日本全土。県内では鈴鹿市、亀山市、伊賀市。国外では温帯~暖帯域。

【現況・減少要因】現在、生育は維持されているが、特に土地造成に伴う減少に注意を払いたい。

【保護対策】生育環境の保全が必要である。

(市川正人)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ミヤマジュズスゲ

被子植物 カヤツリグサ科

Carex dissitiflora Franch. subsp. *dissitiflora*

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であるが、個体数は1,000未満である。

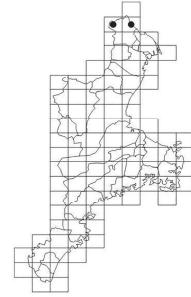
【種概要】山中のやや湿った林下に生える全草淡緑色で柔らかいヒゴクサ類のスゲである。やや叢生し、稈は高さ40~80 cm。葉は比較的少なく、幅は5 mmほど。基部の鞘は暗褐色。5~7月に花をつけ小穂は4~6個。極めて離れてつき雌雄性である。鱗片は長卵形、果胞は披針形で長さ約1 cmである。固有種。

【分布】北海道、本州、四国、九州。県内ではいなべ市で記録されている。

【現況・減少要因】山地林下にかなり広く生育しているが、密度は低い。シカ被害が認められる。

【保護対策】シカ被害防止を含め、生育地の保全を要する。

(市川正人)



三重県 2025	VU
三重県 2015	VU
環境省 2020	—

ヤマアゼスゲ

被子植物 カヤツリグサ科

Carex heterolepis Bunge

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。各地点の個体数は少なく、減少傾向にある。

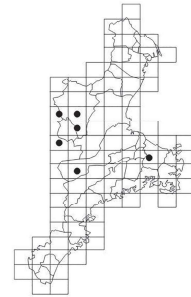
【種概要】渓谷沿いの水辺や水湿地に生える稈の高さが20~60 cm、太い地下茎を持ち、まばらに叢生する多年草。基部の鞘は淡褐色で糸網ができる。葉は3~6 mm。花は5~6月、花穂は3~7個で頂花穂は雄性、側花穂は長さ1.5~6 cm、幅4~5 mmの雌性で上部ほど短い。果胞は長さ2.5 mm、平たく、表面は平滑で口部は小さく2裂して嘴となる。

【分布】北海道、本州、四国、九州。県内では菰野町、亀山市、津市、伊賀市、名張市、松阪市、伊勢市で記録されている。国外では中国北部、ウズリ。

【現況・減少要因】少なくとも名張市では現在も生育している。湿地開発や河川開発が減少要因となる。

【保護対策】生育環境に負荷のかかる改変や不要不急以外の開発は実施しない。

(市川正人)



三重県 2025	VU
三重県 2015	VU
環境省 2020	—

ウマスゲ

被子植物 カヤツリグサ科

Carex idzuroei Franch. et Savat

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。新たな生育地情報追加により評価の結果、VUと判定した。

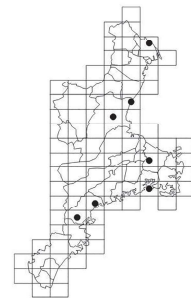
【種概要】低湿地に生える多年草。やや叢生し長い地下茎がある。雌小穂はやや離れてつき、下方のものには短い柄がある。果胞は狭卵形で脈が多く、長さ約10 mm、長い嘴を持つ。茎は高さ40~60 cmで5~6月に熟す。

【分布】国内では本州（関東以西）から九州。県内では北勢、中勢、南勢、紀州地域に散見される。

【現況・減少要因】中勢や南勢地域の中には、50年以上前の標本記録があるが、現状は不明。近年の記録がある数ヶ所の生育地は、今のところ健在。しかし近くまで埋め立てが迫っている生育地もあり、存続が懸念される。他の自生地でも、今後埋め立てや遷移の進行により減少する可能性がある。

【保護対策】埋め立て等による消失を避ける必要がある。また、自生地周辺の草刈りなど、適切な管理による現環境の維持も大切である。水辺周辺の定期的な草刈りにより、本種の生育が確認されるようになったところもある。

(山本和彦)



三重県 2025	VU
三重県 2015	EN
環境省 2020	—

アズマスゲ

Carex lasiolepis Franch.

被子植物 カヤツリグサ科

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。各生育地の個体数は250未満である。

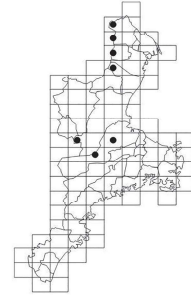
【種概要】山地の、とくに岩石の多い疎林の斜面に生える。全体に開出する軟毛がはえ、茎は高さ5~15 cm。果胞は鋭三稜形で、4~6月に熟す。

【分布】国内では北海道（日高）、本州から九州の山地。県内では鈴鹿山系と津市大洞山に、過去には松阪市の局ヶ岳にも記録がある。

【現況・減少要因】鈴鹿山系の鎌ヶ岳・羽島峰・藤原岳、中勢の大洞山などに点々とみられる。安定した林内の所もあれば、登山道近くで環境の変化を受けて減少する可能性がある。

【保護対策】登山道の整備による環境の変化や土砂の流出による崩壊を防がなければならない。

(山脇和也)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

キノクニスゲ

Carex matsumurae Franch.

被子植物 カヤツリグサ科

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。一部の生育地には開発圧がある。

【種概要】暖地の海岸近くの常緑樹林下に生える。匍枝がなく大株となる。葉は深緑色でほとんどざらつかない。茎の長さ30~40 cm。葉は厚く光沢があり幅8~12 cm。

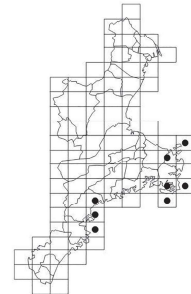
【分布】国内では本州（富山県、愛知県以西）、四国、九州。国外では朝鮮半島に分布。県内では鳥羽市、志摩市、紀北町、尾鷲市に生育する。

【現況・減少要因】本土では人為的な開発が進み、現在の生育地は島しょ、社寺林、灯台の周辺等にしか残されていない。生育地が限定されており、個体数も多くないので、開発や採取についての配慮が必要である。

【保護対策】目立たない植物であるので、関係機関や地域住民に対する周知が必要である。また、採取についても自粛等を啓発すべきである。

【特記事項】鳥羽市御木本真珠島に生育する個体は市の天然記念物に指定されている。

(岡 与一・半田俊彦)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

サワヒメスゲ

Carex mira Kük.

被子植物 カヤツリグサ科

【選定理由】既知の生育地点数は10前後である。

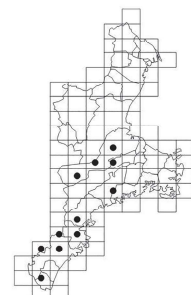
【種概要】おもに溪流の岸辺に生える多年草。茎は高さ20~40 cm。小穂は2~4個が接続してつく。頂小穂は雄性で長さ15~20 mm、黒赤褐色で、広線形。他は雌性で、柄がなく、長楕円形、長さ5~10 mm。

【分布】国内では本州（近畿、中国地方）、四国。国外では朝鮮半島に分布。県内では松阪市、多気町、大紀町、紀北町、尾鷲市、熊野市、紀宝町などからの記録がある。

【現況・減少要因】県内ではおもに溪流の岸辺でみられ、個体数も安定しているが、新たな護岸工事による自生地の消失が懸念される。

【保護対策】治山工事や河川工事の際には、できるだけ溪流周辺の環境を保全する配慮が必要である。

(山本和彦)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

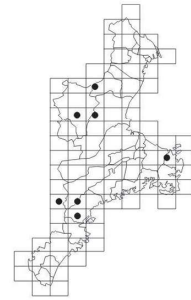
コミヤマカンスゲ

被子植物 カヤツリグサ科

Carex multifolia Ohwi var. *toriiiana* T.Koyama

【選定理由】既知の生息地点数は10以下。各生育地の個体数は少ない。
 【種概要】木漏れ日のあたる林内や林縁に生え、小さく叢生し、程が20~30 cmの多年草。細長い地下茎を数本匍匐させ、種子で増えるが栄養繁殖もする。葉は細く幅3~6 mm。鱗片は基部の鞘とともに赤褐色である。果胞は長さ3.5~4 mmで毛がある。固有種。
 【分布】本州（関東南部から近畿）。県内では亀山市、伊賀市、名張市、大台町、伊勢市、尾鷲市で記録がある。
 【現況・減少要因】それぞれの生育環境は安定し、生育は維持されている。植生遷移が減少要因となる。
 【保護対策】植生遷移の進行に注意し、現状維持を図る。
 【特記事項】県内のミヤマカンスゲ類には5変種があり、同定に注意を要する。
 【文献】104.

(市川正人)



三重県 2025
VU
三重県 2015
VU
環境省 2020
—

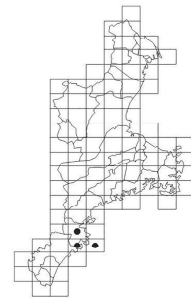
キシウナキリスゲ

被子植物 カヤツリグサ科

Carex nachiana Ohwi

【選定理由】生育地点数は10以下であり、各地点の個体数は極めて少ない。
 【種概要】暖地の林内で9~10月に花をつける多年草で、80~120 cmの大形、頂小穂も雌雄性のスゲ類である。果胞は長さ3.5~4.5 mmでナキリスゲ類では大きく円盤形で、縁に短い毛が多く、両面はほとんど円滑である。
 【分布】本州、四国、九州。県内では尾鷲市、熊野市で記録がある。海岸部に生えるが、海岸部を含め他地域の新産地が期待される。国外では中国。
 【現況・減少要因】少なくとも尾鷲市の3か所で生育している。土地の改変が減少要因となる。
 【保護対策】個体数は少ないが、土地造成などの開発行為がなければ生育維持は可能である。

(市川正人)



三重県 2025
VU
三重県 2015
VU
環境省 2020
VU

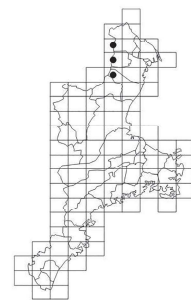
ヒメスゲ

被子植物 カヤツリグサ科

Carex oxyandra (Franch. et Sav.) Kudô var. *oxyandra*

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。各生育地の個体数は250未満である。
 【種概要】山地または高山の林地や草地に生える多年草。茎は高さ10~30 cm、細くて果時には倒れる。葉は鮮緑色で、幅は2~3 mm。果胞は5~7月に熟す。和名は姫菅で全体が小形であるため。
 【分布】国内では北海道から九州。国外では樺太、千島、台湾に分布。県内では北勢地域の鈴鹿山系に分布。
 【現況・減少要因】個体数はそれほど多くない。施設の整備や観光客の増加で減少する可能性がある。
 【保護対策】登山道や施設の管理を十分に行い、各生育地への影響を抑える必要がある。

(山脇和也)



三重県 2025
VU
三重県 2015
VU
環境省 2020
—

ツルミヤマカンスゲ

被子植物 カヤツリグサ科

Carex sikokiana Franch et Sav.

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

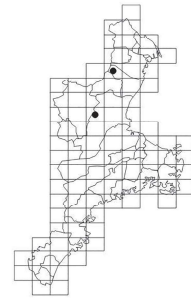
【選定理由】既知の生育地点は5以下である。

【種概要】株はやや叢生するが、地上性の太い匍枝があり他のミヤマカンスゲ類と区別される。果胞はやや大形で無毛。基部の鞘は紫褐色。

【分布】日本固有種。本州（神奈川、静岡、三重、兵庫県）、四国、九州（北部）。県内では鈴鹿山系南部と伊賀市青山高原に分布する。

【現況・減少要因】林縁の草地やササの中に生え、減少要因は伐採やニホンジカの食害。

【保護対策】伐採時に注意を払い、ニホンジカを寄せつけない対策が必要。
(山脇和也)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

フサナキリスゲ

被子植物 カヤツリグサ科

Carex teinogyna Boott

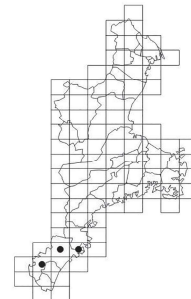
【選定理由】既知の生育地点数は10以下。各生育地の個体数は250未満である。

【種概要】根茎が短く密に創生する多年草。他のナキリスゲ類は山地や海岸などに生えるが、本種は溪流の岩上やその周辺に生育する。8～10月頃、開花結実する。柱頭は長く、果胞の約2倍で宿存する。

【分布】本州（近畿以西）、四国、九州。県内では、尾鷲市、熊野市、紀宝町に記録がある。国外では朝鮮、中国、東南アジア、インド。

【現況・減少要因】現時点では大きな変動は見られないが、生育地点が限られ、流域に限定されているため、林道工事や護岸工事等の影響を受ける可能性が高い。

【保護対策】小規模工事であっても事前に環境影響評価を実施し、対策する必要がある。
(加田勝敏・市川正人)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

オニナルコスゲ

被子植物 カヤツリグサ科

Carex vesicaria L.

【選定理由】既知の生育地点数は1。本種は西日本での分布が局限される。遷移による生育環境（湿原）の悪化が懸念される。

【種概要】湿原に生育する多年草。地下匍枝を持ち、茎は高さ40～100 cm。葉は幅3～9 mm、葉鞘は血赤色を帯び、少し糸毛がある。上方の数個の小穂は雄性で線形、下方の数個の小穂は雌性で円柱形、長さ3～7 cm。果胞は長さ6～8 mm、上方はやや急に嘴となる。果胞は瘦果にくらべてかなり大きく、瘦果との間には大きな空隙が形成されるのが特徴。

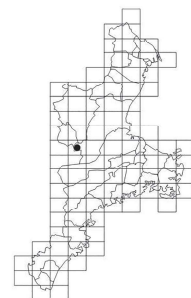
【分布】国内では、北海道、本州（広島県と近畿以北）、九州（大分県、宮崎県）。国外では、北半球の温帯に広く分布。県内では、津市に分布。

【現況・減少要因】現状は比較的安定しているが、乾燥化とそれともなう遷移の進行（灌木の侵入と繁茂）が進みつつある。

【保護対策】生育地の開発を規制するとともに、遷移進行を抑制する必要がある。

【文献】15.

(藤井伸二)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

オオシロガヤツリ

被子植物 カヤツリグサ科

Cyperus nipponicus Franch. et Sav. var. *spiralis* Ohwi

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、各生育地の個体数は250未満である。

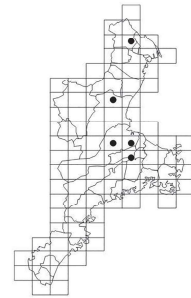
【種概要】溜池のへりや放棄田などの湿地に生える1年草で、叢生し株立ちをする。稈は5~25 cmで細い。葉は稈より短く淡緑色で細い。基部の鞘は赤紫色、苞葉は2~4枚で葉状である。7~11月頃、円筒状の小穂に20~40個の花を螺旋状につける。柱頭は3岐。瘦果はアオガヤツリに似て倒卵形である。

【分布】本州（近畿地方以西）、四国。県内ではいなべ市、桑名市、津市、松阪市、明和町、多気町の溜池内湿地にみられる。国外では中国に分布する。

【現況・減少要因】水位が下がると、露出した砂泥中で休眠種子が発芽することから、条件が整えば新産地が期待される植物である。湖沼開発が減少要因となる。

【保護対策】生育地の環境を現状のまま維持する。

(市川正人)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

シロガヤツリ

被子植物 カヤツリグサ科

Cyperus pacificus (Ohwi) Owhi

【選定理由】既知の生育地点数は15程度。放棄された水田や溜池の周りに点々と存在するが、整備や改修で激減することが考えられる。

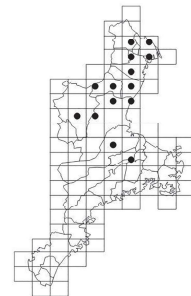
【種概要】平地の湿地に生えるアオガヤツリによく似たやわらかい1年草。花序は頭状で球形。密に多数の小穂をつける。小穂は長さ3~5 mmで、やや扁平でふつう2列に並ぶ。8~10月に熟す。

【分布】国内では北海道、本州。国外では朝鮮半島に分布。県内では、北勢、中勢、南勢、伊賀の各地域に分布。

【現況・減少要因】桑名市、いなべ市、四日市市、亀山市、津市、伊賀市、松阪市、多気町などの池や湿地に生育する。湿地の整備や開発により減少が予想される。

【保護対策】生育地では圃場整備や埋め立てなどの開発を避けなければならない。

(山脇和也)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ビロードテンツキ

被子植物 カヤツリグサ科

Fimbristylis sericea (Poir.) R.Br.

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。各地点の生育個体数は250以下である。生育地が海浜であり、不安定な状況下にある。

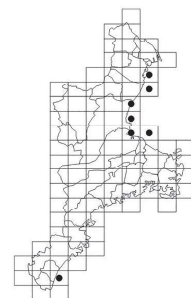
【種概要】海岸の砂地に生える高さ10~30 cmの多年草。茎・葉ともにビロード状の絹毛が密生する。7~10月に茎頂に3~15個の小穂を頭状につける。

【分布】本州（茨城県、富山県以西）、四国、九州。県内では四日市市、津市、明和町、伊勢市、鳥羽市、紀宝町に記録がある。国外では中国、台湾、インド、インドネシア、オーストラリア。

【現況・減少要因】北勢地方の海岸の大半は埋立・防災対策により生育環境がほとんど残存しない。現存する生育地も開発圧が強く、護岸工事・埋立・公園化などによる生育環境消失・悪化により減少傾向にある。

【保護対策】開発・土地改変などで生育環境の消失・悪化が懸念される状況下にある。十分な保護対策が必要である。

(加田勝敏・市川正人)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

アゼテンツキ

被子植物 カヤツリグサ科

Fimbristylis squarrosa Vahl

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

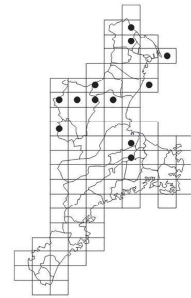
VU

NT

DD

【選定理由】既知の生育地点数は15以下であり、減少傾向である。
 【種概要】山間の湿地や池の周りに生える小形の一年草。コアゼテンツキに似て、高さ15 cm程度、小穂は多数、鱗片の中肋が長く伸び芒となる。柱基に絹毛があるのが特徴。これによく似たメアゼテンツキは鱗片の芒は長く伸びない。
 【分布】北海道、本州、四国、九州に分布する。世界の暖帯、熱帯に多い。県内では、いなべ市、桑名市、四日市市、伊賀市、津市、多気町、明和町に記録がある。
 【現況・減少要因】開発により湿地や溜池が減少してきている。環境の変化も生育地を狭めている。
 【保護対策】無理な開発をなくし、生育地の水利の確保や湿地周辺の草刈等を適度にする。

(南 正祝・山本和彦)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

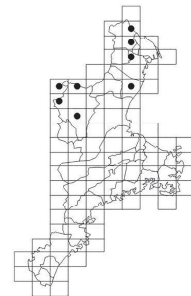
ミカヅキグサ

被子植物 カヤツリグサ科

Rhynchospora alba (L.) Vahl

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、生育立地が限られている。
 【種概要】湿地に生える多年草で、高さ10~60 cm。小穂は披針形で淡白色。果実は倒卵形で長さ2~2.5 mm。7~10月に熟す。
 【分布】国内では北海道、本州（関西以西は少ない）、九州（まれ）。国外ではヨーロッパ、アジア、北アメリカ北東部の湿地に分布。県内では標高の低い湿地にも生育する。北勢地域と伊賀地域で記録がある。
 【現況・減少要因】いずれも、湧水に涵養された丘陵地に生育するもので、開発による立地の減少が危惧される。
 【保護対策】生育地は湿地であるので、湿地全体の保全が重要である。

(後藤稔治・岡田峰尚)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

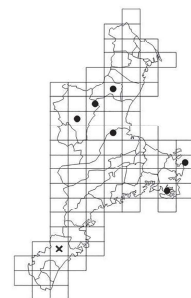
トラノハナヒゲ

被子植物 カヤツリグサ科

Rhynchospora brownii Roem. et Schult.

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、生育個体数も少ない。
 【種概要】湿った草地に生育する多年草。草丈は60~80 cmあるが茎も葉もたいへん細い。花期は8~9月、分花序は2~3個、柄は少し垂れ下がる。
 【分布】国外では東南アジア。国内では本州（愛知県以西）から九州。県内では伊賀市、亀山市、松阪市、鳥羽市、志摩市、熊野市等で記録がある。
 【現況・減少要因】松阪市の生育地は溜池堤防の漏水箇所、個体数は少ない。他の生育地においても個体数は多くないと思われる。減少しているかどうかは不明な点が多いが、もともと生育地点数個体数はともに少ない。
 【保護対策】生育地では時々草を刈るなどの管理が必要である。

(山路武夫・半田俊彦)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

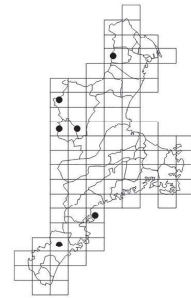
哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類

タイワンヤマイ

被子植物 カヤツリグサ科

Schoenoplectiella wallichii (Nees) Lye

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。各生育地の個体数は少ない。
 【種概要】山間の湿地や水田に生える15~40 cmの叢生する多年草。稈は細く4~5稜の円柱形で緑色である。苞は類似のホタルイ類に比べて6~16 cmと長く目立つ。小穂は1~2 cm、淡緑色、狭楕円形で先が尖る。鱗片は長さ約4 mmの倒卵形。果実は1.5~1.8 mmの広倒卵形で平たい凸レンズ形、柱頭は2個、刺針状花被片は4~5本で果実の約2倍である。
 【分布】本州、四国、九州。県内では菰野町、亀山市、伊賀市、名張市、紀北町、熊野市、御浜町で記録されている。国外では朝鮮、台湾、マレーシア、中国、インド。
 【現況・減少要因】圃場整備、湿地開発など土地造成で減少傾向にある。農薬散布の影響も考えられる。
 【保護対策】不要不急の湿地開発を慎むこと。水田耕作は自然農法を用いたい。
 【特記事項】ホタルイやイヌホタルイに似るが、苞が長いため、外見的に識別できる。
 (市川正人)



三重県 2025	VU
三重県 2015	VU
環境省 2020	—

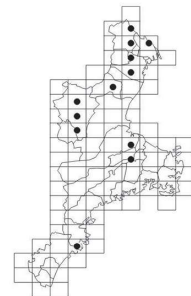
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ

マツカサススキ

被子植物 カヤツリグサ科

Scirpus mitsukurianus Makino

【選定理由】既知の生育地点数は20以下であり、各生育地の個体数も少ない。
 【種概要】稈は高さ1~1.5 m、5~7個の節がある。葉は線状で革質、巾4~8 mm。上部で多くの枝を分け、その小枝の頂に長楕円形で、褐色の小穂10数個、頭状につけ、その径は1.5 cmくらいである。小穂は長さ5 mm、リン片は小形で赤褐色の線状披針形、先端は鋭く、短く尖り、中脈は緑色。瘦果は極めて長く屈曲する6本の刺針状花被片を伴い、小形で狭倒卵形をなし、先端はクチバン状、黄白色。花柱は3裂する。花期は8~10月。日当たりの良い湿地を好む。
 【分布】日本固有種。本州、四国、九州の暖温帯。県内ではいなべ市、桑名市、四日市市、亀山市、伊賀市、名張市、松阪市、多気町、玉城町、熊野市に分布する。
 【現況・減少要因】耕地整理、溜池改修、土地の改変等により、生育地はせばめられている。
 【保護対策】生育地の土地の改変、溜池や湿地の改修、耕地整理などの人為圧を排除することが必要である。
 【特記事項】和名は小穂集団を松かさに見立てたものである。
 【文献】43。
 (葛山博次)



三重県 2025	VU
三重県 2015	VU
環境省 2020	—

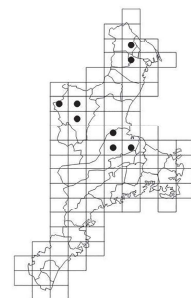
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ミカワシンジュガヤ

被子植物 カヤツリグサ科

Scleria mikawana Makino

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。生育地は湿地であり、開発や遷移の進行によって減少するおそれがある。
 【種概要】明るい湿性草地に生育する一年草または多年草。茎は三稜形で稜に翼はない。花期は7~9月。果の格子紋に光沢がない。
 【分布】国外ではインド、ニューギニア、アフリカ。国内では本州（千葉県以西）、九州。県内ではいなべ市、伊賀市、松阪市、玉城町で記録がある。
 【現況・減少要因】池の岸や草地でまれにみられる。遷移の進行や開発工事で生育地は減少している。
 【保護対策】生育地の草刈りも必要であるが、湿地はその水源も含めて開発しないことが一番大切である。
 (山路武夫)



三重県 2025	VU
三重県 2015	VU
環境省 2020	VU

ケシンジュガヤ

被子植物 カヤツリグサ科

Scleria rugosa R.Br. var. *rugosa*

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

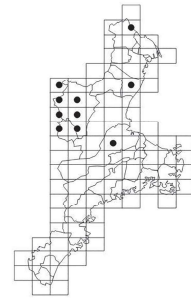
【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、生育立地が限られている。

【種概要】一年草。全体が小さく高さ10~30 cm、やわらかく、白色開出毛がある。果実は球形で、不完全な格子紋と光沢がある。無毛のものをマネキシンジュガヤとして区別することがある。

【分布】国内では本州（千葉県以西）から沖縄。国外では台湾、朝鮮半島、マレーシア、インド、オーストラリアの湿地に分布。県内では北勢地域、伊賀地域、中勢地域で記録がある。

【現況・減少要因】山間、丘陵地の湿地や溜池の周囲にみられるが、開発による立地の減少が危惧される。

【保護対策】生育地は湿地であるので、湿地全体の保全が重要である。
(後藤稔治)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ナルコビエ

被子植物 イネ科

Eriochloa villosa (Thunb.) Kunth

【選定理由】既知の生育地は15以下。各地点の生育個体数は100を超えるが、生育地は人為的影響を受けやすい丘陵地~平野部の草地であるため開発圧が強い。

【種概要】日当たりの良い草原に生え、全草多毛の多年草。高さ50~100 cmになる。葉は長さ10~25 cmで細長い。花期は7~8月頃。花序は長さ7~10 cmで一方向に3~7本の毛の多い総を下向きに着ける。小穂は4.5~5 mm、柄は毛が多い。

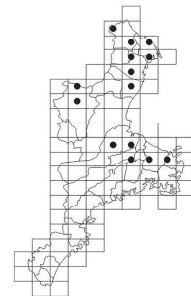
【分布】北海道から九州。県内では、いなべ市、桑名市、四日市市、鈴鹿市、亀山市、松阪市、伊賀市。国外では中国、ウズベキスタン、コーカサス、イラン。

【現況・減少要因】多い所では1地点で100以上の個体数があるが、少ないところでは数個体の所もある。生育地が主に人里の草地であるため人為の影響を強く受ける。

【保護対策】イネ科で目立たない植物であるため、本種についての希少性や保全について地域の人に十分な理解を促すことが重要である。

【文献】47。

(加田勝敏・市川正人)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ウンヌケモドキ

被子植物 イネ科

Eulalia quadrinervis (Hack.) Kuntze

【選定理由】既知の生育地点数は10程度であり、各地点の個体数は50未満である。減少傾向が著しい。

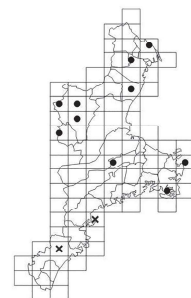
【種概要】日当たりの良い原野に生える多年草。叢生して直立し株をつくる。外見的にはウンヌケに似る。稈の高さは60~100 cmで基部はほとんどふくれない。基部の鱗片状鞘外面はウンヌケでは黄褐色の短毛を密生するが、本種ではほとんど毛がなくやや光沢を帯びる。また、ウンヌケが葉身の基部に毛のあるほかは無毛であるのに対し、本種では両面にまばらに短毛がある。

【分布】本州（関東地方以西）、四国、九州。県内では、桑名市、四日市市、鈴鹿市、亀山市、伊賀市、名張市、多気町、鳥羽市、志摩市、紀北町、熊野市、御浜町で記録がある。溜池の土堤にみられることが多い。国外では朝鮮、中国、東南アジア、インド。

【現況・減少要因】各生育地の個体数は少なく、消滅地も認められる。開発や土手の改修、遷移の進行による植生変化が減少要因になる。

【保護対策】開発を抑制するとともに生育時期を考慮した草刈り等で遷移の進行を止め、生育環境を現状のまま維持する必要がある。

(市川正人)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

トウササクサ

被子植物 イネ科

Lophatherum sinense Rendle

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下。各生育地の個体数は250未満である。

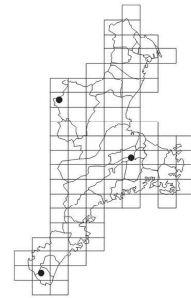
【種概要】 林地に生える多年草。ササクサによく似ているが、個体数は少ない。小穂は狭卵形で、扁平となり明らかに背面がふくらむ。花期は8~10月。

【分布】 国内では本州（北陸，近畿以西）から九州。国外では中国（中部）に分布。県内では伊賀，南勢，紀州地域で記録。

【現況・減少要因】 多気町多気と紀宝町の2か所で現存が確認されている。過去には伊賀地域にも記録がある。溜池改修や土地整備で減少する可能性がある。

【保護対策】 生育場所を保護する必要がある。

(山脇和也)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

タチネズミガヤ

被子植物 イネ科

Muhlenbergia hakonensis (Hack.) Makino

【選定理由】 生育地点数は5以下。個体数は不明。

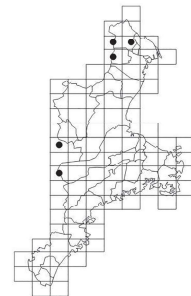
【種概要】 温帯林中に見られる多年草。根茎は長く、革質で光沢のある鱗片に包まれている。稈は直立し、高40~80 cm，ほとんど枝を分けない。花序は円錐状で枝が短く、きわめて細く、直立する。小穂は1小花からなり、灰緑色で長い芒を伸ばす。

【分布】 関東以西の本州，四国，九州。国外では済州島，中国に分布。県内では桑名市，いなべ市，菰野町，名張市，松阪市からの記録がある。

【現況・減少要因】 松阪市の自生地は健在であるが，他地域の現況は不明。ニホンジカの食害が進んでいるものと思われる。

【保護対策】 ニホンジカの食害対策が必要。

(山本和彦)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

アイアシ

被子植物 イネ科

Phacelurus latifolius (Steud.) Ohwi

【選定理由】 既知の生育地点数は20以下と比較的多いが，生育地は改変の影響を受けやすく不安定である。

【種概要】 海にのぞむ湿地に群生する大形多年草で根茎を引いて繁殖する。茎は直立し，高さ1.5 m内外に達し，葉と共に硬質で無毛。葉は長さ20~40 cm，巾平均2 cm，質は厚く，先端は鋭く尖り，下部は長い鞘となって茎を包む。6月，茎頂に穂状花序を密に互生，紫色を帯びる。護穎と内穎は紙質で芒はない。

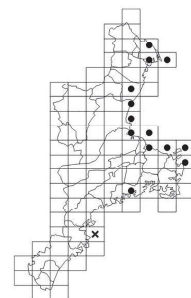
【分布】 国内では北海道，本州，四国，九州。国外では中国，朝鮮半島の暖温帯から冷温帯。県内では伊勢湾岸および熊野灘沿岸の海岸砂浜や河口に分布する。

【現況・減少要因】 1950年頃までは伊勢湾岸およびそれに注ぐ河川の下流域に広く分布していたが，海岸砂浜や河口の改変が進行し，生育地は減少している。

【保護対策】 海岸砂浜や河口付近の開発圧，その他の人為圧を抑止する必要がある。

【文献】 34， 55， 57， 64。

(葛山博次)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ムカゴツヅリ

被子植物 イネ科

Poa tuberifera Faurie. ex Hack.

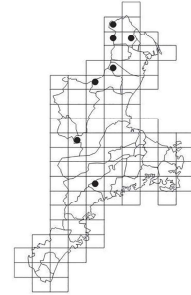
【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、各地点の個体数は250未満である。

【種概要】多湿な山地にみられる多年草。稈はやや叢生し、高さ20~40 cmである。基部に球形状の肥厚部を持つ。葉は2~4 mm、明緑色で柔らかい。4~6月にきわめてまばらに花序をつける。花序の枝は1~3本ずつ出て2~4個の小花からなる小穂をつける。固有種。

【分布】本州、四国、九州の温帯域。県内では桑名市、いなべ市、東員町、亀山市、津市、松阪市、伊賀市、大台町、大紀町で記録されている。

【現況・減少要因】軟弱な植物であるが、生育場所から見て持続可能であろう。

【保護対策】継続的に生育状況の把握を行い、環境を維持する必要がある。
(市川正人)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蕨類

藻類

キノコ

ウキシバ

被子植物 イネ科

Pseudoraphis sordida (Thwaites) S.M.Phillips et S.L.Chen

【選定理由】既知の生育地点数は20以下。溜池の開発や改修のため、減少傾向にある。

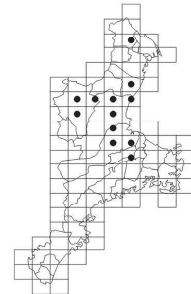
【種概要】無毛の多年草で、多くは水上に広がって浮かび、上方は短く斜上し、長さ60 cmになる。葉は線形で、枝は多数まばらにつき、小穂を1個つける。小穂は長さ4~5 mmで、枝に圧着する。花期は8月。

【分布】国内では本州から九州の湿地、沼のほとりにややまれに生える。国外では朝鮮半島、中国に分布。県内では中勢、南勢、および伊賀地域。

【現況・減少要因】生育地では湿地も池の開発や改修で減少する可能性が高い。

【保護対策】溜池や湿地を保護することが大切である。

(山脇和也)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ワセオバナ

被子植物 イネ科

Saccharum spontaneum L. var. *arenicola* (Ohwi) Ohwi

【選定理由】既知の生育地点数は2。個体数は250未満である。

【種概要】海岸や河川河口部の堤防などに生え、高さが1 mを越える大形の多年草。太い根茎があり、稈は束生し直立する。葉身はススキに似て線形で、長さ30~70 cm、幅4~6 mm、葉鞘の縁や後部には長毛が生える。葉舌は高さ2~3 mm。花序は総状で30 cm前後、総ともに直立する。小穂は長さ4~5 mmで基部に長白毛が輪生する。芒は無い。花期は8~9月。固有種。

【分布】本州（関東南部~東海）。県内では木曾岬町、桑名市に記録がある。

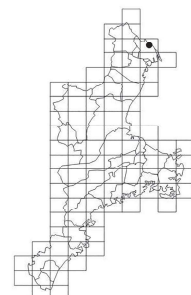
【現況・減少要因】桑名市の群落は法面除草で定期的に除草されるため、生育環境が維持され、比較的安定している。

【保護対策】生育時宜を配慮した草刈を実施し、植生遷移を進行させないこと。また、河川改修時には注意を要する。

【特記事項】類似種として国外（旧大陸の熱帯・亜熱帯）や九州南部に分布するナンゴクワセオバナがある。

【文献】31。

(市川正人)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

オニシバ

被子植物 イネ科

Zoysia macrostachya Franch. et Sav.

【選定理由】 既知の生育地点数は10以下であり、各生育地の個体数は1,000未満。

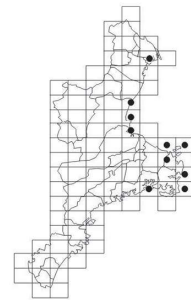
【種概要】 海岸の砂地に生える多年草。走出枝は地下を横に走り、稈はその節から立ち、高さ10～20 cm。小穂は長楕円形で、長さ6～8 mm、幅2 mm内外。

【分布】 北海道（西南部）、本州、四国、九州、沖縄に分布。県内では川越町、津市、松阪市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町等の砂浜からの標本記録がある。

【現況・減少要因】 津市の標本記録は80年ほど前のものであり、現状は不明。他の地域は現存するが、個体数はそれほど多くはない。自然度の高い砂浜にみられ、県内ではナガミノオニシバより少ない。

【保護対策】 本種だけでなく多くの海岸植物が、生育地を失わずに将来に渡って存続していけるような海岸部の保全策、開発の抑制が必要である。

(山本和彦)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ヤマキケマン

被子植物 ケシ科

Corydalis ophiocarpa Hook.f. et Thomson

【選定理由】 既知の生育地点数は10以下。各地点の生育個体数は50未満であり、減少傾向にある。

【種概要】 山の半日陰に生育する多年草。茎は高さ40～80 cm、稜角がある。葉は1～2回羽状に複生、葉柄には翼がある。花期は5～6月頃、淡黄緑色の花を総状つける。蒴果は線形で約3 cm、著しく屈曲する。

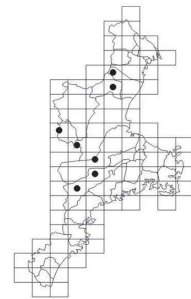
【分布】 本州（関東以西）、四国。県内では亀山市、津市、松阪市、名張市、大台町で記録されている。国外では台湾、中国、インド。

【現況・減少要因】 全生育地点の合計個体数は少ない。生育地の植生遷移など環境の変化に左右され易く、減少傾向にある。

【保護対策】 自生地においては、生育環境の現況を把握し、場合に依じては遷移を止める等の対策を実施する必要がある。

(加田勝敏・市川正人)

(写真：津市，2013年，市川正人撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

オオバメギ

被子植物 メギ科

Berberis tschonoskyana Regel

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下。個体数は少なく、点在している。

【種概要】 高さ2 mほどになる落葉低木。メギに似ているが、枝は少なく、棘はほとんど無く、あっても短い。葉は全縁で薄く、長さ3～8 cm、幅1～2 cmの倒卵形から長楕円形で無毛、裏面は帯白色である。やや長く垂れ下がる総状花序で、黄緑色の3～8花を5～6月に咲かせる。固有種。

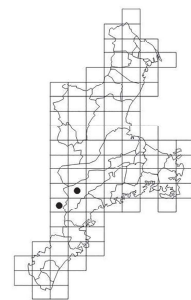
【分布】 本州（関東以西）、四国、九州。県内では大台町で記録がある。

【現況・減少要因】 現存する生育環境が維持されれば持続可能である。

【保護対策】 現在の環境を保つことである。

(市川正人)

(写真：大台町，1934年，小出哲夫採集，三重県総合博物館所蔵)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ルイヨウボタン

被子植物 メギ科

Caulophyllum robustum Maxim.

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下であり、各生育地の個体数はおよそ250未満しかない。

【種概要】 温帯の落葉広葉樹林下に生える多年草。高さ40~70 cm。茎葉は2~3回3出の複葉，第1回小葉柄が長い。花は緑黄色，径8~10 mm，10個内外が集散状につき，4~6月に咲く。

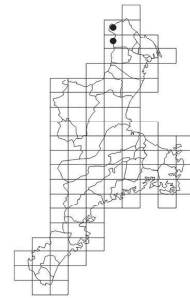
【分布】 国内では北海道，本州，四国，九州。国外では朝鮮半島，樺太，ウスリー，中国に分布。県内ではいなべ市藤原岳，御池岳周辺からの記録がある。

【現況・減少要因】 県内では北勢地域に偏って分布している。落葉広葉樹林の林床にみられるが，個体数は少ない。

【保護対策】 生育地の森林を広い範囲で保全することが必要。

(山本和彦)

(写真：いなべ市，2015年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

ルイヨウショウマ

被子植物 キンポウゲ科

Actaea asiatica H. Hara

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下であり，各地点とも個体数は少ない。

【種概要】 高さ約60 cmほどの多年生草本。茎は粗大で直立し，葉は大形で長い柄があり，2回3出あるいは3回3出。複葉，小葉は卵形または卵状披針形で先が尖り，葉のふちには大小不同の鋭い大形の鋸歯がある。5~6月ごろ葉の中心から直立した1本の茎を出し，上部に1回3出あるいは2回3出の小形の葉をつけ，頂部に総状花序を出し，多数の白色の小花をつける。果実は球形，黒熟し，径は6 mmほど。中に多数の種子がある。

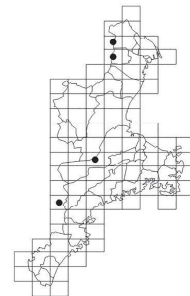
【分布】 日本全土，国外では朝鮮半島，中国，ウスリーの冷温帯。県内ではいなべ市，菰野町，津市美杉町および大台町に分布する。

【現況・減少要因】 山地の薄暗い木陰に生育するが，個体数は少ない。森林の伐採による生育環境や植生の変化により減少したものと思われる。

【保護対策】 自然林に近い落葉広葉樹林やその周辺での人為圧，即ち森林の伐採や土地の改変などを抑止することにより，生育地の保全に努める必要がある。

【文献】 3, 57.

(葛山博次)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

フクジュソウ (エダウチフクジュソウ)

被子植物 キンポウゲ科

Adnis ramosa Franch.

【選定理由】 既知の生育地点は5以下である。多少の開発圧はあるが，個体数は多い。

【種概要】 茎は高さ10~30 cm。しばしば2~3個の花をつけ，萼片は花弁とほぼ等長で托葉があり，花托が有毛で，葉の下面が有毛である点が，他のフクジュソウ属とは異なる。

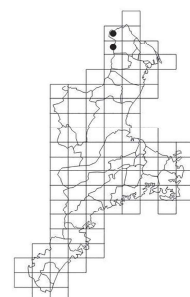
【分布】 日本固有種で，北海道と本州に分布する。県内では鈴鹿山系北部（いなべ市）に分布する。

【現況・減少要因】 個体数は多いが，藤原鉱山の石灰岩採掘により生育地は減少する。また，登山道の周辺の崩壊が甚だしい。

【保護対策】 環境アセスメントも通って開発を抑止することは不可能なので，何千株以上もの消滅するフクジュソウを学校などに移植して，有効に役立てるべきである。土砂に埋もれたり流されたりしないよう登山道を整備して管理しないとイケない。

(山脇和也)

(写真：いなべ市，2014年，市川正人撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

キクザキイチゲ

被子植物 キンポウゲ科

Anemone pseudoaltaica H.Hara var. *pseudoaltaica*

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。個体数が少なく、採取圧を強く受けている。

【種概要】多年草。根生葉は1枚で2回3出に分かれ、裂片はさらに深く裂ける。花茎は10~30 cm、総苞葉は3枚が輪生し、3出複葉で小葉は羽状に深裂する。3~5月頃、苞葉の中心からまっすぐに伸びる花柄を1本出し、先端に淡紫色の花を開く。時には白色もある。花径は2.5~4 cm。がく片は花弁状で10~13個ぐらいあり、線状長楕円形である。花弁はない。おしべは黄色で多数。めしべも多数で、卵形体の子房には白色の短毛が密生している。

【分布】日本固有種。北海道、本州の冷温帯。県内ではいなべ市、菰野町、伊賀市に分布。

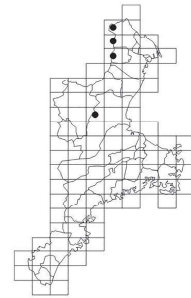
【現況・減少要因】環境変化圧、特に土石の流出は生育地を奪い、さらに生育地で生長する上層木は繁茂して日射をさえぎり生育条件を悪化させている。また、採取圧は後をたたない。

【保護対策】上層木の植被の増大や土石の流出などの環境変化を軽減する措置を講ずることが肝要である。また、踏みつけや採取などの人為圧に対する保全策が急務である。分布情報の公表については慎重な配慮が必要である。

【文献】34, 45, 51, 69, 76.

(葛山博次)

(写真：いなべ市、2015年、市川正人撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

アズマイチゲ

被子植物 キンポウゲ科

Anemone raddeana Regel

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、個体数少なく、採取圧を強く受けている。

【種概要】多年生草本。早春に葉よりも高く茎を出し、先端に3個の葉状苞をつけ、苞には柄があって平開し、3つに全裂する。苞葉の中心から直立した花茎が1本伸び、その先に1個の花が咲く。花茎は2~3 cmほど。がく片は花弁状で10個内外、せまい長楕円形で白色、外面はわずかに紫色をおびる。花弁はない。おしべは多数で黄色。めしべも多数、子房には細毛がある。

【分布】日本全土。国外では朝鮮半島、樺太、アムール、ウスリーの冷温帯。県内では鈴鹿山脈の北部に分布する。

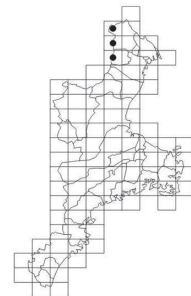
【現況・減少要因】環境変化圧、特に土石の流失は生育地を奪い、さらに上層木の拡大と生長は日射をさえぎり、生育条件を悪化させる。また、採取圧にも脅かされている。

【保護対策】上層木の繁茂による遮光などの環境変化圧を排除することが肝要であり、また、踏みつけや採取などの人為圧を厳しく取締まる必要がある。分布情報の公表については慎重な配慮が必要である。

【文献】34, 45.

(葛山博次)

(写真：菰野町、2014年、池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

シギンカラマツ

被子植物 キンポウゲ科

Thalictrum actaeifolium Sieb. et Zucc.

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、各地点の個体数は250未満である。

【種概要】山地に生える30~70 cm、全体無毛の多年草。斜上する茎はまばらに分枝し、狭い托葉がある。茎葉は数個、2~3回3出複葉で小托葉はない。小葉は2~6 cm、卵形~卵円形で基部はほぼ円形、先は不揃いで大きな鈍鋸歯がある。裏面は灰白色である。7~10月に複散房花序に白い花をつける。萼片は早落する。果実は2~5個、3 mmの卵形で無柄、1 mmの宿存する花柱と曲がった柱頭があり、10稜がある。固有種。

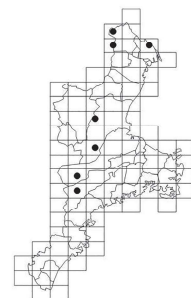
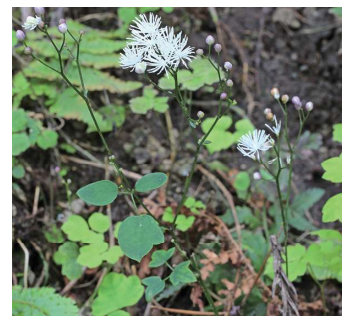
【分布】本州（関東地方以西）、四国、九州。県内ではいなべ市、桑名市、菰野町、伊賀市、津市、松阪市、大台町で記録されている。

【現況・減少要因】少なくもいなべ市、大台町では現存するが減少傾向にある。土砂崩壊や人為的踏みつけ、遷移が減少要因となっている。

【保護対策】植生遷移の進行に注意し、現在の環境を維持する。

(市川正人)

(写真：松阪市、2013年、池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ミヤマカラマツ

被子植物 キンポウゲ科

Thalictrum tuberiferum Maxim. var. *tuberiferum*

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、各地点とも個体数は少ない。

【種概要】多年草。茎は直立し、高さ20~70 cm。かさ状に広がった花序をつけ、多数の白色の花が群がってつく。がく片は広倒卵形で早くに落ちる。花弁はない。おしべは多数で輪状にならび、花糸は上方が著しく肥大し葯より巾広い。小葉の基部に小托葉が発達せず、小葉は長めで質が薄い。果実にひれがない。花期は5~8月である。

【分布】日本全土。国外では朝鮮半島、中国、南千島の冷温帯。県内では大台町の大杉谷、大和谷、嘉茂助谷、大台ヶ原に分布する。

【現況・減少要因】山地の樹陰に生育する多年草であるが、生育地の植生遷移や森林の皆伐により絶滅したところもある。

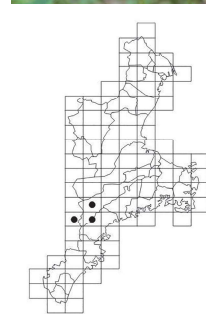
【保護対策】保護にあたっては生育地の森林の皆伐を停止し、生育環境を維持する必要がある。

【特記事項】非常に変種が多い。母種はアムール産。

【文献】57。

(葛山博次)

(写真：奈良県，2023年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

ヤマシャクヤク

被子植物 ボタン科

Paeonia japonica (Makino) Miyabe et Takeda

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、個体数は各地とも50未満である。

【種概要】多年生草本。茎は高さ40~50 cm、シャクヤクより小型であり、根は肥厚している。茎上に大きな葉が3~4枚つき2回3出複葉で9小葉からなる。下面は無毛で白い。花は4~6月、白色で茎頂に1個つく。がく片は3個、卵形で不同、花弁は普通5枚、ときに7枚のものもあり倒卵形。おしべは多数、めしべは2~4個。袋果は大きくて、開裂すると内面は赤色、心皮のふちは紅色で不稔の種子とルリ色を帯びた黒色の成熟種子をつけ美しい。

【分布】日本固有種。国内では本州、四国、九州の例温帯。県内ではいなべ市、亀山市、津市、松阪市、伊賀市、大紀町、大台町に分布する。

【現況・減少要因】環境変化圧、特に植生遷移の進行により、生育が制限されたり、採取圧を受けて減少している。

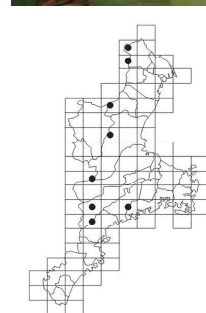
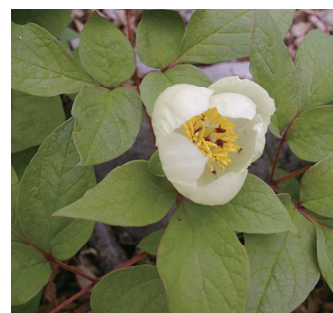
【保護対策】生育地の草刈りや上層木の間伐、枝打ちなどの管理や、採取圧を排除する方策を講ずる必要がある。

【特記事項】葉裏は通常無毛であるが、時に毛のある個体があり、ケヤマシャクヤク (f. *hirsuta* H.Hara) と呼んでいる。

【文献】34, 45, 51, 57, 69, 139。

(葛山博次)

(写真：いなべ市，2019年，市川正人撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ヤシャビシャク

被子植物 スグリ科

Ribes ambiguum Maxim. var. *ambiguum*

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。各生育地の個体数は50未満である。

【種概要】ブナなどの落葉広葉樹の老木に着生する落葉小低木。葉は洋皮質で、掌状に浅く切れ込み、両面に短毛がある。花期は4~5月で、短い枝の先に淡緑白の花を1~2個ずつつける。

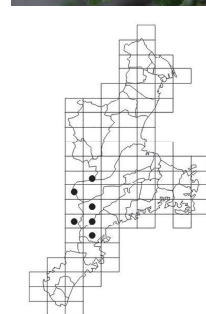
【分布】国内では本州、四国、九州に分布。国外では中国大陸西部にも分布。県内では津市や台高山地(松阪市、大台町、尾鷲市)などのブナ帯に分布。

【現況・減少要因】もともと個体数は多くなく、森林の伐採や開発による生育環境の減少、盆栽用の乱獲などにより減少傾向にある。

【保護対策】ブナ林を保護する必要がある。

(山脇和也)

(写真：大台町，2015年，山本和彦撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ヤブサンザシ

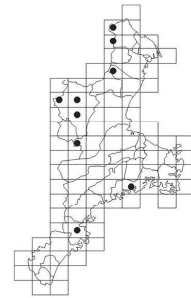
被子植物 スグリ科

Ribes fasciculatum Siebold et Zucc. var. *fasciculatum*

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。各生育地の個体数は50未満である。
 【種概要】高さ1mぐらいになる落葉低木。葉は掌状に浅く3裂する。雌雄異株で、花序は2~9花からなり、花は束生する。花期は4~5月。液果は球形で径7~8mm、無毛で赤く熟す。中間温帯域の山野にまれにみられる。
 【分布】国内では本州、四国、九州。国外では朝鮮半島、中国に分布。県内では北勢、中勢、伊賀、南伊勢、紀州地域など点々と分布する。
 【現況・減少要因】生山の崩落、開発による減少の可能性はある。
 【保護対策】開発時は十分調査をして気をつける。

(山脇和也)

(写真：いなべ市，2015年，池田博撮影)



三重県 2025	VU
三重県 2015	VU
環境省 2020	—

タコノアシ

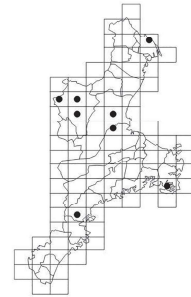
被子植物 タコノアシ科

Penthorum chinense Pursh

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。河川敷ほか生育地の環境が不安定であるうえ、確認されている個体数が少ない。
 【種概要】浅い沼沢、河川敷などの水湿地に生える多年草。茎は淡紅色を帯び、高さ30~80cm。走出枝を出して繁殖する。花期は8~10月。花序はつぼみ時に渦巻状に外反するが、開花とともに順次斜開する。成熟した花序の姿がゆでダコの足に似ていることから、この和名がある。
 【分布】国内では本州、四国、九州、奄美大島。国外では朝鮮半島、中国、東南アジアに分布。県内では、桑名市、津市、伊賀市、志摩市、紀北町で生育が知られている。
 【現況・減少要因】河川敷、放棄水田、溜池畔ほか水湿地に生えるので、河川や溜池の改修工事、植生遷移の進行などによって個体数が減少している。
 【保護対策】河川や溜池の改修の際、植生に関する現況調査等で、本種の生育が確認された場合には、保全に配慮する努力が行われている。

(武田明正)

(写真：紀北町，2024年，山本和彦撮影)



三重県 2025	VU
三重県 2015	VU
環境省 2020	NT

ホザキノフサモ

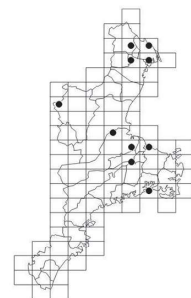
被子植物 アリノトウグサ科

Myriophyllum spicatum L.

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。個体数は河川に生育している水草のため把握は困難であるが、多くはない。
 【種概要】河川、水路、湖沼、溜池などに生育する沈水性常緑多年草。茎は長く、分枝する。葉は約2cmで4輪生し、羽状に細く分裂する。花茎は葉のない穂状花序で水上に突き出る。雄花は上部に雌花は下部に着く。
 【分布】日本全土。県内では桑名市、いなべ市、朝日町、四日市市、伊賀市、松阪市、明和町、多気町、伊勢市、志摩市、南伊勢町で記録がある。国外ではユーラシア大陸。
 【現況・減少要因】河川開発や小水路の川床堆積土砂除去が減少要因となる。
 【保護対策】急激な生育環境の変化を伴う開発・改修を避けることである。見落とす可能性が高いため、環境アセスメントは必須である。
 【特記事項】別名キンギョモと呼ばれ、生育地の中には観賞魚飼育用水草が投棄され、増殖した移入種の可能性もある。フサモに似て花期でない時期には誤同定し易い。

(市川正人)

(写真：いなべ市，2021年，池田博撮影)



三重県 2025	VU
三重県 2015	VU
環境省 2020	—

タチモ

被子植物 アリノトウグサ科

Myriophyllum ussuriense (Regel) Maxim.

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、生育地の改変などの人為圧力が強く、減少するおそれがある。

【種概要】多年生の沈水から湿性植物。貧栄養の湖沼や溜池に生育。葉の形が沈水葉では繊細な羽状、気中葉では20~60 cm。陸生形では5~15 cm。花期は6~8月。和名は林立して群生することに由来、漢字名は立藻。

【分布】国外では中国、ロシア東部、北米北部など。国内では全国各地に分布。県内では多度町、いなべ市、菰野町、四日市市、鈴鹿市、明和町、玉城町、多気町、紀北町、尾鷲市、伊賀市、名張市で記録がある。

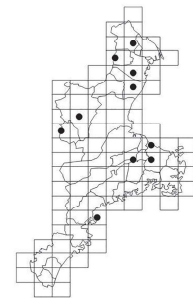
【現況・減少要因】尾鷲市は1950年の記録であり、その後については不明。

【保護対策】水中から湿った陸上までの広い範囲で生育が可能であるが、溜池の堰堤等の改修時には、生育形に応じて、生育場所の干出や乾燥を防ぐ必要がある。

【文献】96.

(中 優・福田知子)

(写真：多気町，2023年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

フサモ

被子植物 アリノトウグサ科

Myriophyllum verticillatum L.

【選定理由】既知の生育地点数は20以下であり、生育地の改変などの人為圧力が強く、減少するおそれがある。

【種概要】多年生の沈水植物。湖沼、溜池、水路などに生育。葉は4~5輪生で、水中では羽状に細裂して長さは2~6 cm、気中では線形羽状で長さは0.5~1.5 cmと水中葉より小さい。花期は6~8月。花序は水面上に出て、上部が雄花で下部が雌花である。本種には花序の各節に緑色の気中葉があることで、ホザキノフサモとは区別できる。また、殖芽の長さが短いことでオグラノフサモとは区別できる。

【分布】国外では朝鮮半島、中国大陸、シベリア、ヨーロッパなどの北半球の温帯。国内では全国各地に分布し、県内では桑名市、松阪市、玉城町、志摩市、南伊勢町、紀北町、伊賀市で記録がある。

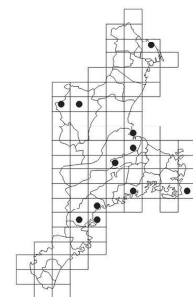
【現況・減少要因】伊賀市は1953年と1956年の記録であり、その後については不明。

【保護対策】生育地である溜池などで改修工事等を行う場合には、生育場所の干出を避け、改修後の個体群の存続を可能にする配慮が必要である。

【文献】96.

(中 優・福田知子)

(写真：南伊勢町，2020年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ウドカズラ

被子植物 ブドウ科

Ampelopsis cantoniensis (Hook. et Arn.) Planch. var. *leeoides* (Maxim.) F.Y.Lu

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。各生育地の個体数は50未満である。

【種概要】暖地の山に生える大きなつる性落葉木本。葉は大きく3~多数の小葉からなり、小葉は長さ3~10 cm。葉に対生する長い巻きヒゲがあって先は2裂する。6~7月にヤブカラシのような花序がつき、多くの黄緑色の花をつける。果実は球形で、径7 mm、熟して赤くなり、後に黒くなる。

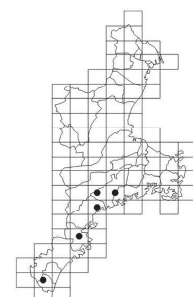
【分布】国内では本州（紀伊半島、山口県）、四国、九州。県内では大台町以南に分布。

【現況・減少要因】県南部にいくつか現存が確認されている。森林伐採や林道開設が減少要因となる。

【保護対策】生育状況の把握が必要である。

(山脇和也)

(写真：尾鷲市，2012年，山本和彦撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ツルフジバカマ

被子植物 マメ科

Vicia amoena Fisch. ex Ser.

【選定理由】既知の確実な生育地点数は5程度と考えられる。県北部から南部まで広く分布し、新産地情報も増えていることからENからVUに変更となった。

【種概要】山野の草原や道ばたに生育するつる性の多年草。クサフジによく似るが、葉は10~16の小葉からなり、やや質が厚く、押し葉にすると赤褐色になる。花はクサフジより遅れて秋に咲き、やや大きくて長さ1.2~1.5 cm。花期は8~10月。

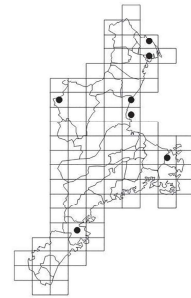
【分布】国内では北海道から九州。国外では南千島、朝鮮半島、中国、モンゴルなどに分布。県内では桑名市、津市、伊賀市、尾鷲市などで記録されている。伊勢市は現状不明。

【現況・減少要因】生育地はいずれも堤防土手と道路の土手にある。土地整備や開発、河川の改修で消滅の危険性がある。

【保護対策】開発・改修には注意を要する。生育地の保護・保全が必要である。

(山脇和也)

(写真：津市，2012年，市川正人撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

ビワコエビラフジ

被子植物 マメ科

Vicia venosa (Willd.) Maxim. subsp. *stolonifera* (Y.Endo et H.Ohashi) Y.Endo et H.Ohashi

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、各生育地の個体数は10未満である。

【種概要】多年生草本。長い地下茎で栄養繁殖する。茎にはやや稜角があり数本叢生する。分枝せず高さ50~80 cm。葉は互生し、葉身は偶数または奇数羽状複葉。先端の巻きひげは痕跡的。花は6~8月、花序は総状で葉腋につく、花はひとつの花序に3~15個、紅紫色、15 mm内外の蝶形花である。

【分布】国内では本州（岐阜，三重，愛知，滋賀，京都）の暖温帯上部から冷温帯の山地の溪側などに生育する。県内では鈴鹿山脈の北部（いなべ市）に分布する。

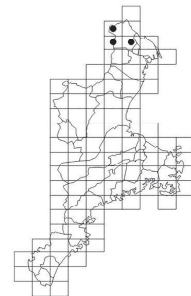
【現況・減少要因】生育地の植生は、遷移の進行により、上層木が繁茂し、生存には脅威となっている。また、林道の拡幅などにより削りとられたり、入山者の踏みつけなどが減少の要因と考えられている。

【特記事項】種としては、本州，四国，九州に分布し、いくつかの地理的な変種に分類されている。

【文献】9, 40.

(葛山博次)

(写真：いなべ市，2016年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ヒナノカンザシ

被子植物 ヒメハギ科

Salomonina ciliata (L.) DC.

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、各地点の個体数は1,000未満である。

【種概要】日当たりの良い溜池周辺や湿地に生える1年草。茎は直立して細く、ときに分枝し、高さ6~25 cmで無毛である。葉は長さ3~14 mmで長楕円形から広卵形、先は尖る。8~9月頃、細長い穂状花序を作り、淡紫色、1~2 mmの花をつける。萼片は5個で花弁より短く、2個はやや大きい。花弁は3個である。

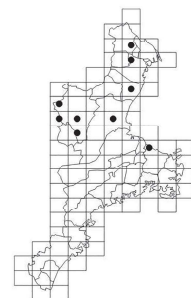
【分布】本州から九州。県内ではいなべ市，東員町，四日市市，鈴鹿市，津市，伊賀市，名張市，明和町などで記録されている。国外ではアジア東部から南部，豪州。

【現況・減少要因】生育状況は良いが、湖沼開発にともなう湿地の消失が減少要因となる。

【保護対策】湿地生育環境の保全が必要である。

(市川正人)

(写真：明和町，2012年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ヒメハビイチゴ

被子植物 バラ科

Potentilla centigrana Maxim.

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下。各生育地の個体数は250未満である。

【種概要】 山や原野の湿った木陰に生える多年草。茎は地表を匍匐し、節々から根を出す。小葉は3個。6～8月頃、径7mm内外の黄色の5弁花をつける。

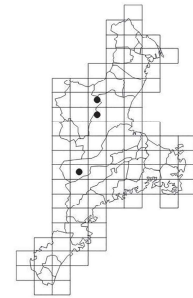
【分布】 北海道～九州。県内では亀山市、津市、松阪市、伊賀市に記録がある。国外では朝鮮、中国、ウズリー。

【現況・減少要因】 軟弱な植物で、踏みつけられ易い。また、花も微小で目立たないため見落とされがちである。山地・原野の林道沿いに生育することが多く土地改変の影響を受け易い。現在生育地が知られていない地域でも精査すれば生育が確認される可能性はある。

【保護対策】 生育地は人為の影響を受け易い所に多く、注意をしたい植物である。

(加田勝敏・市川正人)

(写真：伊賀市，2018年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

カワラサイコ

被子植物 バラ科

Potentilla chinensis Ser.

【選定理由】 既知の生育地点数は10以下。河川敷改修や河口部の開発により減少が著しい。

【種概要】 日当たりのよい川原や砂地に生育する多年草。葉は15～29個の小葉からなる奇数羽状複葉で裏面には白い綿毛が密生する。花期は6～8月で径1～1.5cmの黄色の花をつける。

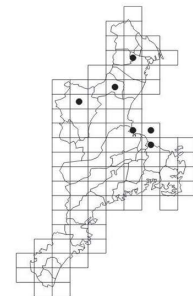
【分布】 国内では本州、四国、九州。国外では朝鮮半島、中国、モンゴルに分布。県内では菰野町、亀山市、伊賀市、松阪市、明和町で記録がある。

【現況・減少要因】 北勢、中勢、南勢、伊賀地域の河原や河口などの砂地で確認されている。とくに、北勢、中勢地域の河口は改修や開発等によって大きな減少または消滅の危機にさらされている。

【保護対策】 開発を避け、自生地の保護・保全が必要である。

(山脇和也)

(写真：松阪市，2016年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

エドヒガン

被子植物 バラ科

Prunus spachiana (Laval. ex H.Otto) Kitam. f. *ascendens* (Makino) Kitam.

【選定理由】 既知の生育地点数10以下。主に県北部の山中に点々と生育し個体数は多くない。

【種概要】 山地に生える落葉高木。花期は3～4月頃。ヤマザクラやソメイヨシノより早く開花する。花は葉より先に開き、極めて短い花序柄に2～5個の花をつける。萼筒は短い筒型で紅紫色を帯び萼裂片とともに開出毛が多い。

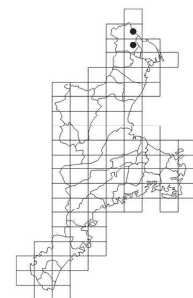
【分布】 本州、四国、九州に自生する。県内ではいなべ市、伊賀市、尾鷲市などからの記録がある。

【現況・減少要因】 尾鷲市では天然記念物に指定されていたが台風により風倒し、枯死した。森林伐採や林道開設等による個体数の減少が危惧される。

【保護対策】 造林のための自然林の伐採を避ける。そのための新しい林道を作らない。

(山脇和也)

(写真：いなべ市，2024年，山本和彦撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蕨類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ビロードイチゴ

Rubus corchorifolius L.f.

被子植物 バラ科

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、各地点の個体数も5未満である。

【種概要】落葉低木。全体にビロード状に短毛が密生しているため、手にふれると滑らかな感じがある。茎は傾斜し、鉤枝がある。葉は長卵形で長さ3~10 cm、裏面の脈上に密毛がある。4~5月、短枝の頂から下向きに花を1個つける。花枝の葉は卵形で先がとがり分裂しない。絨毛を密生。花弁は白色、倒卵状へら形、長さ10 mm。果実は球形で径約10 mm、黄紅色に熟す。

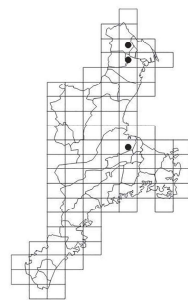
【分布】国内では、本州（静岡県東部以西）、四国、九州。県内では、いなべ市、菰野町、多気町に分布する。

【現況・減少要因】本種は暖温帯の山地の路傍や荒地に生える。全体に刺が密生し、山道の草刈りや道路改修の際に根こそぎ除去される可能性がある。そうしたことから、生育地の一部はすでに確認できない現況にある。

【保護対策】生育地について、周辺の住民にも周知し、保護のための方策を講ずる必要がある。

【特記事項】前年枝に開出した短毛を密生する特徴は他種には見られない。

(葛山博次)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ハチジョウイチゴ

Rubus ribisoideus Matsum.

被子植物 バラ科

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。個体数は少ない。

【種概要】海岸近くの林縁に生える高さ1~1.5 mになる落葉低木。通常、棘はない。本年枝には毛が密生する。葉身は長さ5~7 cmで3~5裂し、不揃いな鋸歯がある。葉柄は2~5 cm。花は葉腋に1~3個着き、径3~4 cmで下向きに咲く。花期は2~4月、果実は6月に橙黄色に熟す。

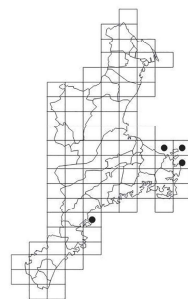
【分布】本州（伊豆諸島以西の島嶼や半島部）、四国、九州の海岸部。県内では鳥羽市、志摩市、紀北町の島嶼で記録がある。

【現況・減少要因】少なくとも鳥羽市の答志島や神島では現存している。護岸工事など海岸開発が減少要因となる。

【保護対策】不要不急の海岸開発を慎むことである。開発時には十分な環境影響評価をするとともに移植を計画することである。

【特記事項】雑種も含めて類似のキイチゴ類が多く、正確な同定が必要である。

(市川正人)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ミヤマニガイイチゴ

Rubus subcrataegifolius (H.Lév. et Vaniot) H.Lév.

被子植物 バラ科

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。総個体数は250未満である。

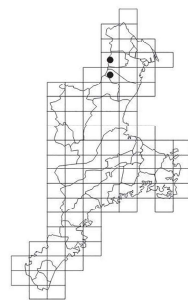
【種概要】日当たりの良い林縁の砂礫地などに生える高さ1 mほどになる落葉低木。茎や枝には毛が無く、棘はまばらに着く。葉柄は3~8 cm、葉身は4~10 cmで、通常3裂して鋸歯がある。中央裂片は大きく長く尖る。裏面は紛白色を帯び、葉柄とともに葉脈には小さな棘がある。花は径2~2.5 cmで5~6月、1~3個を本年枝につける。果実は8~9月に赤熟する。

【分布】本州（近畿以北）。県内では菰野町、亀山市、伊賀市で記録がある。

【現況・減少要因】生育環境は比較的安定しているが、シカ食害が減少要因となる。

【保護対策】シカの個体数管理を要する。

(市川正人)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

(写真：鳥羽市，2013年)

(写真：菰野町，2017年，池田博撮影)

ナガボノワレモコウ

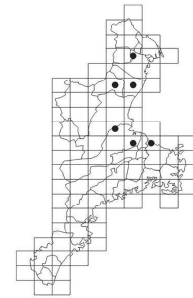
被子植物 バラ科

Sanguisorba tenuifolia Fisch. ex Link var. *tenuifolia*

【**選定理由**】既知の生育地点数は10以下。各地点の生育個体数50以下である。
 【**種概要**】野原の湿地に生える多年草。8～10月頃、高さ80～130 cmの茎の上部が分枝し、白色・桃色・赤色の円筒形の花序を着ける。ワレモコウに比べ花穂が長い。
 【**分布**】北海道、本州、九州。県内ではいなべ市、四日市市、鈴鹿市、津市、松阪市、明和町、玉城町、伊勢市に記録されている。国外では朝鮮、中国、東シベリア、千島、樺太、カムチャッカ。
 【**現況・減少要因**】植生遷移による土壌の乾燥化・陸地化やセイタカアワダチソウ・ヨシなど高茎草本の侵入・占有の拡大で将来的に消滅する可能性がある。
 【**保護対策**】数ヶ所の生育地は水環境、富栄養化についての対策はなされているが、周辺部の乾田化や開発による漏水は避けたい。水確保の対策が必要である。
 【**特記事項**】種内を細分化すると、ナガボノアカワレモコウ (var. *purpurea*)、ナガボノシロワレモコウ (var. *alba*)、コバナノワレモコウ (var. *parviflora*)、他に分類されるが、ここではすべてをふくめて表記の学名・和名とした。なお、ナガボノシロワレモコウは県内には分布しないとされている。

(加田勝敏・市川正人)

(写真：明和町，2016年，池田博撮影)



三重県 2025	VU
三重県 2015	VU
環境省 2020	—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
苔苔類
藻類
キノコ

イブキシモツケ

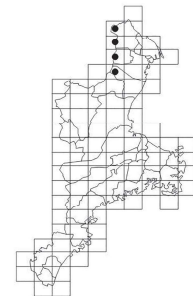
被子植物 バラ科

Spiraea dasyantha Bunge

【**選定理由**】既知の生育地点数は10以下であり、各地点の個体数は250未満である。
 【**種概要**】山地の日当たりの良い岩礫地に生える高さ1～1.5 mの落葉低木である。若枝は黄褐色で短毛を密生し稜はない。古くなると灰黒紫色となり縦裂してはがれる。葉身は3～5 cmの卵形から菱形状長楕円形、基部を除いて単鋸歯または重鋸歯があり、上部はしばしば3浅裂する。裏面には白・黄褐色の軟毛が生え葉脈は隆起する。葉柄は5～15 mmで軟毛を持つ。4～6月頃、枝先に散房花序をつくり多数の白色花をつける。7～8月に褐色の袋果となる。固有種。
 【**分布**】本州（近畿地方以西）、四国、九州。県内ではいなべ市、菰野町、鈴鹿市、亀山市の石灰岩地に多く記録されている。
 【**現況・減少要因**】多くは石灰岩地に生育し、採掘・採石が減少の圧力となっている。
 【**保護対策**】将来的には、藤原岳一帯の採石を中止することである。採掘・採石だけではなく、不用砂礫の谷への流出による森林破壊など、生態系への影響はきわめて大きい。この種以外にも好塩基性植物、早春植物などが甚大な影響下に晒されている。鉱山法の変更を切に願いたい。

(市川正人)

(写真：いなべ市，2015年)



三重県 2025	VU
三重県 2015	VU
環境省 2020	—

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

シリブカガシ

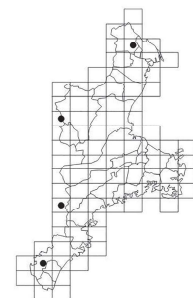
被子植物 ブナ科

Lithocarpus glaber (Thunb.) Nakai

【**選定理由**】既知の生育地点数は10以下。県内では自生と思われる個体が少ない。
 【**種概要**】常緑高木。樹高15 m程度。直径50 cmになる。樹皮は灰黒色で割れ目がなく、縦に皮目の列がある。葉身は革質で倒披針状長楕円形、長さ8～12 cm。先は鋭尖形で鈍頭。全縁または上部に鋸歯がある。葉裏の脈間は鱗状の微細毛が密生し銀灰色。殻斗は碗状、堅果は長さ2 cm程度で大きい。
 【**分布**】国内では本州（近畿以西）、四国、九州、沖縄。国外では台湾、中国（中南部）に分布。県内では、桑名市、伊賀市、大台町、熊野市ほかに分布情報がある。
 【**現況・減少要因**】古くは材や堅果が利用されていた。現在自生と思われる個体は僅かである。
 【**保護対策**】社寺林などに生育するものは、献木などとして植栽された可能性もあるので、本来の自生か否か今後検討する必要がある。

(武田明正・市川正人)

(写真：桑名市，2011年，山本和彦撮影)



三重県 2025	VU
三重県 2015	VU
環境省 2020	—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類

ヒロハツリバナ

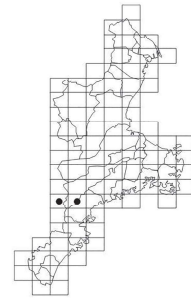
被子植物 ニシキギ科

Euonymus macropterus Rupr.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。生育地が限られている。
 【種概要】樹高3～5m、胸高直径5～10cmほどになる落葉の小高木。花は4数性で6～7月に開花し、果実に長い翼がある。仮種皮は熟すと橙色となり、4裂開する。
 【分布】国外では朝鮮、中国東北部、東シベリア。国内では北海道、本州（東北、中部、近畿南部、鳥取県）、四国に分布。県内では大台町で記録がある。
 【現況・減少要因】台高山地のブナなどが優占する落葉広葉樹林の構成要素である。開発による自然林の減少や、ニホンジカ等の野生獣による食害が個体数を減らす要因となっている。
 【保護対策】生育地は国立公園域、国定公園域に含まれ、ある程度保護されている。野生獣の食害が懸念される。

(後藤稔治)

(写真：奈良県，2016年，池田博撮影)



三重県 2025
VU
三重県 2015
VU
環境省 2020
—

クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

サイゴククロヅル

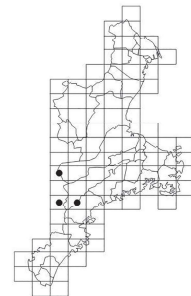
被子植物 ニシキギ科

Tripterygium regelii Sprague et Takeda var. *occidentalis* T.Yamaz.

【選定理由】県内では分布が限られ、台高山系の温帯域に生育。林縁や開放地など、陽地に散見される。
 【種概要】落葉つる性の木本。クロヅルには東日本と西日本で形が異なる傾向があることから、東日本のものをクロヅルとし、西日本のタイプをその変種としてサイゴククロヅルとされている。サイゴククロヅルはクロヅルに比べ葉の先が急に狭まり、先端は細長く尖る。また果実は大きく長さ13～20mmになる。台高山系に自生するものは、サイゴククロヅルの特徴に一致している。
 【分布】紀伊半島、中国地方、四国、九州。国外では朝鮮、中国東北部に分布。県内では台高山脈の北部から南部一帯に分布。
 【現況・減少要因】現況は安定しているが、遷移の進行により消失する自生地も出現すると思われる。
 【保護対策】現状の状態が維持できれば問題はないと思われる。
 【文献】87, 133, 139。

(山本和彦)

(写真：大台町，2016年)



三重県 2025
VU
三重県 2015
VU
環境省 2020
—

維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ

EX
EW
CR
EN
VU

ノウルシ

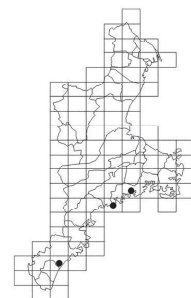
被子植物 トウダイグサ科

Euphorbia adenochlora C.Morren et Decne.

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、各生育地の個体数はおよそ1,000未満。
 【種概要】湿った草地に群生する多年草。茎は太く高さ40～60cm。葉は長さ4～9cm、全縁。輪生葉は互生葉より短い。花は4～5月、総苞卵円形で黄色。蒴果は径6mm、いぼ状の突起がある。
 【分布】国内では北海道から九州に広く分布。県内では南伊勢町、大紀町、熊野市、御浜町からの記録がある。
 【現況・減少要因】本種は、河川敷等の氾濫原を分布の本拠地とするが、県内ではおもに海跡湖周辺や海岸近くの湿地にみられ、特異な分布を示している。
 【保護対策】自生地周辺の湿地は、本種以外にもいくつかの希少種が生育し、三重県の海岸部を代表する貴重な自然となっている。これらの植物群が分布する海岸部の開発は避けるべきである。

(山本和彦)

(写真：御浜町，2019年)



三重県 2025
VU
三重県 2015
VU
環境省 2020
NT

NT
DD

ヒメフウロ

Geranium robertianum L.

被子植物 フウロソウ科

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。各生育地の個体数は250未満である。採取圧もある。

【種概要】石灰岩地に生える1年草または越年草。全体に腺質の開出毛があつて粘つき、悪臭がある。茎はよく分枝して高さ20~60 cm。花は淡紅色で直径約1.5 cm。花期は5~8月。

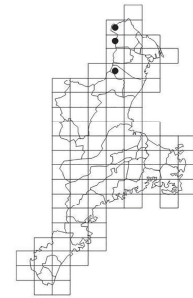
【分布】国内では本州（滋賀県、岐阜県、三重県）および四国（剣山）の石灰岩地に限られているが、国外では北半球の温帯に広く分布し、草地にも林地にも生育する。県内では鈴鹿山系に分布。

【現況・減少要因】鈴鹿山系藤原岳一帯と入道ヶ岳の石灰岩地帯に生育している。土砂崩れや園芸採取による減少の可能性がある。移入種が増えている様なので注意を要する。

【保護対策】石灰岩地の群落のある場所の開発を避ける対策が必要である。

(山脇和也)

(写真：いなべ市，2023年，市川正人撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

ミツバフウロ

Geranium wilfordii Maxim. var. *wilfordii*

被子植物 フウロソウ科

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、各生育地点の個体数は10未満である。

【種概要】多年生草本。茎の下部は地面に伏し、上部は立ち上がる。節は高く、著しく、茎にも葉にも毛がある。葉は対生、長い柄があり、形は卵状三角形で、長さ3 cm内外。下部は5深裂、上部は3深裂。7~9月頃、長い花柄を葉腋から出し、1~2個の花が上向きに開く。ウメの花に似て淡紅紫色。花には10本のおしべと5本の花柱がある。

【分布】日本全土、国外では朝鮮半島、中国、アムール暖温帯から冷温帯。県内では鈴鹿山脈の北部に分布する。

【現況・減少要因】生育地は山地の林内や林縁で、林道・登山道の改修や採取などの人為圧を容易に受け、個体数は減少している。

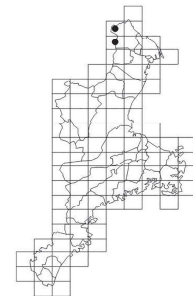
【保護対策】土地の改変、改修工事などの際の人為圧の排除に努めるとともに、採取圧から保全することが必要である。また、生育地の森林の間伐など、適切な管理により存続を可能にすることも大切である。

【特記事項】別名、フシダカフウロ。上部の葉が3深裂するが3小葉に分かれることはない。

【文献】34, 45.

(葛山博次)

(写真：いなべ市，2009年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

エゾミソハギ

Lythrum salicaria L.

被子植物 ミソハギ科

【選定理由】既知の生育地点数は1。生育地は安定しており現状が維持されれば絶滅の危険性は低い。今後の調査が進めば追加生育地が見つかる可能性もある。

【種概要】高さ30~200 cmの直立する1年草。葉は無柄で対生から3輪生、基部は浅心形で茎を浅く抱く。茎には4または6稜がある。穂状花序は頂生し、多数の花をつける。萼片裂片は6個、裂片間の付属片は針状で直立する。花卉は紅紫色。ミソハギに近似しているが、茎、葉、花序、萼が多毛であること、葉の基部が心形で浅く茎を抱くことで区別される。

【分布】国内では北海道から九州。国外では千島、樺太、ユーラシア、アフリカ、北米（帰化）。冷温帯の湿原や水湿地に生育。県内では志摩市大王町のみから記録がある。

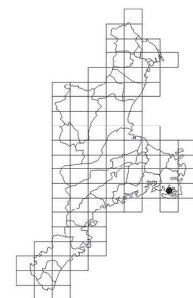
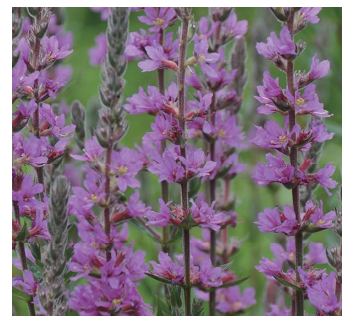
【現況・減少要因】近畿地方ではまれな湿生植物。県内の既知生育環境は安定している。

【保護対策】自生地の開発を避けることで、保護は達成できると思われる。

【文献】18.

(藤井伸二)

(写真：志摩市，2019年，山本和彦撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ミズキカシグサ

被子植物 ミソハギ科

Rotala rosea (Poir.) C.D.K.Cook

【選定理由】 既知の生育地点数は10程度。水田耕作の近代化と耕作放棄により生育環境が減少している。

【種概要】 高さ5~30 cmの直立する1年草。葉は対生で無柄、披針形で先は鋭頭。蒴果は球形で径2 mm。果皮は薄く、表面に細かな横脈がある。

【分布】 国内では本州から沖縄、国外では朝鮮半島。県内では名張市、伊賀市、松阪市、玉城町、尾鷲市、熊野市、紀宝町からの記録がある。暖温帯域の水田に生育。

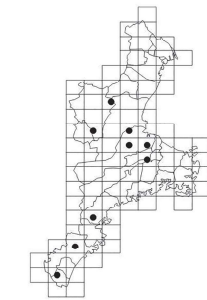
【現況・減少要因】 まれな水田性の雑草であり、過去の情報集積に乏しい。近年の調査によって、県内の各地から発見されている。除草剤の使用、農地の乾田化、耕作放棄による水田面積の減少等が生育への脅威と思われる。

【保護対策】 水田環境に依存するため、具体的な保護策を提示することは困難。農閑期に溜水を維持して湿田状態を保つこと、除草剤使用を極力減らすことが重要と考えられる。

【特記事項】 稲刈りの早期化、除草剤の低残留性化や使用量の減少により、一部地域では復活、増加している可能性がある。本種の今後の動向には十分に注意を払うべき。

(藤井伸二)

(写真：玉城町，2019年，市川正人撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

テツカエデ

被子植物 ムクロジ科

Acer nipponicum H.Hara subsp. *nipponicum* var. *nipponicum*

【選定理由】 既知の生育地点数は10以下であり、各地点の個体数は比較的少ない。

【種概要】 温帯山地の沢沿いから中腹にかけてみられる落葉高木。樹皮は暗褐色から灰色、老木では浅く縦割れする。枝には初め褐色軟毛が密生するが後に無毛となる。葉は対生し、長さ10~15 cm、幅10~20 cmで浅く5裂し、基部は心形で裂片には重鋸歯がある。雌雄同株で1花序に雄花と両性花が混生するか、ときに雄性異株や両性花だけの株もある。6~7月に多数の淡黄色の花を円柱状花序につける。8~10月、ほぼ直角に開く翼果をつける。固有種。

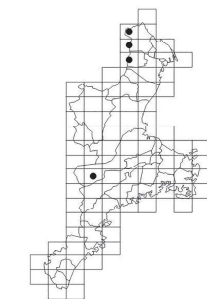
【分布】 本州（秋田・岩手県以南）、四国、九州。県内ではいなべ市、菟野町、津市、松阪市で記録されている。

【現況・減少要因】 比較的安定した二次林に生育している。造林に伴う伐採が減少要因となっている。

【保護対策】 自生地の環境を現状のまま維持する必要がある。

(市川正人)

(写真：いなべ市，2018年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ハマボウ

被子植物 アオイ科

Hibiscus hamabo Siebold et Zucc.

【選定理由】 既知の生育地点数は10以上であるが、生育地に対する開発圧が高い。

【種概要】 落葉性の低木または小高木。葉は互生し、葉身は円形から広卵形、長さ4~7 cm、幅3~6 cm、基部は円形または心形、葉質は厚く、周縁には細かい鋸歯があり、裏面は星状毛が密生して灰白質となる。花期は7~8月。花は淡黄色で中心部は暗赤色。直径約5 cm。果実は卵形で長さ約3 cm。褐色の毛が密生する。

【分布】 国内では本州（関東南部から中国地方）、四国、九州、沖縄。県内では四日市市、津市、松阪市、伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町、紀北町に分布する。

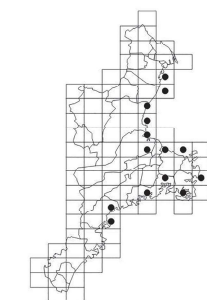
【現況・減少要因】 河口や海岸の泥湿地に生育する。河川の改修などで絶滅したところもある。

【保護対策】 河川改修の妨げになるという理由で天然記念物の指定を受けない場合が多いが、積極的な保護策が必要である。

【文献】 146.

(中馬千鶴・福田知子)

(写真：紀北町，2013年，山本和彦撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

コンロンソウ

被子植物 アブラナ科

Cardamine leucantha (Tausch) O.E.Schulz var. *leucantha*

【選定理由】既知の生育地点は限られ、近年、生育地および個体数が減少したため、NTからVUに変更となった。

【種概要】山地や川辺の水湿地に生える多年草。「崑崙草」と書かれるが、これは中国での呼び名ではない。群生してそろって花をつけると、まさに中国の崑崙山脈の雪のようにみえることに由来する。花期は4～6月。

【分布】国内では北海道から九州。国外では朝鮮半島、中国東北部、シベリア東部、樺太など。県内ではいなべ市藤原岳周辺のみ。

【現況・減少要因】藤原岳山麓に生育していたが、道路整備や土砂崩れなどによりかなり減少した。

【保護対策】圃場整備や用水路を造る時、群落を避ける必要がある。

(山脇和也)

(写真：いなべ市，2015年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

ミヤマツチトリモチ

被子植物 ツチトリモチ科

Balanophora nipponica Makino

【選定理由】既知の生育地点は4。それぞれ1960年代、1970年代に確認されているが、それらのうち1か所は現在も健在。他の3地点は現状不明。個体数は不明だが、多くはないと思われる。

【種概要】ウリハダカエデなど主にカエデ属の根に寄生する多肉質で無毛の多年草。落葉広葉樹林内の林床に生育。高さ8～14 cm、雌雄異株といわれているが、雄株は発見されていない。葉緑素をもたず気孔もない。花期は7～8月、花序は卵状長楕円形で長さ3～5 cm、幅1.5～2 cm、橙赤色～橙黄色を呈する。

【分布】本州、四国、九州に分布。県内ではいなべ市、津市、松阪市、大台町から記録されている。

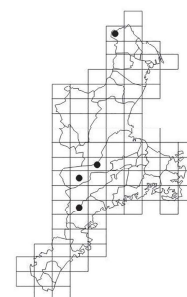
【現況・減少要因】カエデ属を主体とする自然度の高い落葉広葉樹林に出現することから、県内での分布は限定されている。森林伐採により宿主木が消失すると本種も絶滅するものと思われる。

【保護対策】森林伐採の規制。

【文献】48, 50, 139。

(山本和彦)

(写真：松阪市，2007年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ナガバノヤノネグサ

被子植物 タデ科

Persicaria breviochreata (Makino) H.Ohki

【選定理由】既知の生育地点数は10以下である。里山などの開発により、減少の可能性がある。

【種概要】山林下の陰地に生える1年草。茎は根元から分枝して斜上し、棘は細くてごく少ない。ヤノネグサに比べて葉が細長く、花は短い総状花序をなし、まばらに1～3個の花をつける。花期は8～10月。

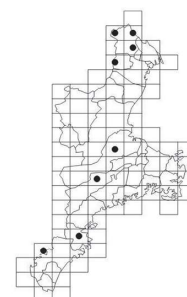
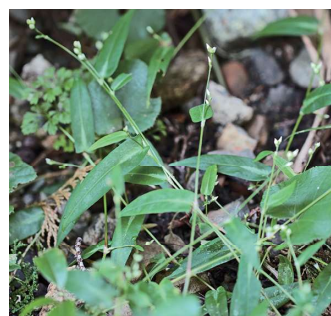
【分布】国内では本州（関東以西）から四国、九州。県内ではいなべ市、菰野町、大台町、松阪市、尾鷲市、熊野市での記録がある。

【現況・減少要因】いなべ市では個体数は減少傾向にある。森林の伐採や工事などの影響があるかもしれない。

【保護対策】生育地の森林の伐採や道路工事など避けるべきである。

(山脇和也)

(写真：尾鷲市，2023年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

サイコクヌカボ

被子植物 タデ科

Persicaria foliosa (H.Lindb.) Kitag. var. *nikaii* (Makino) H.Hara

【選定理由】 既知の生育地点数は15以下で、各生育地の個体数は250未満である。

【種概要】 水湿地に生える1年草。茎は高さ30~60 cm。葉は狭披針形、長さ3~9 cm、幅2~9 mm。花期は9~10月、総状花序は長さ5~6 cmで先端は垂れ、まばらに花をつける。果実はレンズ形で長さ約1.5~2.0 mm。

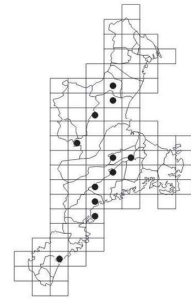
【分布】 国内では本州（中部地方以西）、四国、九州に分布。県内では北勢、中勢、南勢、紀州地域からの記録がある。

【現況・減少要因】 県内では溜池周辺の湿地や放棄水田などに生育する。遷移の進行や、埋め立て工事により、消失した自生地もある。

【保護対策】 溜池の改修にあたっては周辺に発達する湿地の十分な事前調査と本種を含む湿地生植物の保護対策が必要である。

(山本和彦)

(写真：御浜町，2022年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

ナガバノウナギツカミ

被子植物 タデ科

Persicaria hastatosagittata (Makino) Nakai

【選定理由】 既知の生育地点数は10以下であり、各生育地の個体数は極めて少ない。

【種概要】 水辺や湿地に生える1年草。茎の下部は地を這い、上部は直立し、高さ80 cmに達する。まばらに短い下向きの刺毛がある。葉柄10~25 mm、葉身は長さ6~11 cmの披針形~長楕円形で鋭尖頭、毛はない。基部は鉾形または矢尻形である。托葉鞘は筒状、上部は切形で縁毛がある。9~10月に紅紫色で花被片5、長さ3 mmの花をつける。花柄や小花柄に黒ずんだ腺毛が多い。

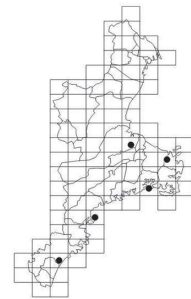
【分布】 北海道南部、本州、四国、九州。県内では鈴鹿市、玉城町、伊勢市、南伊勢町、紀北町、熊野市で記録がある。国外では台湾、中国南部。

【現況・減少要因】 湿地開発が進みそうなところに生育している。埋め立てによる土地造成が減少要因となる。

【保護対策】 現況を維持し、湿地開発を止める。

(市川正人)

(写真：伊勢市，2016年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

サデクサ

被子植物 タデ科

Persicaria maackiana (Regel) Nakai

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下であるが、開発圧が強い生育地が多い。

【種概要】 水湿地に生える1年草。茎は多くの枝を分け、鋭い下向きの刺毛があり、高さ30~100 cm。葉は披針状のほこ形。長さ3~8 cm、両面に星状毛を密生。花期は8~10月、花被は紅色、長さ3 mm。

【分布】 国内では本州から九州。国外では朝鮮半島、中国、ウスリーに分布。県内では津市、紀北町、御浜町からの記録がある。

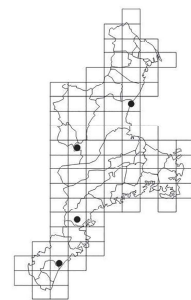
【現況・減少要因】 どこにでもありそうな種だが、標本による記録は意外と少ない。現在分布が確認できるのは津市と東紀州地域のみである。

【保護対策】 湿地周辺の草刈り等、維持管理が必要。

【特記事項】 本種のように、県内における分布状況が未解明な種が多いのが実情である。今後標本資料の蓄積とそれを管理保管する施設の充実が望まれる。

(山本和彦)

(写真：紀北町，2016年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ヌカボタデ

被子植物 タデ科

Persicaria taquetii (H.Lév.) Koidz.

【選定理由】既知の生育地点数は10以下で、開発圧が強い。

【種概要】水湿地に生える1年草。高さ20~40 cm。茎の下部は地を這い、根を出し、多くの枝をわける。葉は狭披針形、鋭尖頭、基部はくさび形、ほとんど無柄。長さ4~6 cm。花期は9~11月、花は枝先にまばらに穂状につく。果実は三稜形、黒褐色、光沢があり長さ約1.5 mm。

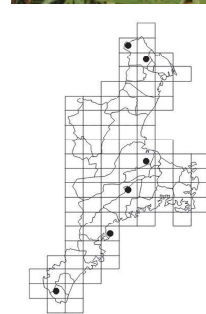
【分布】国内では本州から九州。国外では朝鮮半島に分布。県内では北勢、中勢、南勢、紀州地域からの記録がある。

【現況・減少要因】県内では溜池周辺の湿地や水田の畦などに生育する。中勢地域および紀州地域の生育地は今のところ健在。

【保護対策】水田では除草剤を極力減らすことが重要である。また、溜池の改修にあたっては周辺に発達する湿地も含めた十分な事前調査を行い、本種を含む湿地生植物の保護対策が必要である。

(山本和彦)

(写真：松阪市，2019年，市川正人撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

イシモチソウ

被子植物 モウセンゴケ科

Drosera peltata Thunb. var. *nipponica* (Masam.) Ohwi

【選定理由】既知の生育地点数は50以下であり、各地の個体数は100未満である。

【種概要】食虫植物。根に直径6 mmぐらいの球状の塊茎を持つ。茎は直立し、高さ10~25 cm、上部で分枝、開花する。根生葉は明らかに生じ、小形で葉面は円形、開花の時は枯れて落ちるものがある。茎葉は互生し、葉片は三日月形で基部は広く湾入する。葉のふちや外面に腺毛をもち、粘液を出し、虫を捕える。5~6月ごろ、白色5弁の小花を開く。直径1 cmほど。5個のがく片のふちにも腺毛がある。種子は楕円形で、両端が尖り、たての溝がある。

【分布】国内では本州（関東地方以西）、四国、九州、沖縄、国外では台湾、中国、朝鮮半島の暖温帯。県内では北勢、中勢、伊賀、南勢の各地域に点在する。

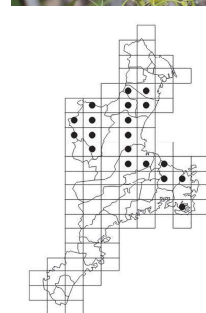
【現況・減少要因】生育地は丘陵地の湿地やその周辺のやせ地であるが、耕地整理、溜池改修、土地開発、踏みつけなどにより、消失または生育域がせばめられている。また園芸採取もみられる。

【保護対策】開発圧、踏みつけ、採取圧などへの対策を講じるとともに生育地である日当たりのよい貧栄養で酸性の湿地の保全に努める必要がある。

【文献】34, 43, 69, 92.

(葛山博次)

(写真：明和町，2024年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

コモウセンゴケ

被子植物 モウセンゴケ科

Drosera spatulata Labill.

【選定理由】既知の生育地点数はおおよそ15であるが、生育地が開発圧力の強い湿地や遷移の進行が心配される草地である。

【種概要】日当たりのよい湿地や土手に生育する多年草。葉には多くの腺毛があり虫を捕える。葉柄は幅広く葉の部分との境が不明瞭。花期は夏で、根生葉の中心からのびた花茎に淡紅色の花を順々に咲かせる。

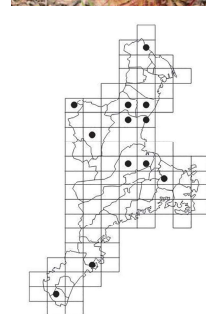
【分布】国外では中国、東南アジア、オーストラリア。国内では本州（宮城県以南）から九州。県内では桑名市、亀山市、鈴鹿市、伊賀市、津市、松阪市、明和町、伊勢市、熊野市、紀宝町で生育の記録がある。

【現況・減少要因】県内各地で生育しているが、湿地の開発や遷移の進行で減少傾向にある。

【保護対策】湿地の開発は慎重に行う。状況に応じて生育地の草刈りをする必要もある。

(山路武夫)

(写真：明和町，2024年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ワチガイソウ

被子植物 ナデシコ科

Pseudostellaria heterantha (Maxim.) Pax var. *heterantha*

【選定理由】 既知の生育地点数は10以下であり、個体数は減少、生育地は人為圧を受けやすい。

【種概要】 山地の林内に生える小型の多年草。塊の根は単一、紡鐘形で真直に地中にのびる。茎は枝分かれしないで直立し、細長で毛のすじがあり高さは8～15 cm。葉は対生で、下部は倒披針形、上部は卵状披針形あるいは披針形で基部はふちに粗毛があり、狭まって葉柄となる。5月ごろ頂に白花を1個、上向きに開く。花弁は5個。がく片は緑色で5個。おしべ10個。子房の頂に3個の花柱がある。

【分布】 国内では本州（関東以西）、四国、九州、国外では中国の冷温帯。県内では津市美杉町、松阪市飯高町、大台町に分布する。

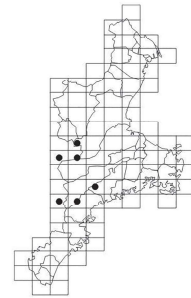
【現況・減少要因】 山地の落葉広葉樹林やその林縁に生え、踏みつけ、林道改修、山林伐採や混生するスギ、ヒノキなどの生長に伴ない生育環境が悪化し減少している。採取圧も見逃せない。

【保護対策】 生育地である落葉広葉樹林の維持に努めるとともに、踏みつけ、採取、林道改修などの人為圧を排除する対策が必要である。

【文献】 45, 57, 139.

(葛山博次)

(写真：大台町，2015年，市川正人撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

フシグロセンノウ

被子植物 ナデシコ科

Silene miqueliana (Rohrb.) H.Ohashi et H.Nakai

【選定理由】 既知の生育地点数は10以下であり、生育地が限られている。

【種概要】 木陰に生える多年草。茎は高さ50～100 cm。上部で分岐し、軟毛がまばらにあり、節はふくれる。葉は5～14 cmで楕円状披針形。基部は次第に狭くなり無柄または短柄。花は4.5～6 cm，7～10月に集散花序につく。主軸の頂花には6～12 mmの柄がある。

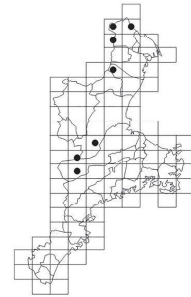
【分布】 本州（青森から山口県）、四国、九州に分布する。県内ではいなべ市、伊賀市、松阪市で記録がある。

【現況・減少要因】 かつては分布域において安定した個体数を維持していたが、ニホンジカの食害により激減している。

【保護対策】 ニホンジカによる食害に対する対策が必要。

(岡田峰尚)

(写真：松阪市，2024年，山本和彦撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

ツカモトハコベ

被子植物 ナデシコ科

Stellaria hibinoi Seriz.

【選定理由】 既知の生育地点数は10以下で、個体数は1,000未満である。

【種概要】 林縁下や溪流沿いのやや湿った地に生育する多年草である。茎は約10～20 cmほどで直立する。葉は大きいものでは長さ5 cm，幅4 cmに達する。三角状卵形で先は短く尖る。対生し上部ほど節間が短くなる。花は葉腋から出る約2～3 cmの柄の先にそれぞれ1個着く。5枚の萼片は5 mm内外で花弁はない。花期は6～7月。固有種。

【分布】 本州（長野県南部～大阪府）。県内では津市、松阪市、伊賀市。

【現況・減少要因】 生育地点によっては減少している。シカ食害が懸念される。

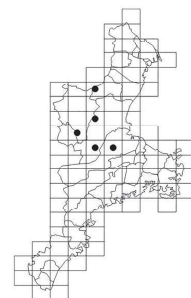
【保護対策】 防鹿柵の設置や個体数管理など保護管理が必要である。

【特記事項】 尾鷲市など三重県南部ではツカモトハコベと形態は似るものの小型のタイプが生育している。異種の可能性もある。

【文献】 172.

(市川正人)

(写真：津市，2013年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

ギンバイソウ

Deinanthe bifida Maxim.

被子植物 アジサイ科

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。各地点の個体数は250未満である。シカ食害が顕著である。

【種概要】山地の半日陰に生える多年草。茎は高さ40~70 cm。葉は対生し、葉身は長さ10~20 cm、幅6~15 cmで粗い毛があり、葉柄に流れる。下部の葉先は普通2裂する。花は白色で、装飾花と両性花を散房状につける。固有種。

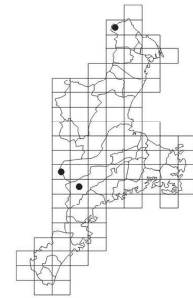
【分布】本州（関東以西）、四国、九州。県内ではいなべ市、松阪市、大台町で記録されている。

【現況・減少要因】シカの食害で激減している。減少要因は土壤崩壊とシカ食害である。

【保護対策】シカの個体数管理が急務である。

(市川正人)

(写真：いなべ市，2010年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ハガクレツリフネ

Impatiens hypophylla Makino var. *hypophylla*

被子植物 ツリフネソウ科

【選定理由】既知の生育地点数が10以下であり、生育地が中勢の山間地に限られている。

【種概要】山地の沢や湿った林下に生育する軟弱な一年草。草丈は30~80 cmになる。7~10月に葉腋から花柄をのびし淡紅紫色の花をつり下げる。

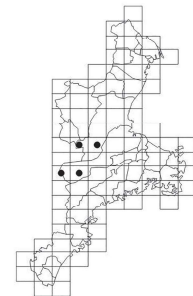
【分布】国内では本州（三重県、紀伊半島）、四国、九州。県内では伊賀市、津市、松阪市で記録がある。

【現況・減少要因】津市美杉町や松阪市飯高町など中勢地域の山間地の湿った林床には今も生育している。しかし、ニホンジカによる食害、森林伐採、林道敷設、開発、遷移の進行などで減少傾向にある。

【保護対策】森林伐採は計画的にすすめる。

(山路武夫・岡田峰尚)

(写真：松阪市，2008年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

モロコシソウ

Lysimachia sikokiana Miq.

被子植物 サクラソウ科

【選定理由】既知の生育地点数は10以下で、各生育地の個体数はおよそ50未満である。

【種概要】海岸近くの林内に生える多年草。茎は高さ30~80 cm、稜があり、まばらに点状の毛が生える。7~8月、上部の葉腋ごとに1花をつける。花冠は黄色、5列し、裂片は反り返り、径1~1.2 cm、下向きに開く。

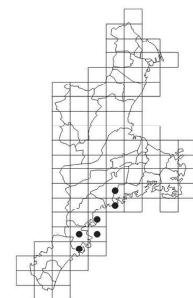
【分布】国内では本州（関東地方南部以西）から沖縄。国外では中国（台湾）に分布。県内では南勢、紀州に分布する。

【現況・減少要因】県内では海跡湖周辺や海岸部の山林内にみられる。記録地の一部は、道路開設等で消滅したところもみられるが、今のところ概ね大きな増減はなく、現状維持の状況であるところが多いと思われる。ニホンジカの嗜好植物のようで、食害から免れている。そのこともあり、近年やや増加傾向にある。

【保護対策】本種が自生する海跡湖や海岸部は、他の貴重な植物も多くみられるところが多い。このような地域は、生育環境を現状のまま残すことが必要である。

(山本和彦)

(写真：尾鷲市，2024年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類

イワザクラ

被子植物 サクラソウ科

Primula tosaensis Yatabe var. *tosaensis*

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、採取圧力が強い。
 【種概要】山地の岩壁に生育する多年草。葉はほぼ円形で長い柄がある。4～5月に花茎をのぼし淡紅紫色の花を数個つける。花柄や葉柄には白い開出毛がある。
 【分布】国内では本州（岐阜県、三重県、紀伊半島）、四国、九州中部。県内ではいなべ市、菰野町、津市、松阪市、大台町で記録がある。
 【現況・減少要因】いなべ市、松阪市では現在も確実に生育している。高い岸壁の生育地では比較的高密度だが、人の手の届くところでは少ない。
 【保護対策】花期を中心にパトロールを毎年実施し、生育状況の確認、採取防止、野生植物保護を呼びかける。

(山路武夫)

(写真：いなべ市，2020年，市川正人撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

イワウチワ

被子植物 イワウメ科

Shortia uniflora (Maxim.) Maxim.

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、各生育地点の個体数は100未満である。
 【種概要】山林の林床や岩場などに群落をつくっている常緑の多年草。地下の根茎は長く這い、根生葉は質が厚く光沢がある。葉は広楕円形で基部は円形またはくさび形となる。ふちは波状の鈍鋸歯があり、直立する。春、花茎の先端に淡紅色の花を1個つける。花冠は径2.5～3cmで、5深裂し各裂片の先はさらに細かく裂ける。5個のおしべと5個の仮おしべがある。めしべは1個、蒴果は卵球状で先が尖る。

【分布】日本固有種。本州（東北から中国地方東部）の冷温帯。県内では鈴鹿山脈の北・中部（いなべ市、菰野町）と伊賀市、津市に分布する。

【現況・減少要因】生育地は、基盤の土石の崩落、植生遷移の進行などの環境変化圧によりせばめられている。採取圧も受けている。

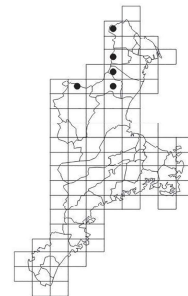
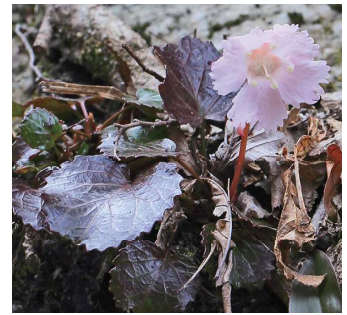
【保護対策】生育地の上層木の間伐、枝打ちにより植生遷移の進行を抑え、また、土石の崩落、流出を止める対策が必要である。採取圧の防止も急務である。

【特記事項】同属のイワカガミの仲間は一花茎上に2～数個の花をつけ、葉先がくぼまない。

【文献】34.

(葛山博次)

(写真：菰野町，2014年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

EX
EW
CR
EN
VU

サラサドウダン

被子植物 ツツジ科

Enkianthus campanulatus (Miq.) G.Nicholson var. *campanulatus*

【選定理由】既知の生育地点数は10程度。ニホンジカ等、野生植食動物の摂食により個体数の減少が著しい。

【種概要】落葉低木で高さ2～5m。倒卵形の葉（長さ2～5cm）が枝先に互生し、5～6月頃短い総状花序（長さ2～3（6）cm）を枝先につける。10個内外の花冠は鐘形で、花冠下部は黄白色に紅色の縦条が入り上部は淡紅色。固有種。

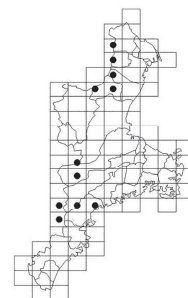
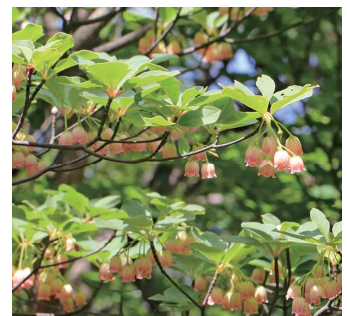
【分布】北海道（西南部）、本州（兵庫県以東）、四国（徳島県）に分布。県内では鈴鹿山系、台高山系などの山地（いなべ市、菰野町、亀山市、津市、松阪市、大台町ほか）に分布。

【現況・減少要因】主な生育地である山地で、近年、ニホンジカ等の野生植食動物が過度に増え、その食害によって個体数が減少している。また観賞用、園芸用の採取もみられる。

【保護対策】生育地の多くは、採取が禁止されている国定公園域であるが、野生植食動物による食害に対する対策が必要。

(武田明正・市川正人)

(写真：菰野町，2016年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

DD

アカモノ

被子植物 ツツジ科

Gaultheria adenothrix (Miq.) Maxim.

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下であり、各生育地点の個体数は100未満である。

【種概要】 濃緑色の小灌木で高さ10~20 cm、やや赤褐色を帯び地下茎は伏臥。葉は広卵形で革質、光沢あり。夏、枝の先端または上部の葉腋に数本の花茎を直立し、各1個の花を下垂する。花茎及びリン片状の苞葉には赤褐色の毛がある。がくは5裂し、裂片は卵形である。花冠は鐘形で白色、長さ7~8 mm、ふちは5裂し、多少紅色をおびそり返る。果実は蒴果であるが、がくは成長して赤色多肉質となり、果実を包んでいる。

【分布】 日本固有種。北海道、本州、四国の冷温帯から寒帯に生育する。県内では鈴鹿山脈の北・中部（御在所岳を中心）に分布する。

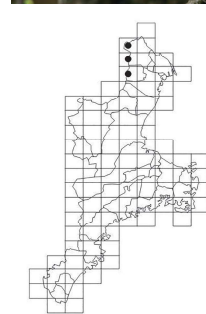
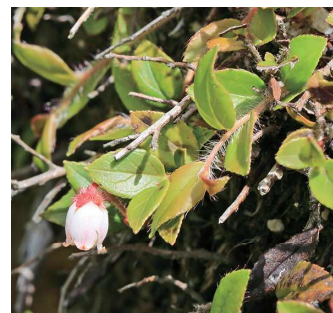
【現況・減少要因】 本県に生育する個体は樹勢きわめて貧弱である。生育地へのササ類の侵入や土砂の崩落による埋没、あるいは流失、採取圧により減少している。

【保護対策】 生育地へのササ類の侵入を止める刈り払いや、土砂の崩落を防止する土留めなどの保全措置が必要である。また、採取圧を禁止することも大切である。

【文献】 34, 81.

(葛山博次)

(写真：菰野町，2014年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

キヨスミミツバツツジ

被子植物 ツツジ科

Rhododendron kiyosumense (Makino) Makino

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下で、各生育地の個体数は250未満である。

【種概要】 若枝、葉柄は無毛。葉の縁に先が毛に終わる微小な鋸歯があり、裏面主脈の下部両側に果期にも残る軟毛が密生する。花芽は披針状長楕円形でほとんど無毛。蒴果はゆがんだ円柱形、褐色の長毛がやや密に生える。

【分布】 国内では千葉県、神奈川県、静岡県、三重県に分布。県内では大台町、紀北町、尾鷲市等からの記録がある。

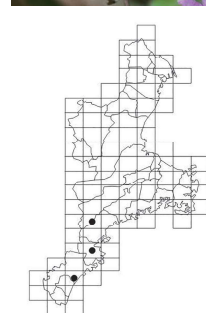
【現況・減少要因】 やや標高の高い岩場や林縁、あるいは林道沿いにみられる。トサノミツバツツジと同じようなところに生育する。岩場の自生株は斜面の崩壊がない限り持続していくものと思われる。林道拡幅工事による個体数の減少が考えられる。

【保護対策】 林道工事、砂防工事の際には注意が必要。

【特記事項】 いなべ市藤原町からの報告があるが、同定可能な標本がないため採用しなかった。今後精査が必要である。

(山本和彦)

(写真：尾鷲市，2021年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

コヨウラクツツジ

被子植物 ツツジ科

Rhododendron pentandrum (Maxim.) Craven

【選定理由】 既知の生育地点は5以下。個体数は不明だが、県内に散見されることからVUと評価された。

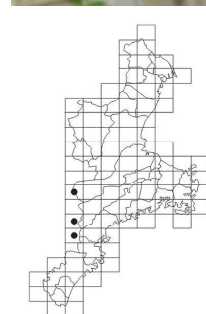
【種概要】 深山の林内、林縁または岩場に生える高さ1~2 mになる落葉低木。葉は枝先に集まってつき、葉身は長さ2~5 cm、幅1~2.5 cm、長楕円形で先がとがり、表面と縁には毛があり、裏面は脈上を除いて無毛。葉柄は長さ2~4 mm、粗い毛が散生。花期は5~6月、枝先に暗赤褐色の花が3~6個つく。花冠は長さ5~7 mmのゆがんだ壺形で浅く5裂する。

【分布】 国内では北海道、本州、四国、九州。国外では南千島、サリンに分布。県内では菰野町、松阪市、大台町、熊野市からの記録がある。

【現況・減少要因】 現況については不明であるが、今後、調査により他地域から発見される可能性が高い。

(山本和彦)

(写真：松阪市，2013年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

シマコバノミツバツツジ

被子植物 ツツジ科

Rhododendron reticulatum D.Don ex G.Don subsp. *ciliatum*
(Nakai) Minamitani var. *shimanum* Minamitani

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下である。伊勢志摩の主に島嶼に分布し今の所個体数は少ない。今後、新たな個体群が発見される可能性がある。

【種概要】 アラゲコバノミツバツツジに似るが、葉の裏面はほとんど無毛。葉身は菱状広卵形、他変種に比べ著しく葉身が厚く、アラゲコバノミツバツツジの2倍ほどで0.3 mmに達する。葉の両面ともに光沢が無い。志摩地方の島嶼に固有。

【分布】 伊勢志摩。

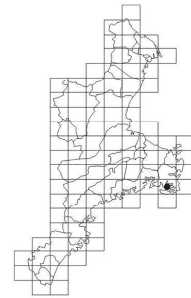
【現況・減少要因】 島嶼や公園の林縁にわずかに生育する。海岸部の開発や照葉樹林の伐採で消滅の可能性もある。

【保護対策】 海岸部の開発や照葉樹林の伐採には注意を要する。

【文献】 164, 165.

(山脇和也)

(写真：鳥羽市，2024年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

トウゴクミツバツツジ

被子植物 ツツジ科

Rhododendron wadanum Makino

【選定理由】 既知の生育地点数は10以下で、未知の生育地は既知の地点数に比べて多くない。

【種概要】 落葉低木で高さ1.5～3 m。広菱形の葉は枝先に3枚輪生状につく。4～5月頃、紅紫色の花が枝先に1～2個咲く。長さが不揃いの雄蕊は10本。花柱の中央から下部に白色の腺毛がやや密に生える。固有種。

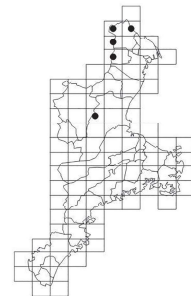
【分布】 東北（山形県東部、宮城県）、関東、中部の太平洋側域に分布。県内では主として鈴鹿山系の高地（いなべ市、菰野町）、布引山地（津市）で生育が確認されている。

【現況・減少要因】 鈴鹿山系・布引山地などの高地に稀に生育する。花木として観賞用に採取され、山腹崩壊などの自然災害や過度に繁殖した野生植食動物の摂食などにより個体数が減少している。

【保護対策】 生育地は、採取が禁止されている鈴鹿国定公園域であるが、野生植食動物による食害に対する対策が必要。

(武田明正・市川正人)

(写真：菰野町，2014年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

シチョウゲ

被子植物 アカネ科

Leptodermis pulchella Yatabe

【選定理由】 既知の生育地点数は約10であり、分布がきわめて限定的である。

【種概要】 川岸の岩場などに生える落葉小低木。開花期は7～8月。紫から紅紫色の花をつける。果実は蒴果。

【分布】 日本固有種。紀伊半島（三重県、和歌山県）と高知県の一部にのみ分布。県内では伊勢市、大台町、紀北町、尾鷲市、熊野市などで記録がある。

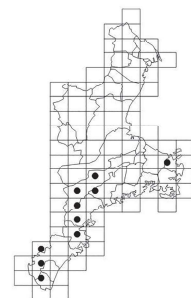
【現況・減少要因】 川岸の岩場という特異な場所に生育する種であり、護岸工事や河川改修などによる減少が考えられる。

【保護対策】 生育地の川の流域全般の環境保全が重要である。

【文献】 48.

(平山大輔)

(写真：熊野市，2024年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

ヒロハコンロンカ

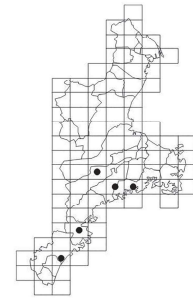
被子植物 アカネ科

Mussaenda shikokiana Makino

- 【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、個体数も少ない。
 【種概要】山地に生える落葉低木。高さ3m。開花期は6～7月。集散花序をつけ、花は黄色。果実は液果で冬に熟し、直径8mm程度。
 【分布】国内では静岡県、紀伊半島、四国、九州に分布する。国外では中国の *Mussaenda esquirolii* H.Lév. と近縁または同種と考えられている。県内では南伊勢町、尾鷲市などで記録がある。
 【現況・減少要因】南勢、紀州地域の3か所。開発などにより減少したと考えられる。
 【保護対策】生育地の保全が望まれる。
 【文献】95.

(平山大輔)

(写真：尾鷲市，2006年，山本和彦撮影)



三重県 2025	VU
三重県 2015	VU
環境省 2020	—

イヌセンブリ

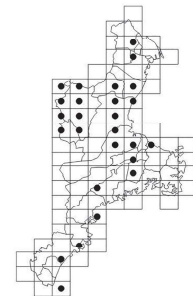
被子植物 リンドウ科

Swertia tosaensis Makino

- 【選定理由】既知の生育地点数は100以下で、各生育地の個体数は250未満である。
 【種概要】山野の湿地に生える越年草。茎は所々で分枝し、葉はセンブリより幅が広く、倒披針形、長さ2～5cmで、先は鈍い。花は10～11月、白色でわずかに淡紫色の条があり、径約15mm。
 【分布】国内では本州、四国、九州。国外では朝鮮半島、中国に分布。県内では北勢、伊賀、中勢、南勢、紀州地域に分布。
 【現況・減少要因】県内に広く分布するが、比較的まれであり、絶滅した地域もあると思われる。おもに溜池の岸辺や湿地等にみられるが、湿地の埋め立て、溜池の改修工事や植生遷移等で減少傾向にある。
 【保護対策】本種の生育地には、他にも保護上重要な湿地生の植物がいくつかみられる。不注意な開発行為により、これらの生育地が消失することのないよう、十分な配慮が必要である。

(山本和彦)

(写真：津市，2010年)



三重県 2025	VU
三重県 2015	VU
環境省 2020	VU

アイナエ

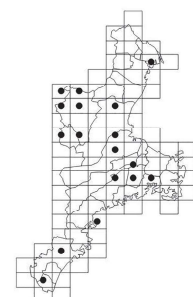
被子植物 マチン科

Mitrasacme pygmaea R.Br.

- 【選定理由】既知の生育地点数は20以下であるが、各地点の個体数は少なく、減少傾向にある。
 【種概要】野原や道端に生える小形の1年草。高さは5～20cmで下部に基部のつながった対生する葉を数対つける。葉は長さ7～15mm、幅3～5mmの卵形から長楕円形で茎とともに縁に毛を持つ。花は白色4裂で径2.5mm、8～10月頃に咲く。2～10cmの散形状の花茎を茎頂や葉腋から伸ばし、1～3段となって3～15個の花をつける。花柱の宿存した蒴果をつくる。
 【分布】本州から九州。県内では桑名市、亀山市、伊賀市、津市、松阪市、多気町、玉城町、伊勢市、大台町、紀北町、尾鷲市、熊野市、御浜町、紀宝町で記録されている。国外ではアジア東部から南部、豪州。
 【現況・減少要因】同じような草丈内に生え目立たないため、新産地はさらに広がると考えられる。土地造成や植生遷移の進行による減少が懸念される。
 【保護対策】土地造成に注意するとともに定期的な草刈等による里山環境の維持が必要である。

(市川正人)

(写真：熊野市，2016年，池田博撮影)



三重県 2025	VU
三重県 2015	VU
環境省 2020	—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

チョウジソウ

被子植物 キョウチクトウ科

Amsonia elliptica (Thunb.) Roem. et Schult.

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。ニホンジカの食害により激減した生育地も出現している。

【種概要】茎の高さ40~80 cm。葉は長楕円状披針形で長さ6~10 cm。花は5~6月、茎頂に10数個の花を集散状につける。

【分布】国内では北海道、本州、四国、九州。国外では朝鮮半島、中国に分布。県内では伊勢市、南伊勢町、大紀町、紀北町、尾鷲市に生育。

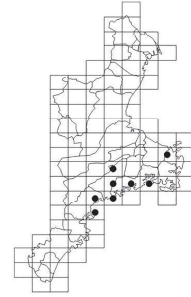
【現況・減少要因】県内では主に海跡湖周辺に生育。ニホンジカの嗜好植物であったが、最近採食されるようになり個体数も減少傾向にある。またマニアによる採取圧が強く、さらに紀北町にみられる群生地は、埋め立て計画があり絶滅が危惧される。

【保護対策】県内の海跡湖周辺には多様な植物群がみられ、興味深い植物的自然が形成されている。本種を含めた貴重な植物群を保全するためにも県内の海跡湖の保全対策が必要。

【特記事項】2015年版ではニホンジカの食害が懸念されることを記載したが、その後食害が進行し、消滅に近い生育地も散見されるようになっている。

(山本和彦)

(写真：紀北町，2023年)



三重県 2025
VU
三重県 2015
VU
環境省 2020
NT

スズサイコ

被子植物 キョウチクトウ科

Vincetoxicum pycnostelma Kitag.

【選定理由】既知の生育地点数は100以下であるが、群落をつくらず点在。各生育地の個体数は10未満である。

【種概要】多年草。茎は細く直立して1本立ちとなり、高さ40~100 cm。葉は対生し、長さ6~13 cmで細い。花期は7~8月、茎の先や上部の葉腋から長い柄のある花序を出し、集散状に黄褐色の花をつける。果実は狭披針状紡錘形で長さ約7 cm、径7 mm、種子には冠毛がある。

【分布】日本全土。国外では東アジアの温帯に広く分布。県内では伊賀地域での確認が多く、そのほかいなべ市、桑名市、四日市市、菰野町、亀山市、津市、名張市、松阪市、多気町、玉城町、度会町、伊勢市、鳥羽市、志摩市、大紀町、御浜町などに分布する。

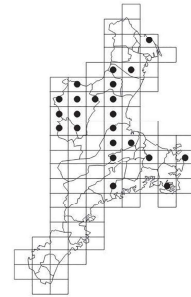
【現況・減少要因】現在のところ比較的多くの地域で見られるが、生育可能な丘陵から低山地の谷戸田周辺の草地、平野の河川の堤防や水路わきの土手などの草地が改変を受けて次第に減少している。また、生育地の管理放棄による植生の変化も減少を加速させている。

【保護対策】生育地の改変を停止し、植生遷移の進行を止める定期的な草刈などを実施する必要がある。

【文献】34, 43, 69.

(葛山博次)

(写真：御浜町，2023年，山本和彦撮影)



三重県 2025
VU
三重県 2015
VU
環境省 2020
NT

スナビキソウ

被子植物 ムラサキ科

Heliotropium japonicum A.Gray

【選定理由】既知の生育地点数は1地点。2016年に三重県で初めて数株が確認され、その後増殖し、ここ数年では株数は安定している。

【種概要】海岸の砂地に生育する多年草。長い地下茎があり、茎は良く分枝し、高さ25~30 cmになる。葉は互生し、葉柄はなく、縁は全縁となる。葉質はやや厚く多肉質で両面に圧毛が生える。花は白色、花期は5~8月。

【分布】国内では北海道、本州、四国、九州。国外では朝鮮半島、中国大陸北部。県内では伊勢市の1か所のみだが、愛知県の伊勢湾沿岸にも分布する。

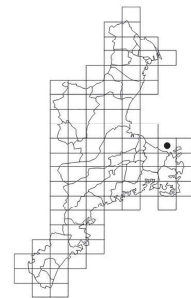
【現況・減少要因】生育地では2か所に群落があり、地権者らによって生育範囲が保護されている。

【保護対策】海岸の開発や浸食による砂浜の減少、車の乗り入れや人による踏み付け、誤った海岸清掃による抜き取り等が生存の脅威となる。

【特記事項】長距離移動をする蝶であるアサギマダラが吸蜜に訪れるため、観察者らによる踏み付けや持ち去りが発生しないよう、啓発が必要である。

(半田俊彦)

(写真：伊勢市，2017年，池田博撮影)



三重県 2025
VU
三重県 2015
—
環境省 2020
—

ホタルカズラ

被子植物 ムラサキ科

Lithospermum zollingeri A.DC.

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。各生育地点の個体数は50未満である。

【種概要】日当たりのよい草地や疎林内に生える草丈15~25 cmの多年草。葉は長さ2~6 cm、幅0.6~2 cmで剛毛がある。4~5月頃、径15 mm内外の青紫色の先が5裂する筒状花をつける。花後横走する無花枝を出す。

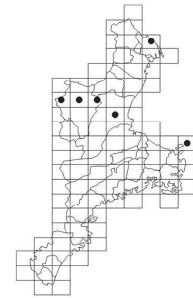
【分布】北海道から九州。県内では桑名市、伊賀市、津市、鳥羽市に記録がある。国外では朝鮮、中国、台湾。

【現況・減少要因】各生育地の個体数は少なく、植生遷移や開発などで減少している。遷移途上の不安定な環境に生育していることが多く、消長も激しい。

【保護対策】小規模土地改変事業で消滅するような環境に生育することが多い。改変に当たっては、回避・低減を図りたい。

(加田勝敏・市川正人)

(写真：津市，2011年，市川正人撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

メジロホオズキ

被子植物 ナス科

Lycianthes biflora (Lour.) Bitter

【選定理由】既知の生育地点数は5以下で、各生育地の個体数は50未満。

【種概要】海岸近くに生える多年草。茎はたかさ60~90 cm、葉は卵形または狭卵形。茎、葉ともやや密に軟毛が生える。6~10月、葉腋に1~3個の白色の花をつける。罅は10裂し、液果は球形で7~10 mm、赤く熟す。

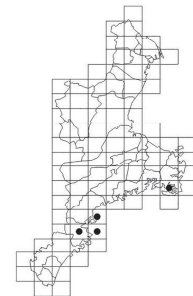
【分布】国内では本州南部から沖縄。国外では中国、マレーシア、ニューギニアなど熱帯に広く分布。県内では志摩市、紀北町、尾鷲市からの記録がある。

【現況・減少要因】林縁や攪乱された場所等に生育するが、生育地は県内でも限られている。自生地のある紀北町大島では、灯台への歩道をつけるために常緑広葉樹林を伐開した跡に出現している。

【保護対策】上層木が茂ってくると減少していくが、自生地周辺で攪乱地が形成されると、いつのまにかそこに出現していたりする。本種が生育する自然環境を全体として保全する必要がある。

(山本和彦)

(写真：紀北町，2011年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ハシドイ

被子植物 モクセイ科

Syringa reticulata (Blume) H.Hara var. *reticulata*

【選定理由】既知の生育地点数は5以下で、生育地が限られている。

【種概要】山地に生える落葉小高木で高さ6~7 m。樹皮の皮目は横長でサクラ類と似る。卵形から広卵形の葉身の長さは6~10 cm程度で対生。先が尖り、基部は円形ないし浅心形。葉柄の長さ2~3 cm。花は白色、6~7月頃咲き円錐花序をつくる。

【分布】国内では北海道、本州、四国、九州。国外では朝鮮半島、千島（南部）に分布。県内では、いなべ市（藤原岳、御池岳）、菰野町（御在所岳、竜ヶ岳）、大台町（大杉谷）などで分布が確認されている。

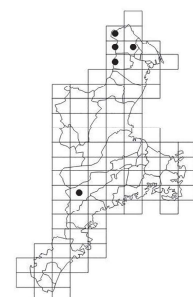
【現況・減少要因】鈴鹿山脈の石灰岩地などで単木的に生育が確認されている。土石流、山腹崩壊などの自然災害と植食野生獣の摂食による更新阻害により個体数が減少している。

【保護対策】野生植食動物による食害に対する対策が必要。

【文献】81。

(武田明正)

(写真：いなべ市，2017年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蕨類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

マルバノサウトウガラシ

被子植物 オオバコ科

Deinostema adenocaulum (Maxim.) T.Yamaz.

【選定理由】 既知の生育地点数は10程度。湿地や水田の開発、耕作放棄などで遷移が進み、生育地が減少するおそれがある。

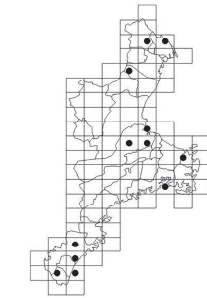
【種概要】 湿地や水田に生育する一年草。葉は卵円形で対生、長さは1 cmに満たない。8～10月に上部葉腋に柄のある小さな紅紫色の花をつける。

【分布】 朝鮮半島南部。国内では本州、四国、九州。県内ではいなべ市、桑名市、四日市市、松阪市、鳥羽市、南伊勢町、熊野市、御浜町、紀宝町で記録がある。

【現況・減少要因】 稲刈後の水田や湿った休耕田には生育しているが、耕地整理された乾田ではみられなくなった。

【保護対策】 湿地や小さな水田を残しておくことが必要である。
(山路武夫・平山大輔)

(写真：熊野市，2016年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

クワガタソウ

被子植物 オオバコ科

Veronica miqueliana Nakai

【選定理由】 既知の生育地点数は10以下であり、各地点の個体数は50未満である。

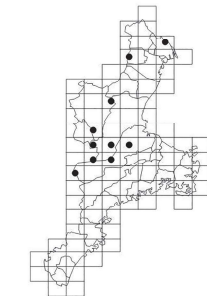
【種概要】 山地林下に生える高さ10～20 cmの多年草。茎は株をつくり、直立または斜上し、曲がった毛が散生する。葉は対生し、上部では大きく浅い鋸歯がある。卵形で2～5 cmの葉身、0.5～2 cmの柄を持ち、両面に毛を散生する。花序には少数の花がまばらにつく。淡紅白色で径8～13 mm、5～6月に開く。蒴果は三角状扇形で底部は切形である。固有種。

【分布】 本州（東北地方南部から紀伊半島の太平洋側）。県内では桑名市、多度町、菰野町、亀山市、伊賀市、津市、松阪市などの高所、温帯域で記録されている。

【現況・減少要因】 比較的深い山間に生育し増減はない。生育環境の変化が減少要因。

【保護対策】 自生地の環境を現状のまま維持することである。
(市川正人)

(写真：津市，2017年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

コムラサキ

被子植物 シソ科

Callicarpa dichotoma (Lour.) K.Koch

【選定理由】 既知の生育地点数は50以下。各生育地の個体数は少ない。

【種概要】 ムラサキシキブより全体に小形。茎は紫色で少し稜のどることがあり、花序は葉柄のわきからやや離れてつく。花期は7～8月。

【分布】 国内では本州、四国、九州、沖縄。国外では朝鮮半島、台湾、中国の亜熱帯から暖温帯。県内では広い範囲に点々と分布する。

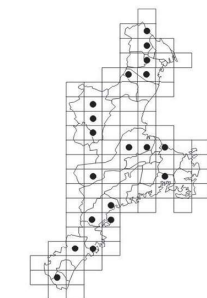
【現況・減少要因】 生育地は山野の湿地で土地開発等の人為圧を受けやすく、また、環境変化圧、特に植生遷移の進行等により減少している。

【保護対策】 生育地の開発等の人為圧の排除および湿地の植生遷移を停止する定期的な伐採が必要である。

【文献】 34, 35, 43, 57, 69, 76, 141.

(葛山博次)

(写真：いなべ市，2015年，市川正人撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

タニジャコウソウ

被子植物 シソ科

Chelonopsis longipes Makino

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。各生育地の個体数はおよそ50未満と思われ、開発、採取圧がある。

【種概要】山の谷間に生える多年草。茎は基部から直立して斜上し、高さは50～100 cm。花期は9～10月。ジャコウソウに似るが花柄が長く3～4 cmあり、葉柄より著しく長い。花冠は長さ3.5～4 cmで紅紫色。

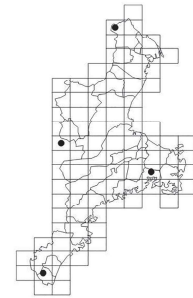
【分布】国内では本州（関東以西）から九州。県内ではいなべ市、伊賀市、伊勢市および紀宝町で記録がある。

【現況・減少要因】伊勢市では最近でも確認されているが、その他の所では現状不明である。開発や採取や遷移などが減少の要因と考えられる。

【保護対策】生育状況調査を早急を実施するとともに、生育地の環境を保護し、森林伐採されない対策が必要である。

(山脇和也)

(写真：伊勢市，2023年，麻生晴子撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

マネキグサ

被子植物 シソ科

Loxocalyx ambiguus (Makino) Makino

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。各生育地の個体数はおよそ250未満である。

【種概要】山の木陰に生える多年草。茎は直立し高さ40～70 cm。葉はまばらにつき、下部のものは心形。上部のものは卵形。花は葉腋に1～3個ずつつき、暗紅紫色で長さ2 cm弱。花期は8～9月。

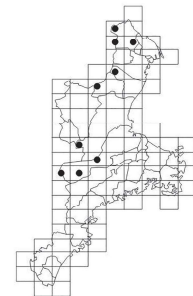
【分布】国内では本州（神奈川県以西）から九州。県内では北勢および中勢地域の少々湿った林内にみられる。

【現況・減少要因】県内の深山に点々と見られるが、現況は不明である。森林の伐採や開発により減少することが考えられる。

【保護対策】森林伐採時には事前に調査を行い、確認されれば開発を避けて保護すべきである。

(山脇和也)

(写真：津市，2006年，市川正人撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

シロネ

被子植物 シソ科

Lycopus lucidus Turcz. ex Benth.

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。生育地は河川や水路脇、池畔などの湿地であり、開発や植生遷移により減少している。

【種概要】多年草。太く白い地下茎から茎が直立し、高さ80～120 cmになる。茎は断面が四角形で枝分かれしない。葉は対生し広披針形で長さ8～15 cm、先は鋭く尖り縁に粗い鋸歯がある。花期は8～10月。

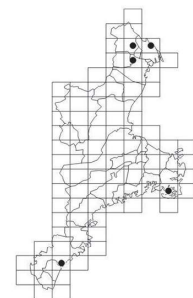
【分布】国内では北海道、本州、四国、九州。国外では東アジア、北アメリカ。県内ではいなべ市、桑名市、菰野町、志摩市、熊野市で記録がある。

【現況・減少要因】県内で現存している生育地はかなり少ないと思われる。志摩市の生育地では湿地内に点在するが、ヨシやアンペライなどの大型植物の繁茂によって衰退傾向にある。

【保護対策】生育地の保全とともに、大型植物の刈り取りなどによる湿地環境の管理も大切である。

(半田俊彦)

(写真：志摩市，2019年，山本和彦撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ミズトラノオ

被子植物 シソ科

Pogostemon yatabeanus (Makino) Press

【選定理由】既知の生育地点数は10程度であるが、生育地の乾燥により消滅や減少傾向が強い。

【種概要】水辺の草地に生育する多年草。長い地下茎があり、そこから何本かの茎を立てる。葉は普通4枚輪生。花期は8～10月で花茎にピンクの花穂を伸ばす。生育していても花をつけないこともある。

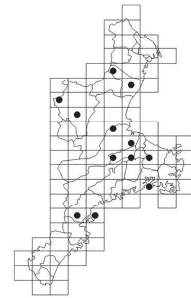
【分布】朝鮮半島。国内では本州から九州。県内では鈴鹿市、伊賀市、松阪市、多気町、玉城町、伊勢市、南伊勢町、紀北町で記録がある。

【現況・減少要因】生育地は県下に点在しているが、水位の変動や遷移の進行など環境の変化に弱く消滅したところもある。

【保護対策】開発は慎重に行うことと、適度に草刈りをしたり湿潤状態を維持することも必要である。

(山路武夫)

(写真：伊勢市，2016年，半田俊彦撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

ハイコトジソウ

被子植物 シソ科

Salvia glabrescens (Franch. et Sav.) Makino var. *repens* (Koidz.) Kurosaki

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。個体数は1,000未満である。

【種概要】山野のやや湿った木陰に生える多年草。茎は斜上、または這うことが多い。葉は対生し、葉柄は長く、三角状鋸形である。花期は9月前後。花は紫色で約2.5 cm、筒部内面に毛がある。類似のアキギリとは変種関係にあるが、全体にやや小形で、葉は切れ込みが深い傾向や中裂片が楕円～長楕円形となることが多いことで区別される。

【分布】本州（近畿南部）。県内では亀山市、伊賀市、名張市。

【現況・減少要因】生育環境からシカ食害は現在のところ見られない。開発圧力が憂慮される。

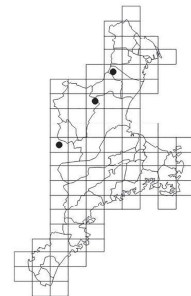
【保護対策】土地造成など開発に注意を要する。

【特記事項】アキギリに類似する。

【文献】160。

(市川正人)

(写真：名張市，2012年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

ミゾコウジュ

被子植物 シソ科

Salvia plebeia R. Br.

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。各地点の生育個体数は50未満である。開発圧が強いような環境に生育することが多い。

【種概要】やや湿った路傍などに生えるロゼット葉のある越年草。葉には短柄があり、葉身は長さ3～6 cmの楕円形で縁に低い鋸歯がある。茎は高さ30～70 cmで下向きの細毛がある。5～7月頃、葉腋や茎頂に、穂状に淡紫色の小花を多く着ける。

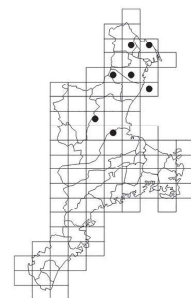
【分布】本州～九州。県内では桑名市、いなべ市、四日市市、鈴鹿市、亀山市、津市、松阪市に記録がある。国外では東アジア、マレーシア、インド、オーストラリア。

【現況・減少要因】低湿地、河川の氾濫原、溜池の縁など人手の加わりやすい環境に生育しているため、生育環境の改変も著しく消長も激しい。高茎草本が繁茂するとすぐに消滅する。

【保護対策】セイタカアワダチソウやオオアレチノギクなど高茎草本が繁茂しないような環境づくりと、時々表土を攪乱して埋土種子の発芽を促せば、個体維持は可能である。

(加田勝敏・市川正人)

(写真：津市，2012年，市川正人撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

ヤマジノタツナミソウ

被子植物 シソ科

Scutellaria amabilis H.Hara

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。各生育地の個体数はおよそ50未満である。

【種概要】丘陵地の林内にややまれに生える多年草。茎は直立し高さ15~25 cmとやや小形で、四角の稜上には上向きの細毛が生える。葉は広卵形から卵心形で長さ1~2 cm。花序は短く、花はまばらにつき、花冠は長さ2~2.5 cmで青紫色。

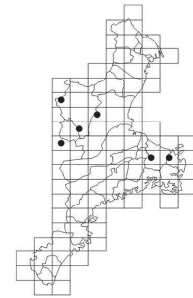
【分布】国内では本州に分布。県内では伊賀と南勢地域の林内に生育。

【現況・減少要因】伊賀市青山高原、名張市の赤目峡、伊勢市の朝熊山などにみられる。国立・国定公園内に含まれるところも多いが、開発などで減少の危険性がある。

【保護対策】この植物が生育するところは開発や道路改修などの時、十分な調査を要する。

(山脇和也)

(写真：伊賀市，2019年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

イガタツナミ

被子植物 シソ科

Scutellaria laeteviolacea Koidz. var. *kurokawae* (H.Hara) H.Hara

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、各地点の個体数は少ない。

【種概要】丘陵地の林縁や田の土手に生える多年草。茎は四角で直立。高さ20~30 cm、長く開出する白毛がある。葉は円く小形、下部の葉が最大で節間が葉より長い。花は6月頃開き、花穂はまばらである。

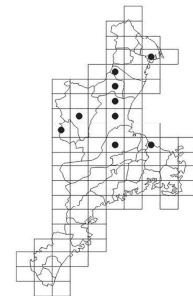
【分布】本州（福島県以西）、四国に分布する。県内では、伊賀市、名張市、津市、松阪市等に標本記録があり、最近では亀山市、伊賀市で現認されている。

【現況・減少要因】森林の荒廃や休耕田が増え、大形の雑草が繁茂し、生育できなくなってきた。

【保護対策】生育地の適度な草刈りを実施して、大形の雑草を除去する。

(南正祝・山原祐衣)

(写真：伊賀市，2013年，市川正人撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ヤマタツナミソウ

被子植物 シソ科

Scutellaria pekinensis Maxim. var. *transitra* (Makino) H.Hara

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、各生育地とも個体数は10未満である。

【種概要】多年草。白色で細長い地下茎がある。茎は高さ15~30 cm、植物全体に上向きの白色の毛を密生する。葉は少数で対生、卵形または卵状三角形で長さ2~4 cm、巾1.5~2.5 cm、先は鋭く尖り、基部は心臓形、ふちには鋭い鋸歯があり、上面は鮮やかな緑色。5~6月、茎頂に花穂をつけ、淡紫色の唇形花をまばらに数個開く。花は短い柄があり、下から上へ開花していく。おしべは4本のうち2本は長い。花柱の先は2裂する。

【分布】日本全土。朝鮮半島の暖温帯から冷温帯。県内ではいなべ市、亀山市、伊賀市、名張市、津市、松阪市、大紀町、大台町、尾鷲市に分布する。

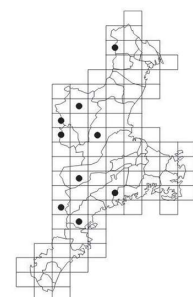
【現況・減少要因】主な生育地は山地の林内であり環境変化圧、特に植生遷移の進行や生育地への土砂の流入、採取圧による人為の影響により減少しつつある。

【保護対策】生育地の植生遷移を止めるために混生する高茎草本の刈り払い、上層木の間伐、枝打ちなどの管理が必要である。また、土砂の採掘にあたっては土止めを作りその流出を防ぐことも大切である。

【文献】34, 69.

(葛山博次)

(写真：津市，2017年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ミヤマナミキ

被子植物 シソ科

Scutellaria shikokiana Makino var. *shikokiana*

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、各地点の個体数は50未満である。

【種概要】山地の木陰に細長い地下茎を出す多年草。茎は直立し5~15 cmで上部に開出腺毛を散生する。葉は1.5~2.5 cmの柄を持ち、葉身は広卵状三角形で長さ2~3 cm、幅1.5~2.5 cmで縁に深く粗い鋸歯がある。ふつう上面に毛が散生する。花は7~8月頃まばらに着き、長さ7~8 mm、淡紅色を帯びた白色である。固有種。

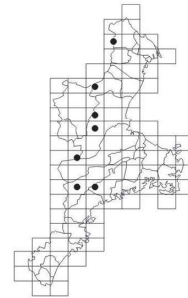
【分布】本州（関東地方以西）、四国、九州。県内ではいなべ市、亀山市、伊賀市、津市、松阪市、大台町、大紀町、紀北町、熊野市で記録されている。

【現況・減少要因】比較的深い山に生育している。減少要因は生育環境の変化である。

【保護対策】自生地の環境を現状のまま維持する必要がある。

(市川正人)

(写真：大台町，2022年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ケヤマウツボ (ヤマウツボ含む)

被子植物 ハマウツボ科

Lathraea japonica Miq. var. *miqueliana* (Franch. et Sav.) Ohwi

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。個体数は少ない。

【種概要】落葉広葉樹林の林床に生える多年生の寄生植物で全体白色。花茎は直立して長さ13~30 cmとなり、5~7月に白色の花をつける。地上部の上方に軟毛を有するものはケヤマウツボとして区別されるが、ここでは区別せずヤマウツボも扱っている。

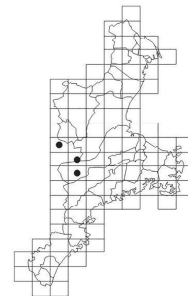
【分布】関東地方以西の本州、四国、九州。国外では朝鮮に分布。県内では津市、松阪市、名張市からの標本記録がある。

【現況・減少要因】県内のいずれの生育地もその生育環境は安定している。

【保護対策】本種が生育できる森林を残しておくことが重要。

(山本和彦)

(写真：松阪市，2014年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

スズメノハコベ

被子植物 ハマウツボ科

Microcarpaea minima (K.D. Koenig ex Retz.) Merr.

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、安定した生育地がない。開発圧が強く、生育地が年々減少する傾向にある。

【種概要】湿地に生える微小な1年草。茎はロゼット葉のある越年草。茎は匍匐して長さ5~20 cm。7~10月に葉腋に1個ずつ淡紅色の花をつける。

【分布】朝鮮半島、中国、東南アジア、インド、オーストラリア。国内では本州（関東地方以西）、四国、九州、沖縄。県内ではいなべ市、津市、松阪市、明和町、多気町、尾鷲市、紀宝町で確認されている。

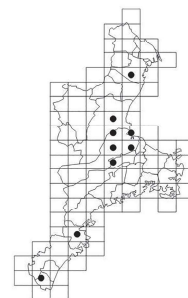
【現況・減少要因】湿地、溜池の縁、水田等に生育するが、埋め立て、改修工事によるコンクリート化、乾田化、管理放棄、農薬汚染などの原因で減少している。

【保護対策】個体が著しく微小で目立たない存在なので、さらなる生育地の確認が必要であるが、既知の生育地での環境の保全と維持が望まれる。

【文献】57.

(加田勝敏)

(写真：尾鷲市，2019年，山本和彦撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

クチナシグサ

被子植物 ハマウツボ科

Monochasma shearerii (S.Moore) Maxim.

【選定理由】 既知の生育地点数は10以下。個体数は250未満である。

【種概要】 日の当たる丘陵・土手の草地に生える半寄生の越年1年草。茎は這うか斜上し、60 cmに達するものもある。葉は対生し、長さ2~3 cm、幅2~4 mmの線形。花は数mmの柄を持ち、10~13 mmの筒状唇形、淡紫色で4~6月に咲く。果実は7 mmほどで長い萼があり、その形をクチナシの実になぞらえて種名とした。固有種。

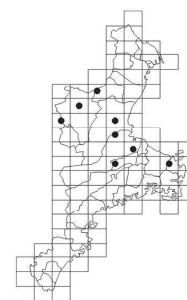
【分布】 本州（関東以西）、四国、九州。県内では菰野町、亀山市、津市、松阪市、伊賀市、多気町、伊勢市、鳥羽市で記録されている。

【現況・減少要因】 少なくとも松阪市では現存する。植生遷移が減少要因となる。

【保護対策】 植生遷移の進行を止める。

(市川正人)

(写真：伊勢市，2007年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

コシオガマ

被子植物 ハマウツボ科

Phtheirospermum japonicum (Thunb.) Kanitz

【選定理由】 既知の生育地点数は10程度であり、現認できる箇所が少なくなってきた。

【種概要】 日当たりの良い草地や路傍に生える半寄生の一年草。茎は直立。全体に柔らかで多細胞の腺毛が密生する。葉は対生。羽状に分裂する。花期は9~10月、葉腋毎に1個花をつける。

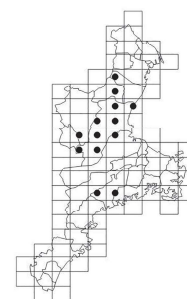
【分布】 北海道、本州、四国、九州と広く分布。県内では、名張市、津市の3カ所で現認されている。

【現況・減少要因】 草地の荒廃による大形雑草の侵入や道路の改修により減少することが多い。

【保護対策】 草地の適度な草刈や道路の無秩序な改修は避けるべきである。

(南 正祝)

(写真：伊賀市，2007年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ヒキヨモギ

被子植物 ハマウツボ科

Siphonostegia chinensis Benth. ex Hook. et Arn.

【選定理由】 既知の生育地点数は10以下であり、各生育地とも個体数は10未満である。

【種概要】 日当たりの良い草地に生える半寄生の一年草。茎は直立して高さ30~60 cm、細毛を密生、葉は対生、羽状に深裂。花は長い萼筒をもち、萼筒の先は同じ大きさに5裂、花冠は鮮黄色、長さ2~3 cm、上下2唇にわかれ、おしべ、めしべは上唇のなかに包まれる。下唇は3裂、上面に大きな2つのひだがある。果実は長楕円形で完全に萼に包まれ、楕円形の種子を多数含む。

【分布】 日本全土。国外では中国、朝鮮半島、台湾、千島の暖温帯から冷温帯。県内ではいなべ市、亀山市、伊賀市、大台町、鳥羽市、熊野市、御浜町などに分布する。

【現況・減少要因】 生育地は土地改変などの人為圧や植生遷移の進行により減少している。

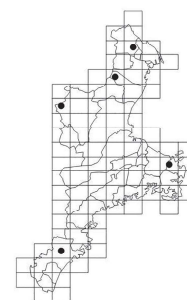
【保護対策】 生育地の開発等の人為圧を抑止し、また、草地植生維持のための定期的な草刈り等の管理が必要である。

【特記事項】 腊葉標本にすると全草黒褐色になるのでクログサの別名がある。

【文献】 34。

(葛山博次)

(写真：伊賀市，2007年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ノタヌキモ

Utricularia aurea Lour.

被子植物 タヌキモ科

【選定理由】 既知の生育地点数は15以下である。各地点の個体数は少ない。
【種概要】 やや富栄養の池沼に生える1年草の浮遊植物。タヌキモやイヌタヌキモの葉は基部で2本の枝に分かれるが、本種は3本の枝に分かれて羽状に展開するため立体的であり、捕虫嚢を多数つける。花期は7～10月。花が黄色で単色、花茎が水中茎より太い、鱗片葉をつけない、越冬芽を形成しないことなどが特徴である。

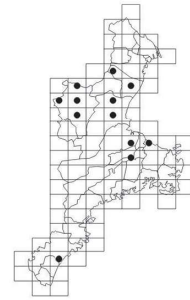
【分布】 本州、四国、九州。県内では鈴鹿市、伊賀市、津市、松阪市、明和町、玉城町、熊野市で記録されている。国外では朝鮮南部、中国南部、マレーシア、インド。

【現況・減少要因】 減少傾向にある。溜池周辺ゴルフ場の農薬汚染や湖沼開発が減少要因と考えられる。

【保護対策】 県内生育地域には多様な湿生・水生植物がみられる。湖沼の保全が必要である。

(写真：松阪市，2012年)

(市川正人)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

ヒメタヌキモ

Utricularia minor L.

被子植物 タヌキモ科

【選定理由】 既知の生育地点数は10以下。溜池の開発などによる急激な減少が予想される。生育面積は狭く、各生育地の個体数は1,000未満である。

【種概要】 古く浅い池に生える多年草。所々地中葉を泥中に出して固着する。水中葉は長さ8～13mmで、まばらに捕虫嚢をつける。8～9月に、高さ10cm位の花軸をだし、ごくまれに4～8個の黄緑色の花をつける。

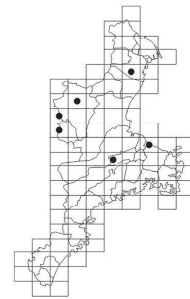
【分布】 国内では本州、北海道。国外では千島。県内では北勢、南勢、伊賀の各地域に生育地がある。

【現況・減少要因】 開発や改修などにより激減の可能性がある。

【保護対策】 環境を変えず、生育地を保護していく必要がある。

(写真：四日市市，2012年，池田博撮影)

(山脇和也)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

ムラサキミミカキグサ

Utricularia uliginosa Vahl

被子植物 タヌキモ科

【選定理由】 既知の生育地点数は10程度である。各生育地の個体数は50未満である。

【種概要】 湿地に生える小さな食虫植物。地中浅く細長い糸状の白い地下茎が這い、まばらに捕虫袋をつける。葉は細いへら形。花茎は高さ7～15cm、花には2～3mmの柄がある。花冠は径4mm内外、淡紫色で距は唇弁より短い。花期は8～9月。

【分布】 日本全土。国外では東南アジア、インド、オーストラリアの暖温帯から冷温帯。県内ではいなべ市、桑名市、四日市市、鈴鹿市、亀山市、津市、名張市、伊賀市、明和町などに分布する。

【現況・減少要因】 生育地の多くは都市近郊で、容易に土地の改変が行われ、消滅している。また、乾燥や植生遷移の進行などの環境変化、採取圧も受け、個体数は減少している。

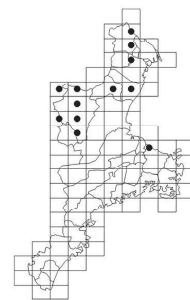
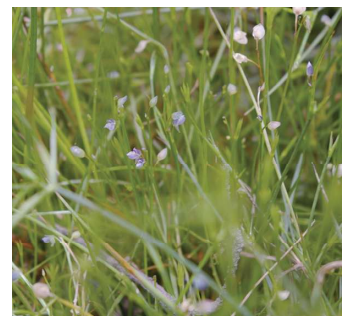
【保護対策】 開発などの人為圧を抑止するとともに、環境変化圧、特に水分条件、植生の変化には注意を払い、生育条件を整える管理も必要である。また、採取圧に対しては地元住民の協力による巡回監視が望まれる。

【特記事項】 ミミカキグサ、ホザキノミミカキグサに比べて少なく、また両種に比べより湿潤地に生育する。

【文献】 34, 43, 69.

(写真：桑名市，2012年，市川正人撮影)

(葛山博次)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

クマツヅラ

被子植物 クマツヅラ科

Verbena officinalis L.

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。個体数は少ない。急激な減少傾向にある。

【種概要】山野の路傍に生える高さ30～80 cmの多年草。茎は方形で直立し、枝を出し、毛がある。葉は羽状に深裂し、長さ3～10 cm、幅2～5 cmで細毛がある。花は細長い穂状花序で6～9月に咲く。花筒は長く、上部で曲がり、雄しべは4本で短く花外には出ない。4分果である。

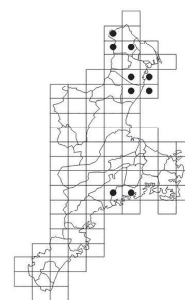
【分布】本州（関東以西）、四国、九州。県内ではいなべ市、四日市市、鈴鹿市、伊賀市、名張市、津市、南伊勢町、大紀町で記録がある。国外では台湾、朝鮮、中国、アジア、ヨーロッパ、北アフリカ。

【現況・減少要因】減少傾向が著しい。道路工事、土地造成など、土地の改変が減少要因となる。

【保護対策】不用意に土地改変を実施しないことである。

(市川正人)

(写真：いなべ市，2019年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蕨類

藻類

キノコ

ツゲモチ

被子植物 モチノキ科

Ilex goshiensis Hayata

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、各生育地の個体数は50未満である。

【種概要】高さ6～10 mの常緑高木、若枝には微毛が密生する。葉質は角質、楕円形または広楕円形、長さ2～5 cm、幅1.5～3 cm、先は短くとがって先端は鈍く、基部は鋭形で葉柄に流れ、鋸歯はなく、両面無毛。雌雄異株。白色で直径4～5 mmの小さな花を短枝に1～5個束生する。

【分布】国内では本州（紀伊半島）、四国、九州、沖縄。国外では台湾に分布。県内では伊勢市、鳥羽市、志摩市、尾鷲市、熊野市、御浜町に分布する。

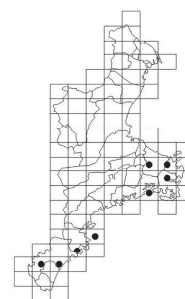
【現況・減少要因】各生育地の大部分は社寺林内であるため、現況は比較的安定していると思われる。

【保護対策】個体数等の継続的な調査が必要である。伊勢市、志摩市に生育するものは社寺林のため現状維持が望ましい。

【文献】42。

(中馬千鶴)

(写真：鳥羽市，2017年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ホソバツルツゲ

被子植物 モチノキ科

Ilex rugosa F.Schmidt var. *stenophylla* (Koidz.) Sugim.

【選定理由】既知の生育地点は2。個体数は少ない、ニホンジカの食害による個体数の減少および消滅が危惧される。

【種概要】地を這う常緑小低木。茎には全面に細点がある。葉は厚く、長さ2～3 cm、幅3～5 mm、縁に鈍鋸歯がある。雌雄異株、花は6～7月、葉腋に小さな白花をつける。ツルツゲの変種であるが、両者の差はそれほど明確ではない。

【分布】東北地方南部、中部地方中部および南部、紀伊半島、四国に分布。県内では大台ヶ原山に分布。

【現況・減少要因】大台ヶ原で確認された個体はいずれも花をつけた痕跡が認められなかった。ニホンジカの食害により衰弱傾向にあるのかもしれない。

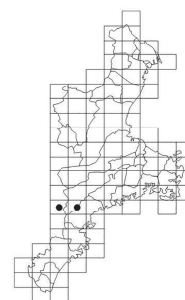
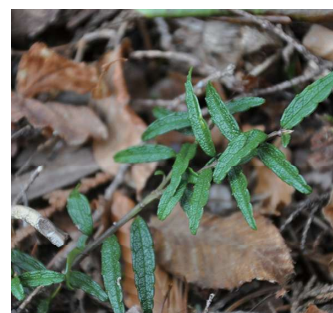
【保護対策】ニホンジカ食害への対策が必要。

【特記事項】本種は奈良県側の大台ヶ原および大峰山脈にも見られ、八経ヶ岳と大台ヶ原が基準標本産地となっている。

【文献】87, 100, 139。

(山本和彦)

(写真：大台町，2015年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ソバナ

被子植物 キキョウ科

Adenophora remotiflora (Siebold et Zucc.) Miq.

【選定理由】既知の生育地点は県内の北部、中部、南部の石灰質の山地全域に生育するため個体数はかなりの数であったが、現在、シカの食害が激しく、食害のない山地斜面や高い位置にわずかに残されているに過ぎない。三重県レッドデータブック2015調査以来急減しているため評価を上げ、従前のNTからVUとした。

【種概要】山地林縁や斜面に生える高さ40～100 cmの多年草。葉身は長さ5～20 cm、幅は3～8 cmで互生し、柄がある。花は散生する円錐花序で、先が広がった長さ2～3 cmの釣鐘形、下向きに着く。柱頭は浅く3裂。萼裂片は長さ5～8 mmの披針形、8月に咲く。

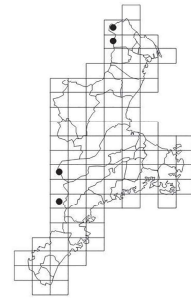
【分布】国内では本州、四国、九州に分布。県内では石灰質山地のほぼ全域で記録されている。国外では朝鮮、中国。

【現況・減少要因】個体数は激減したが、少なくともいなべ市や松阪市の山地で生育を確認している。減少要因は斜面崩壊もあるが、シカの食害が大きい。

【保護対策】シカの個体数管理が急がれる。

(市川正人)

(写真：松阪市，2020年，山本和彦撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

キキョウ

被子植物 キキョウ科

Platycodon grandiflorus (Jacq.) A.DC.

【選定理由】既知の生育地点数はおよそ20であるが、開発や遷移の進行で生育地面積は近年さらに大きく減少している。今後もこの傾向は続くと予想されることからNTからVUに変更となった。

【種概要】日当たりのよい草地に生育する多年草。太い根茎があり草丈は50～100 cmになる。葉は互生。7～9月に径4～5 cmの紫色の花を咲かせる。

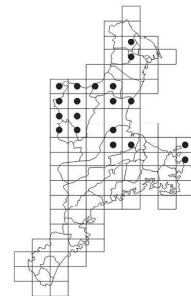
【分布】国外では朝鮮半島、中国、ウスリー。国内では北海道から九州。県内では桑名市、鈴鹿市、伊賀市、亀山市、名張市、津市、松阪市、明和町、鳥羽市で記録がある。

【現況・減少要因】里山の明るい草地に生育しているが、園芸目的の採取、生育地の開発で減少している。

【保護対策】生育地の環境保全のための除草や生育地に工事が及ぶ場合は対策を講ずる必要がある。

(山路武夫・宮島美栄)

(写真：津市，2014年，山本和彦撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

NT

環境省 2020

VU

ガガブタ

被子植物 ミツガンワ科

Nymphoides indica (L.) Kuntze

【選定理由】既知の生育地点数は10以上であるが、溜池改修や水質悪化で減少傾向にある。

【種概要】池に生育する多年草の水草。水底にある根茎から長い茎をのぼし、水面に楕円形の葉をひろげる。7～9月に径1～2 cmの白い花を水面上に咲かせる。

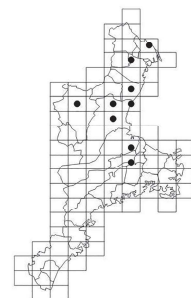
【分布】国外では東アジア、アフリカ、オーストラリア。国内では本州から九州。県内では桑名市、四日市市、鈴鹿市、伊賀市、津市、松阪市、多気町、玉城町等で生育の記録がある。

【現況・減少要因】平地の溜池に点々と生育している。生育地の埋め立て等で減少している。

【保護対策】溜池改修などで長期間水を抜く時には、一時的に移植するなど枯らさない手立てが必要である。

(山路武夫)

(写真：津市，2010年，山本和彦撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

カワラハハコ

被子植物 キク科

Anaphalis margaritacea (L.) Benth. et Hook. fil. subsp. *yedoensis* (Franch. et Savat.) Kitam.

【選定理由】 既知の生育地点数は10以下。各生育地の個体数は250未満である。生育地の開発による減少が考えられる。

【種概要】 川原の通常は礫地などに群生する多年草。茎は叢生し、よく分枝し高さ30~50 cm。葉は線形で幅は1.5 mm内外で細く、縁は裏に巻く。8~9月頃、枝の先に多数の頭花を散房状につける。

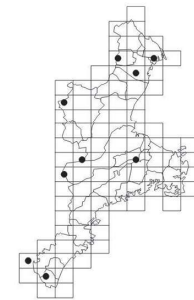
【分布】 国内では北海道から九州。県内ではいなべ市、桑名市、四日市市、松阪市、亀山市、伊賀市、大台町、熊野市、紀宝町で記録がある。

【現況・減少要因】 伊賀市の現状は不明であるが、他の生育地は現存すると思われる。河川の開発などで減少する可能性がある。

【保護対策】 生育地域をよく確認し、開発から避けるようにすべきである。

(山脇和也)

(写真：熊野市，2022年，山本和彦撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

ホソバナヤマハハコ

被子植物 キク科

Anaphalis margaritacea (L.) Benth. et Hook.f. var. *angustifolia* (Franch. et Sav.) Hayata

【選定理由】 既知の生育地点数は10以下であり、生育地に対する開発圧が高い。

【種概要】 やや高い山地の草原に生える多年生草本。茎の分枝は少なく、高さ約60 cm。葉の幅は6 mm以下。茎および葉は白い綿毛に覆われる。開花期は8~10月。茎の先端に白色の頭花を多数つける。

【分布】 日本固有種。本州（関東地方以西）、四国、九州。県内では菰野町、亀山市、伊賀市、松阪市、大台町で記録がある。

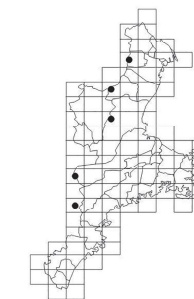
【現況・減少要因】 風力発電施設の建設など、開発圧の高い山地草原に点在するため、生育地は消失しやすい状況にある。

【保護対策】 山地草原の保全が望まれる。

【文献】 48。

(平山大輔)

(写真：松阪市，2012年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

フクド

被子植物 キク科

Artemisia fukudo Makino

【選定理由】 既知の生育地点数はおおよそ10であるが、生育場所の海岸砂泥地は開発や工事の影響を受けやすい。

【種概要】 海岸の砂泥地に生育する二年草。葉は深く数回裂け、先は細くなっている。9~10月に花茎を分枝しながら30~50 cmにのび、黄色い頭花をたくさんつける。植物体には強いメロンのような香りがある。

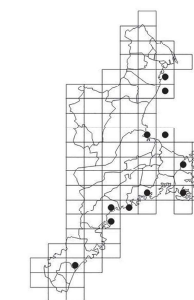
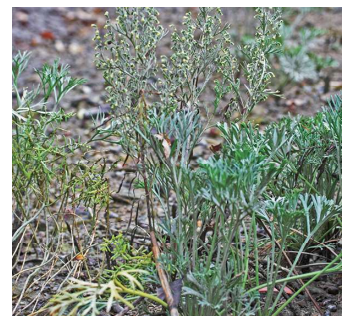
【分布】 朝鮮半島。国内では本州（愛知県以西）から九州。県内では四日市市、津市、松阪市、伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町、大紀町、紀北町、熊野市で記録がある。

【現況・減少要因】 中南勢を中心にかなりの生育地が確認されている。しかし海岸の開発や護岸工事で生育地は減少している。

【保護対策】 海岸の開発は慎重にする。

(山路武夫)

(写真：伊勢市，2009年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蕨類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ヤマジノギク

被子植物 キク科

Aster hispidus Thunb. var. *hispidus*

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。従前は絶滅危惧ⅠB類(EN)であったが、産地情報の増加により、再評価の結果、絶滅危惧Ⅱ類(VU)に変更となった。

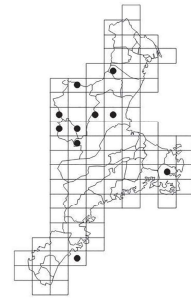
【種概要】山地の明るい草地に生える2年草。花期は9～11月、青紫色の頭花をつける。花時、根出葉は枯れる。頭花や茎など全体的に毛が多い。

【分布】国外では朝鮮半島、中国。国内では本州（東海地方以西）、四国、九州。県内では伊賀市、名張市、津市、亀山市、志摩市、熊野市で記録がある。

【現況・減少要因】中勢の山間地を中心に生育している。津市榑原町では2004年に林縁斜面の草地で生育が確認された。遷移の進行や開発により生育地が減少している。

【保護対策】生育地の保全のためには、定期的に草刈りをする必要がある。
(山路武夫・岡田峰尚)

(写真：津市，2006年，市川正人撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

コモノギク

被子植物 キク科

Aster komonoensis Makino

【選定理由】既知の生育地点数は10以下、各生育地とも個体数は10未満。

【種概要】日当たりの良い露出地に生育する多年草。根茎は短く根生葉を束生し、その先端は次年に高さ10～20 cmの花茎として伸び、頂に少数の頭花を散房状につける。茎は多少草質、無毛、茎葉は短柄があつて狭く、ときに基部は茎を抱く。盛夏から秋にかけて、青紫色の頭花を開き、径3 cm内外、総苞片は緑色で無毛、ほぼ円形。瘦果には短毛があり、白色の明瞭な冠毛がある。

【分布】国内固有種。本州（近畿地方）、四国の冷温帯。県内では鈴鹿山脈、台高山脈に分布する（いなべ市、菰野町、亀山市、松阪市、大台町、紀北町）。

【現況・減少要因】山道や谷筋の岩場に生育し、開花期は目立つことから採取圧を受けやすく、また高茎草本の侵入などにより、生育条件が悪化し、減少している。

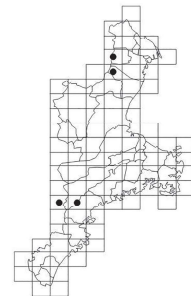
【保護対策】採取圧の防止や山道整備の際の人為圧の排除、生育地の植生遷移を停止する草刈り、上層木の間伐、枝打ちなどの対策が必要である。

【特記事項】本種は1887年三好学により鈴鹿山脈の御在所岳で発見。牧野富太郎により植物学雑誌 Vol.2, No.3に記載された。

【文献】56, 139.

(葛山博次)

(写真：菰野町，2014年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ミヤマヨメナ

被子植物 キク科

Aster savatieri Makino var. *savatieri*

【選定理由】既知の生育地点数が10以下であり、最近の情報が少ない。

【種概要】川岸や山地林下に生える多年草。根出葉は開花時にもありロゼット状で長い柄がある。茎は20～50 cmになる。5～6月に枝先に白色から淡青紫色の花を咲かせる。

【分布】温帯下部に生育し、国内では本州から九州に分布。県内では伊賀市、名張市、松阪市、伊勢市で記録がある。

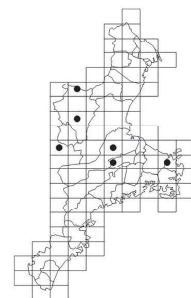
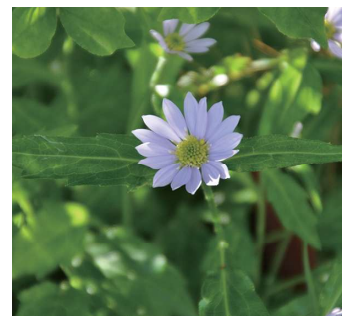
【現況・減少要因】中勢の山間地を中心に生育している。減少しているかどうかは不明な点が多いが、もともと生育地はそれほど多くはない。

【保護対策】川岸の工事や森林伐採の時には生育地に配慮することが大切である。

【特記事項】蛇紋岩地域に生育するシュンジュギクは本種の亜種であり、ミヤコワスレは本種を原種とする園芸品種である。

(山路武夫)

(写真：松阪市，2015年，山本和彦撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ウラギク

被子植物 キク科

Aster tripolium L.

【選定理由】既知の生育地点数はおよそ15であるが、生育地は海岸の汽水域にあり、開発や護岸工事の影響を受けやすい。

【種概要】塩湿地に生育する越年草。葉は厚く無毛、ほとんど鋸歯はない。8～11月に淡紫色の頭花をたくさんつける。

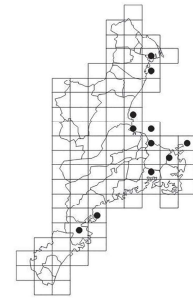
【分布】国外ではヨーロッパ、北部アフリカ、アジア。国内では北海道東部、本州（関東地方以西の太平洋側）から九州。県内では桑名市、四日市市、津市、松阪市、明和町、伊勢市、鳥羽市、南伊勢町、尾鷲市で記録がある。

【現況・減少要因】海岸堤防の内側の湿地によく生育している。工事で環境が変化。消滅したところもある。

【保護対策】海岸での工事では、海水の出入に大きな変化がないよう注意することが大切である。

(山路武夫)

(写真：桑名市，2011年，市川正人撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

オケラ

被子植物 キク科

Atractylodes ovate (Thunb.) DC.

【選定理由】既知の生育地点数は50以下であるが、各生育地とも個体数は10未満である。

【種概要】多年草で雌雄異株。根茎は長く、節があり、地表に出た新芽は白い軟毛をかむっている。茎は細くて硬い円柱形、高さ30～100 cm。葉は裂けないものと3～5に裂けるものがある。質は硬く、葉縁に刺状の鋸歯が並ぶ。9～10月、枝の頂に白色または紅色の頭花をつけ、周囲は羽状の棘を持つ苞葉が包む。これを取り去ると中から頭花が出る。総苞は長さ1 cm、内に20～30個の小花があり、冠毛は羽状の枝を持ち、果実は毛を密生、地下茎は芳香がある。

【分布】国内では本州、四国、九州。国外では朝鮮半島、中国の暖温帯から冷温帯。県内ではいなべ市、桑名市、菰野町、四日市市、鈴鹿市、亀山市、津市、伊賀市、名張市、松阪市、多気町、大台町、伊勢市、鳥羽市などに分布する。

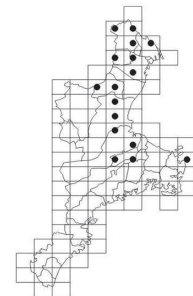
【現況・減少要因】生育地は、やや乾いた丘陵や里山が多く、土地の改変により減少してきた。

【保護対策】生育地の改変を抑止するとともに、植生遷移の進行を抑える定期的な草刈りや上層木の間伐、枝打ちなどが必要である。

【文献】34, 43.

(葛山博次)

(写真：菰野町，2014年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

イズハハコ

被子植物 キク科

Eschenbachia japonica (Thunb.) Koster

【選定理由】既知の生育地点数は20以下であり、生育地が限られている。

【種概要】日当たりのよい山ろくや崖に生える1～越年草。茎は高さ25～55 cm。葉は5～13 cmで下部にややロゼット状に集まり、上部の葉は基部茎を抱く。頭花は4～6月頃茎の先に密に集まり、総苞は約5.5 mm。

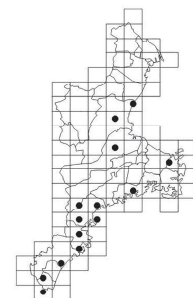
【分布】本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球に分布する。県内では、津市、松阪市、大台町、多気町、鳥羽市、南伊勢町、紀北町、尾鷲市、熊野市、紀宝町で分布が確認されている。

【現況・減少要因】周辺環境の遷移が進行し、光環境の悪化に伴い生育場所の変化がみられる。また、ニホンジカによる食害痕が確認されている。

【保護対策】周辺に生育する樹木の間伐やニホンジカによる食害に対する対策が必要。

(岡田峰尚)

(写真：松阪市，2024年，山本和彦撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

VU

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類

昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類

その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ノニガナ

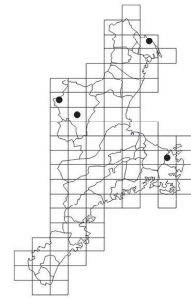
被子植物 キク科

Ixeris polycephala Cass.

【選定理由】 既知の生育地点は10以下である。
 【種概要】 田のあぜや土手に生える。茎は高さ15~40 cmで、茎の中部の葉はやじり状に茎を抱く。花がすんで果実を包む総苞の形は円すい形（ニガナでは円筒形）。
 【分布】 国内では本州，四国，九州。国外では朝鮮，中国，インドなどに分布する。県内では北勢，伊賀，伊勢などに情報がある。
 【現況・減少要因】 田や道路脇などで点々と過去の情報があるが，新たな確かな情報は少ない。土地造成などで減少の可能性がある。
 【保護対策】 圃場整備や草地開発の時、注意を要する。

(山脇和也)

(写真：伊賀市，1940年，筒井養之助採集，三重県総合博物館所蔵)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ネコノシタ

被子植物 キク科

Melanthera prostrata (Hemsl.) W.L.Wagner et H.Rob.

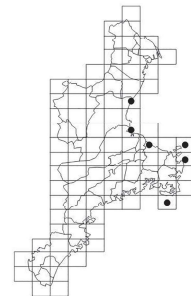
【選定理由】 既知の生育地点数は10以下。生育地への開発圧が強く、環境悪化により侵入した外来種の影響も受ける。
 【種概要】 海岸の砂地に生える多年草。茎は長く地をはい、節から根を下ろす。葉は対生で卵形披針形、葉面に剛毛があり猫の舌のようにざらつく。花期は7~10月で黄色い頭花をつける。
 【分布】 国内では本州（関東および北陸地方以西）から沖縄，小笠原。国外では中国（本土，台湾），ベトナムに分布。県内では津市，松阪市，明和町，伊勢市，鳥羽市，志摩市，南伊勢町で記録がある。

【現況・減少要因】 伊勢湾沿岸地域ではほとんど見られなくなった。また現存している海岸でも生育面積は狭く，小群落状である。開発等で砂浜の自然環境が改変されると容易に消滅する可能性が高い。

【保護対策】 関係者間の情報交換を積極的に行い，地域ぐるみの監視体制をつくっていくことが大切である。

(岡 与一・半田俊彦)

(写真：鳥羽市，2023年，半田俊彦撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ニシノヤマタイミンガサ

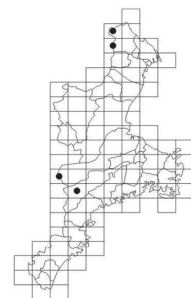
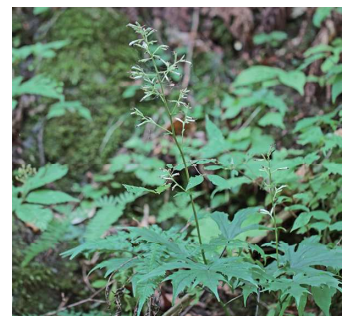
被子植物 キク科

Parasenecio yatabei (Matsum. et Koidz) H. Koyama var. *occidentalis* (F. Maek. ex Kitam.) H. Koyama

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下。各生育地の個体数は50未満である。
 【種概要】 深山の落葉樹林内に群生する多年草で，長く這う地下茎がある。高さ60~90 cmで，花は8~10月頃咲く。総苞片が3~4個，小花が2~4個と少なくヤマタイミンガサとは区別される。
 【分布】 国内では本州（岐阜県以西）から四国，九州。県内ではいなべ市，松阪市，大台町で記録されている。
 【現況・減少要因】 今のところ生育場所が限られており，自然崩壊による生育地の減少が考えられる。
 【保護対策】 生育地の環境保護。

(山脇和也)

(写真：大台町，2019年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

レンプクソウ

被子植物 レンプクソウ科

Adoxa moschatellina L. var. *moschatellina*

【選定理由】 既知の生育地点数は10以下であり、各生育地の個体数は50未満である。

【種概要】 多年草。高さ8～17 cmで根生葉とほぼ同長。根生葉は長柄があり1～2回3出複生し、小葉はさらに3出状に分裂する。花は黄緑色で径5 mm、花に2種あって、頂生の花は花冠が4裂、雄しべ8、他はみな花冠5裂、雌しべ10、花柱の先は3～5裂。花期は4～5月。

【分布】 北半球の温帯に広く分布。国内では北海道、本州（近畿以東）九州の暖温帯から冷温帯。県内ではいなべ市、伊賀市、津市、松阪市、大台町に分布する。

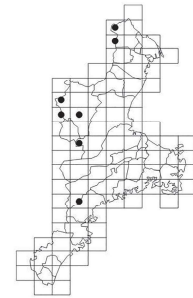
【現況・減少要因】 木陰に生える緑色で繊細な本種は、踏みつけ、生育地の土石の崩落や植生遷移の進行により減少している。

【保護対策】 スギ・ヒノキなどの繁茂にともない生育地は光量不足となって消失した地点もあることから、上層木の間伐や枝打ち、草本層の草刈りが必要である。また、登山者の踏みつけの防止に努める。

【文献】 34, 51, 68, 69, 139.

(葛山博次)

(写真：津市，2013年，市川正人撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

キンレイカ

被子植物 スイカズラ科

Patrinia triloba (Miq.) Miq. var. *palmata* (Maxim.) H.Hara

【選定理由】 既知の生育地点数は10以下で、未知の生育地は既知の生育地に比べて多くない。

【種概要】 山地の岩場に生える多年草。茎は高さ20～60 cm。地下茎が発達する。葉は対生し、3～5裂の掌状葉は長い柄をもつ。7～8月に黄色の小花からなる集散花序をつける。固有種。

【分布】 関東以西の太平洋側山地、九州に分布。県内では菰野町（御在所岳、鎌ヶ岳）、大台町（大台ヶ原）、紀北町に分布が確認されている。

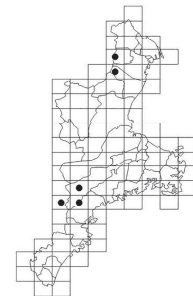
【現況・減少要因】 鈴鹿・台高の山地に生育するが、個体数は多くない。登山道に利用されている日当たりの良い岩場に生えることが多く、踏圧などにより影響を受けている。

【保護対策】 踏圧により損傷しないように登山道を整備する必要がある。

【特記事項】 花冠は径0.6 cmで、母種のハクサンオミナエシ（径0.5 cm）より大きいことで区別される。

(武田明正・市川正人)

(写真：菰野町，2014年，池田博撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ハナビゼリ

被子植物 セリ科

Angelica inaequalis Maxim.

【選定理由】 既知の生育地点数は5。シカ食害によって減少していると推測される。

【種概要】 山地に生育する高さ1 m弱になる多年草。葉は薄い草質で2～3回3出羽状複葉。小葉は長卵形～広卵形で先はやや尾状となり、あらい鋸歯がある。花期は晩夏～秋。果実には広い翼が発達する。

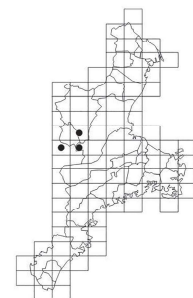
【分布】 国内では、本州、四国、九州に分布。県内では、伊賀市、名張市、津市美杉町、松阪市飯南町、大台町の記録がある。

【現況・減少要因】 シカ食害によって急速に減少しつつある。

【保護対策】 シカ個体群の抑制。

(藤井伸二)

(写真：津市，2013年，市川正人撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

イヌトウキ

被子植物 セリ科

Angelica shikokiana Makino ex Y.Yabe

【選定理由】既知の生育地点数は10程度。道路整備による岩場の消失やシカ食害によって減少気味。

【種概要】岩場に生育する高さ1m弱になる多年草。葉は1~3回3出羽状複葉。小葉は長卵形で先はしばしば尾状となり、低鋸歯縁、両面とも無毛、裏面は白色を帯びる。花期は晩夏~秋。北山川水系の溪岩上にはカワゼンゴが生育するが、葉表面が無毛な点でカワゼンゴと区別できる。

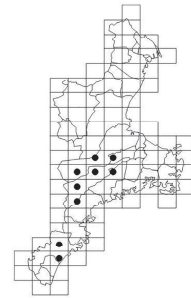
【分布】国内では、紀伊半島、四国、九州に分布。県内では、名張市、松阪市、多気町、大台町、尾鷲市、熊野市の記録がある。

【現況・減少要因】道路の拡幅工事、岩場の崩落防止工事（セメント吹きつけ）、シカ食害。

【保護対策】岩場環境の保全。

(藤井伸二)

(写真：大台町，2017年，川竹守撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

VU

カワゼンゴ

被子植物 セリ科

Angelica tenuisecta (Makino) Makino

【選定理由】既知の生育地点数は5以下であり、各地点の個体数は50未満である。

【種概要】川岸に生える。イヌトウキに外見がよく似るが、小葉は小さく表面に光沢があり、脈上は有毛。果実は楕円形。

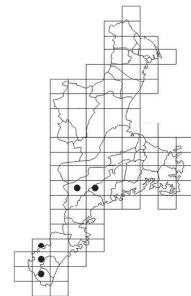
【分布】国内では本州（和歌山県、三重県）、県内では南勢地域（大台町）、紀州地域（熊野市、紀宝町）に分布。

【現況・減少要因】自生地が谷や河川の岩上で、洪水や乾燥によっては消滅することが懸念される。また、園芸採取の圧力が懸念される。

【保護対策】採取防止のため、生育地の公表は慎重に行う必要がある。

(花尻 薫)

(写真：紀宝町，2013年，山本和彦撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

ハナウド

被子植物 セリ科

Heracleum sphondylium L. var. *nipponicum* (Kitag.) H. Ohba

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、減少傾向にある。

【種概要】川岸や日陰の土手等に生育する。茎は直立。2m程度になり、太く中空で長毛がある。葉は互生。下部の小葉は5小葉、葉柄の基部は膨らむ。花期は5~6月、大形の花序で、白色の5弁花。大きさは不同で、外側の1小花が大きい。花卉の先は2裂。分果の油管は太い。

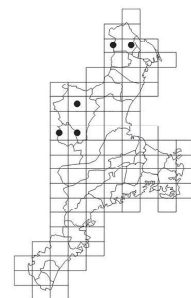
【分布】本州（関東地方以西）、四国、九州に分布する。県内では、伊賀市、いなべ市に記録がある。最近では名張市で確認されている。

【現況・減少要因】土手の草刈が頻繁に行われると減少する可能性がある。また、河川の増水により生育地が侵食されると絶滅する恐れがある。

【保護対策】生育地の土手は適度に草刈することが大切である。

(南 正祝)

(写真：名張市，2010年，市川正人撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ウラジロモミ

裸子植物 マツ科

Abies homolepis Siebold et Zucc.

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。分布が高標高地に限定され、近年、野生植食動物の食害ほか、多様な要因によって個体数が減少している。

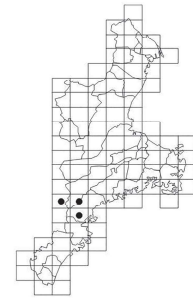
【種概要】高木性常緑針葉樹。樹高30 m以上、幹の直径は1 mを超えるときがある。葉は線形、長さ1.0~2.5 cmで扁平。葉裏には白色の気孔帯が2本目立つ。球果は前年枝に腋生、直立してつく。成熟時は紫黒褐色になる。類似種のモミと異なり、苞鱗は種鱗からほとんどでない。

【分布】日本固有種。本州（福島県以南、中部山地、紀伊半島）、四国の高標高地に分布。県内では大台町や尾鷲市（大台ヶ原山の標高1,500 m以上）に分布するが、同属のモミの分布域との境界は明確でない。

【現況・減少要因】紀伊半島では、トウヒに比較して分布域が広い。しかし生育地が高標高地に局限されている。近年、人為的要因（林種転換）、自然要因（台風害、野生植食動物の食害）などによって個体数が減少している。

【保護対策】生育場所は吉野熊野国立公園域。大杉谷生態系保護地域内であるが、現存する母樹や稚幼樹に対する野生獣の食害に対策を講じる必要がある。（武田明正）

（写真：大台町，2013年，山本和彦撮影）



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

ハイイヌガヤ

裸子植物 イチイ科

Cephalotaxus harringtonia (Knight ex Forbes) K.Koch var. *nana* (Nakai) Rehder

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、各生育地とも個体数は少ない。

【種概要】常緑小高木。針葉樹でイヌガヤの変種である。基部から傾いて生え、高さ2 mほどである。種子は楕円形で、外皮は淡紅紫色。やにくさい。カヤの実が食材となるが、イヌガヤやハイイヌガヤの実は苦くて食材にはならないが食べる人もいる。日本海側斜面や多雪地帯に適応した生態を示している。

【分布】国内では北海道、本州、四国。県内では鈴鹿山脈の北・中部、伊賀の各地域および台高山脈の冷温帯に分布する。

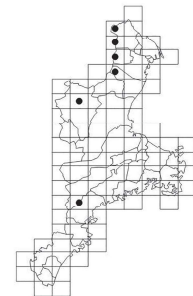
【現況・減少要因】自然林に近い温帯林の下生植物として生育する。上層木が新炭材、パルプ材として伐採された地域では減少している。

【保護対策】生育域の温帯林の伐採、土砂、岩石等の採掘により立地の破壊等が行われることのないよう配慮すべきである。

【文献】45, 81, 139.

（葛山博次）

（写真：いなべ市，2015年，池田博撮影）



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

チャボガヤ

被子植物 イチイ科

Torreya nucifera Siebold et Zucc. var. *radicans* Nakai

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。各生育地とも生育密度は低い。

【種概要】低木性常緑針葉樹。カヤの変種で主に日本海側の多雪地帯に分布。幹、枝は地についたところから発根する。根際から斜上枝を多くだし、やぶ状になる。

【分布】天然分布の北限は新潟県、南限は四国（石鎚山）。県内ではいなべ市（藤原岳、御池岳）、菰野町（御在所岳、鎌ヶ岳）など鈴鹿山地に分布する。固有種。

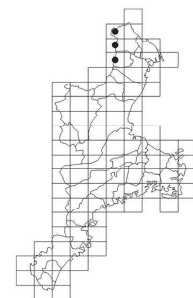
【現況・減少要因】北勢地域の山地を中心として点在。上層木が薪炭材、パルプ材などとして伐採されてきた樹林（里山林）を含め、樹林の下生樹として生育する。しかし、個体数が少ないうえ、近年は野生獣の食害などによって個体数が減少している。

【保護対策】主な生育地は鈴鹿国定公園域だが、野生植食動物による食害に対策を講じる必要がある。

【特記事項】いなべ市の「中津原の寝ガヤ」はチャボガヤの老樹と推察されるが精査が望まれる。

（武田明正）

（写真：いなべ市，2013年，市川正人撮影）



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

サイコクヒメコウホネ
Nuphar saikokuensis Shiga et Kadono

被子植物 スイレン科

【選定理由】生育地は湖沼、ため池、水路、湿地等であり、埋め立てや生育環境の悪化などによって消失することが多い。

【種概要】浮葉・抽水葉ともに広卵形～長卵形、長さ10～30 cm、幅7～20 cm、裏面葉脈上は有毛。花は黄色、径3～4 cm、花期は6～9月。

【分布】国内では本州、四国、九州。県内ではいなべ市、四日市市、伊賀市、紀北町で記録がある。従来のヒメコウホネとしての記録が多く、現状が十分に把握されていないが、県内にはヒメコウホネより多く見られるものと思われる。

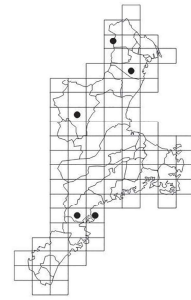
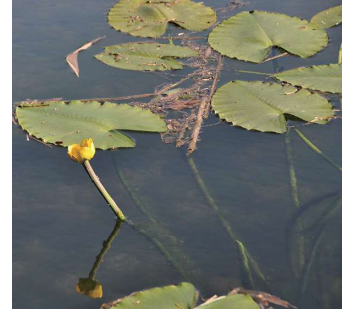
【現況・減少要因】河川や池沼の開発、水質汚濁が減少の主要因とされている。また、池に放されたコイやミシシippアカミミガメ、アメリカザリガニなどによって被害を受けている可能性がある。

【保護対策】生育地の保全とともに、希少種であることの啓発が必要である。

【特記事項】ヒメコウホネとされていた種の中の東海型と西日本型が別種であることが示され、前者にヒメコウホネの名が充てられ、後者はサイコクヒメコウホネとして2015年に新種記載された。

(半田俊彦)

(写真：紀北町，2014年，山本和彦撮影)



三重県 2025
NT
三重県 2015
—
環境省 2020
—

コトウカンアオイ
Asarum majale T.Sugaw.

被子植物 ウマノスズクサ科

【選定理由】生育地点数は2であるが生育範囲は広い。現在の個体数が多いが、採取圧が強いことなど、今後減少傾向が想定される。

【種概要】同地域にズカカンアオイと同居するが、比較的葉は丸く長さ6 cm内外、基部は心形で光沢はなく、斑が入ることもある。葉柄は葉長を越える。花は鐘形で内部の縦線は15～21、横線は3～5で花被片は反り返らず半開きである。花期最盛期は5～6月でズカカンアオイとは1ヶ月ほど後に咲く。固有種。

【分布】本州（滋賀、三重の鈴鹿山系）。県内ではいなべ市。

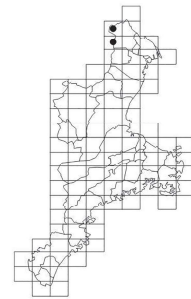
【現況・減少要因】現時点ではシカ食害は少ない。商品化されるなど、業者やマニアの採取が懸念される。

【保護対策】採取圧回避のための啓蒙・警鐘を要する。

【特記事項】かつてはフジワラカンアオイとも呼ばれた。

(市川正人)

(写真：いなべ市，2014年)



三重県 2025
NT
三重県 2015
—
環境省 2020
EN

イセノカンアオイ
Asarum savatieri Franch. subsp. *pseudosavatieri* (F.Maek.) T.Sugaw. var. *iseanum* T.Sugaw.

被子植物 ウマノスズクサ科

【選定理由】既知の生育地点は10以下であるが、未知の生育地はそれほど多くないと思われる。

【種概要】山地の樹林林床に生える多年草。ズソウカンアオイによく似るが、萼筒の長さがより短く、5～8 mm（ズソウカンアオイの萼筒の長さは7～11 mm）。萼筒内面の縦隆起数は16～25本。花期は10～11月。

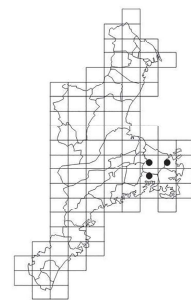
【分布】日本固有種。伊勢周辺に分布。

【現況・減少要因】マニアや山草業者による乱獲が危惧される。

【文献】175。

(山本和彦)

(写真：伊勢市，2022年，池田博撮影)



三重県 2025
NT
三重県 2015
—
環境省 2020
—

アギナシ

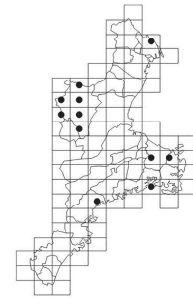
Sagittaria aginashi Makino

被子植物 オモダカ科

- 【選定理由】 既知の生育地点数は15か所であり、生育地が減りつつある。
 【種概要】 水田や浅い池に生える多年草。オモダカによく似ているが走出枝をつくらず、秋に葉柄の基部の内側に多数の小さな球芽をつける。
 【分布】 国外では朝鮮半島。国内では北海道から九州に分布。県内では木曾岬町、伊賀市、名張市、伊勢市、南伊勢町、紀北町で記録がある。
 【現況・減少要因】 圃場整備の進行などで生育できる水田等が減少している。
 【保護対策】 山間の湿った休耕田が貴重な生育場所であるので、乾燥化を防ぐ必要がある。

(後藤稔治・岡田峰尚)

(写真：伊賀市，2013年，市川正人撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

ササバモ

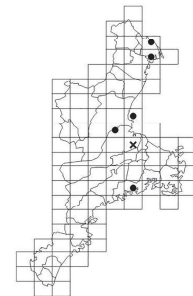
Potamogeton wrightii Morong

被子植物 ヒルムシロ科

- 【選定理由】 既知の生育地点数は10以下である。
 【種概要】 ため池や河川に群生する沈水性から浮葉性の多年草。葉は互生、沈水葉の葉身は細長く先端が鋭くとがる。花期は7～9月。水中から出ると陸生形を形成する。
 【分布】 世界ではアジアに広く分布。国内でも北海道南部から琉球列島まで広く分布。県内では桑名市、津市、松阪市、多気町、南伊勢町に記録がある。
 【現況・減少要因】 多気町は工業団地の調整池に発生したものであるが、その後ガマ等の繁茂により消失した。
 【保護対策】 津市の生育地は個体群としても大きく、今後も重要な生育地として監視していく必要がある。

(中 優・福田知子)

(写真：津市，2021年，池田博撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ヒナノシャクジョウ

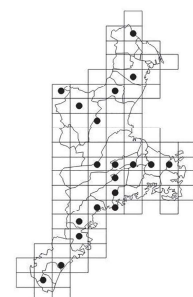
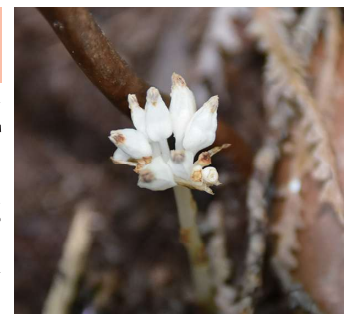
Burmattia championii Thwaites

被子植物 ヒナノシャクジョウ科

- 【選定理由】 2015年版RDBでは、既知の生育地点数は10以下で、評価はVUであった。その後新産地情報の増加により20地点ほどとなり、評価の結果、NTに変更となった。
 【種概要】 林下の落葉中に生える多年草の菌従属栄養植物。高さ3～8cm、根茎は球状にふくれ、多数のひげ根がある。花は8～10月、白色で柄がなく、やや頭状に集まる。
 【分布】 国内では本州（千葉県以西）、四国、九州、沖縄。国外では中国（南部）、マレーシア、セイロン島に分布。県内ではいなべ市、亀山市、伊賀市、津市、松阪市、多気町、大紀町、紀北町、尾鷲市、熊野市、紀宝町からの記録がある。
 【現況・減少要因】 小形で目立たないこともあり、生育情報は限られていたが最近になって新産地情報が増えている植物である。今後の調査によりさらに新産地が増える可能性もある。
 【保護対策】 新産地情報が増えているが、個体数はそれほど多くはない。現在確認されている生育地およびその周辺の森林環境を保全することが必要。

(山本和彦)

(写真：尾鷲市，2024年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

カタクリ

被子植物 ユリ科

Erythronium japonicum Decne.

【選定理由】既知の生育地点数は10程度で、各生育地の個体数は100未満であり、園芸採取により減少している。

【種概要】山野に群生する多年草。葉は普通2個で花茎の下部につく。花は4～6月、高さ10～20 cmの花茎の先に1個付き、下向きに開く。花被片は紅紫色、披針形で長さ4～5 cm、基部の近くに蜜腺があり、その上部にW字状の濃紫色の斑紋がある。

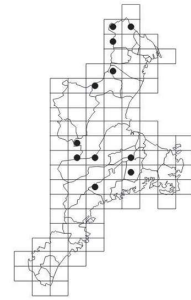
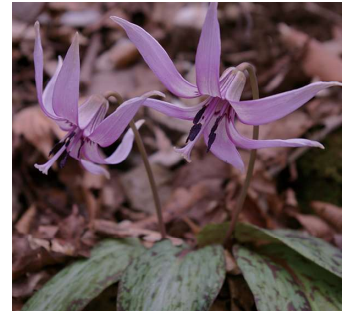
【分布】国内では北海道から九州。国外では朝鮮半島、中国、南千島、樺太に分布。県内ではいなべ市、亀山市、伊賀市、津市、多気町、度会町、大台町に分布する。

【現況・減少要因】度会町の道路わきのクヌギ林などに生えていた群落は、宅地造成や道路の拡張のため激減した。

【保護対策】常緑樹の侵入を避ける。また、園芸採取による減少を防ぐため詳細な分布情報の公開は避けるべきである。

(中馬千鶴・福田知子)

(写真：いなべ市，2015年，市川正人撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

ササユリ

被子植物 ユリ科

Lilium japonicum Houtt. var. *japonicum*

【選定理由】県内に広く分布するが、丘陵地の大規模開発で生育地が減少した。また、アカマツ林などの里山林の荒廃により生育環境が変化し、個体数が激減している。

【種概要】草地やススキ草原、林縁などに生える多年草。6月頃、淡紅色の花を1～数个つける。葉が笹の葉に似ている。

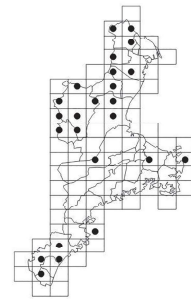
【分布】国内では静岡県以西の本州、四国、九州。県内では全域の丘陵地から山地にかけて生育している。

【現況・減少要因】1960～70年頃までは県内各地の丘陵地から山地にかけて多数分布していたが、住宅団地、工場、ゴルフ場建設などの大規模開発や里山林の荒廃により、生育地が著しく減少した。

【保護対策】もともと里山林に生育していた植物でもあり、里山林の保全対策などの人為的な生育環境の拡大も必要である。種子はよく発芽し、日当たりなどの条件さえよければ増殖する。最近各地で里山保全活動が行われており、徐々に増えつつある。

(桐生定巳)

(写真：御浜町，2018年，山本和彦撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

シラン

被子植物 ラン科

Bletilla striata (Thunb.) Rchb.f. var. *striata*

【選定理由】県内では広く分布するが、各生育地の個体数は50未満であり、園芸採取により減少している。

【種概要】川沿いなどの日当たりの良い、湿り気のある岩場に生える。偽球茎は多肉、扁平な球形で横に並ぶ。茎は高さ30～70 cm。葉は数個、茎の基部につき、長さ20～30 cm、幅2～5 cm、披針形で鋭尖頭。4～5月、やや大型の紅紫色花を3～7個茎の先端につける。苞は開花時に脱落する。花被は長さ2.5～3 cm、唇弁はくさび状倒卵形、先端は3裂し、中裂片は円形で縁は波状、内面に5個の隆起線がある。

【分布】国内では本州（中南部）から沖縄。国外では中国（本土、台湾）。県内では北勢から南勢地域まで広く分布する。

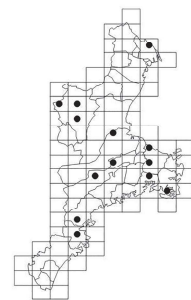
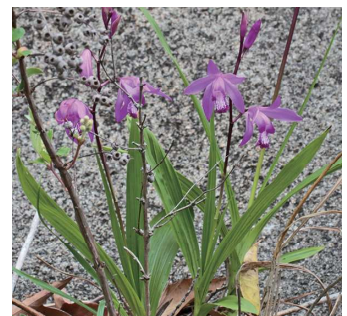
【現況・減少要因】花が大きく目立つため、園芸採取され個体数は減少している。

【保護対策】園芸採取の禁止が必要である。

【特記事項】自生か逸出かの区別が難しい。

(中馬千鶴・福田知子)

(写真：松阪市，2019年，池田博撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

マメヅタラン

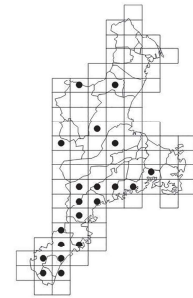
被子植物 ラン科

Bulbophyllum drymoglossum Maxim. ex Okubo

【選定理由】既知の生育地点数は20程度で生育地が限られている。
 【種概要】常緑の着生ラン。根茎は長く這い、まばらに葉をつける。葉は肉質で長さ7~13 mm, 幅5~10 mm。5~6月に葉腋から出た長さ7~10 mmの花茎の先に小さな淡黄色の花を1個つける。
 【分布】国内では本州（福島県以南）、四国、九州、沖縄。国外では朝鮮半島（南部）、中国、台湾に分布。県内では北勢、中勢、伊賀、南勢、紀州地域に生育する。
 【現況・減少要因】県内ほぼ全域に分布し、ムギランと同様、垂直的にも暖温帯林から冷温帯林付近までみられるが、ムギランよりは個体数が少ない。おもに山地林内の古木や岩上に着生するため、森林伐採や林道工事等で消失した自生地もある。
 【保護対策】園芸目的の採取圧はそれほど強くないと思われる。マメヅタランが着生するような山地の古木には、他の着生ランやシダ植物も混生することが多い。これらの着生植物も含めて保護するためにも、本種が生育する森林の伐採は避ける必要がある。

(山本和彦)

(写真：松阪市，2020年，池田博撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ

ムギラン

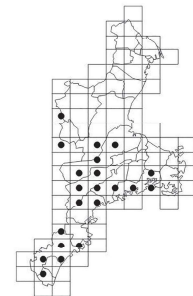
被子植物 ラン科

Bulbophyllum inconspicuum Maxim.

【選定理由】既知の生育地点数は比較的多いが、一時は激減した。未知の生育地は多くはない。
 【種概要】常緑の着生ラン。根茎は横に這い、長さ6~8 mmの偽球をつけ、先端に1個の葉をつける。葉は長楕円形で長さ1~3 cm, 幅6~8 mm。6~7月、偽球の基部より花茎を出し、帯黄白色の小さな花を1~3個つける。
 【分布】国内では本州（宮城県以南）、四国、九州に分布。県内では中勢、伊賀、南勢、紀州地域と幅広く確認されている。
 【現況・減少要因】県内では常緑広葉樹林域から温帯林にかけて垂直的にも幅広くみられるが、一時の天然林の皆伐により、個体数は激減した。その後、皆伐跡地へはスギ、ヒノキが植栽されているため、個体数の復元は難しいものと思われる。ただ現在残っている自生地は、社寺林や人目につきにくい山林内が大部分であることや、それほど採取圧が強くないこともあり、個体数はある程度維持されていくものと思われる。
 【保護対策】道路脇の古木や岩上、あるいは里地に植栽されているウメやカキ等に着生していることもあるため、道路開発や土地造成には注意が必要。

(山本和彦)

(写真：熊野市，2011年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

エビネ

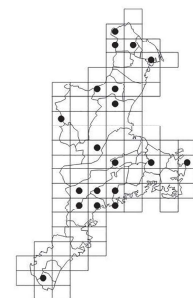
被子植物 ラン科

Calanthe discolor Lindl. var. *discolor*

【選定理由】県内に広く分布するが、園芸採取により激減している。
 【種概要】雑木林の下などに生える。葉は2, 3枚ついて、長さ15~25 cm, 幅5~8 cm。花茎は高さ20~40 cm。花序は短毛があり、4~5月、8~15花を付ける。花被片は暗褐色。唇弁は帯紅色または白色。中裂片にうね状の条が3本ある。
 【分布】国内では北海道西南部から沖縄、国外では朝鮮半島（済州島）に分布。県内では全域に、低地から山地まで広く分布している。
 【現況・減少要因】かつて広範囲に生育していたが、現在は園芸採取により、手当たり次第に持ち去られるため、激減した。
 【保護対策】園芸採取の禁止が必要である。

(中馬千鶴・福田知子)

(写真：大台町，2023年，山本和彦撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ナツエビネ

Calanthe reflexa (Kuntze) Maxim.

被子植物 ラン科

【選定理由】 県内の自生地では数個体しか生育していないところが主であるが、県下各地に広く分布している。既知の生育地点数は100以下になると思われる。

【種概要】 樹林の林床に生える多年草。葉は数個根生し、長さ10～30 cm、幅3～8 cm、表面は光沢がなく白みを帯びた緑色で、縦じわが多い。高さ20～40 cmの花茎を伸ばし、7～8月に淡紫色の花を10～20個つける。

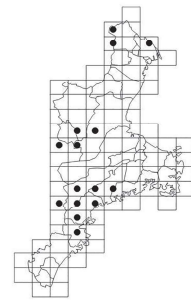
【分布】 国内では本州から九州、国外では朝鮮半島南部、台湾、中国東部～ヒマラヤに分布。県内では北勢、中勢、伊賀、南勢、紀州地域の比較的明るく、やや湿った林内に散見される。

【現況・減少要因】 自生地の中には園芸目的による乱獲や森林伐採、ゴルフ場造成等により、すでに絶滅したところもみられる。

【保護対策】 マニアによる採取圧が強く、発見されると持ち去られることが多い。保護に関しては、生育地の公表は避けることや自生地周辺の森林を保全することが必要である。

(山本和彦)

(写真：尾鷲市，2006年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

VU

セッコク

Dendrobium moniliforme (L.) Sw.

被子植物 ラン科

【選定理由】 既知の生育地点数は10程度であり、採取圧はきわめて強い。

【種概要】 常緑の多年草。根茎はごく短い。地上茎は束生し、円柱形。高さ5～25 cmになり、数年残存するが古いものには葉がない。花期は5～6月、古い茎の上部の節に1～2個つき、白色かわずかに淡い紅色を帯びる。

【分布】 国内では本州、四国、九州。県内では伊賀市、伊勢市、大紀町、尾鷲市、熊野市、紀宝町等で記録がある。

【現況・減少要因】 園芸採取が大きな圧力となっている。また、森林伐採により大木がなくなること減少要因となっている。

【保護対策】 園芸目的の乱獲を防止するために、分布情報の公表には留意する。また、着生樹の伐採防止につとめる。

(花尻 薫・土永知子)

(写真：紀宝町，2014年，池田博撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

カキラン

Epipactis thunbergii A.Gray

被子植物 ラン科

【選定理由】 既知の生育地点数はおおよそ50であり、生育地が減りつつある。

【種概要】 日当たりの良い湿地に生える多年草。茎は高さ30～70 cm、少数の鞘状葉に包まれる。葉は狭卵形から広披針形で、長さ6～13 cm、巾3～5 cmで互生。6～8月、黄褐色の10個あまりの花がつく。柿蘭の名は花の色に基づく。

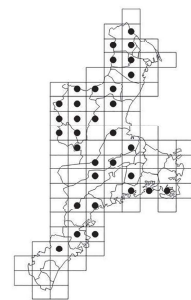
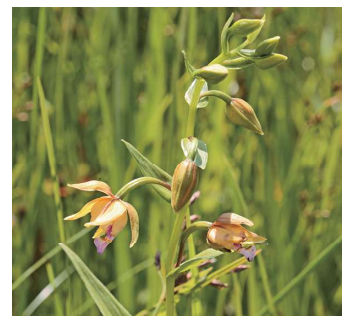
【分布】 国外では朝鮮半島、中国東北部、ウスリー。国内では北海道から九州に分布。県内では北部に多いが、全域で記録がある。

【現況・減少要因】 丘陵地、低山の谷筋や湿地にみられるが、開発による立地の減少が危惧される。園芸採取も減少要因である。

【保護対策】 生育地は湿地であるので、湿地全体の保全が重要である。

(後藤稔治・岡田峰尚)

(写真：芸濃町，2024年，池田博撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

クロヤツシロラン

被子植物 ラン科

Gastrodia pubilabiata Y. Sawa

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。総個体数は250未満である。竹林下に多く、新産地が期待される。

【種概要】竹林や杉林、常緑広葉樹林下のやや湿った腐植土壌に生育し、花期に茎の長さが2～3cmの菌従属栄養のラン。多年草。しばしば1～2cmの桶形の塊茎を持つ。茎には小鱗片を着け、葉はない。花序は短縮し、茎の頂に柄が約2cmの数花を束生する。花は濁った帯紫色の褐色で長さ11mm、先が平開する。唇弁には毛が生え、2条の黒い隆起部がある。花期は9～10月。果期に茎が伸び、長いもので40cmに達する。

【分布】本州（関東以西）、四国、九州。県内ではいなべ市、桑名市、朝日町、亀山市、伊賀市、大台町で記録がある。国外では中国南部、インドシナ、インド、マレーシア、オーストラリア。

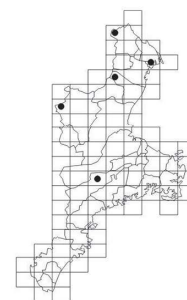
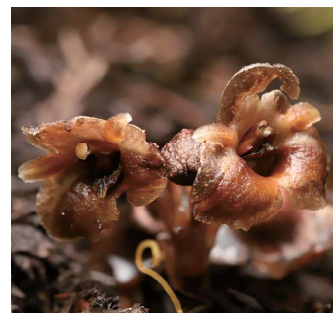
【現況・減少要因】少なくとも桑名市、朝日町、亀山市で生育を確認している。ただし、従属栄養のため、毎年開花するとは限らない。竹林や樹林の伐採が減少要因となる。

【保護対策】生育環境を維持することである。

【特記事項】アキザキヤツシロランやハルザキヤツシロランに似る。

(市川正人)

(写真：大台町，2022年，井元俊介撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

ミズトンボ

被子植物 ラン科

Habenaria sagittifera Rchb. f.

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、生育立地が限られている。

【種概要】日当たりの良い湿地に生える多年草。茎は三角柱状で無毛、高さ40～70cm。葉は線形で茎の下半分に数枚つく。花は淡緑色、7～9月、茎頂にやや多数の総状をつける。

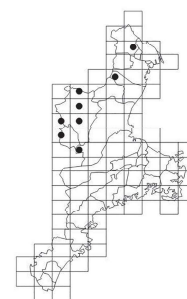
【分布】国外では中国。国内では北海道西南部から九州に分布。県内ではいなべ市、菰野町、伊賀市、名張市で生育が確認されている。

【現況・減少要因】丘陵地や溜池の周囲の湿地にみられるが、開発による立地の減少が危惧される。

【保護対策】生育地は湿地であるので、湿地全体の保全が重要である。

(後藤稔治・岡田峰尚)

(写真：伊賀市，2015年，池田博撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

VU

トンボソウ

被子植物 ラン科

Platanthera ussuriensis (Regel et Maack) Maxim.

【選定理由】既知の生育地点数は30程度であるが、生育に適した環境が減少している。

【種概要】山地林下の涼しい所を好んで生育する多年草。葉は下の2枚が大きくあとは鱗片状である。茎は15～35cmになり、7～8月に穂状花序をつけ、淡緑色の花をたくさん咲かせる。

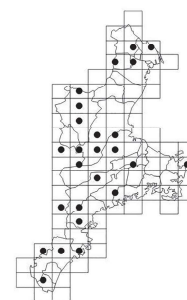
【分布】国外では朝鮮半島、中国、ウスリー。国内では北海道から九州。県内では桑名市、菰野町、伊賀市、名張市、津市、松阪市、多気町、大台町、鳥羽市、大紀町、尾鷲市、熊野市、御浜町で生育の記録がある。

【現況・減少要因】目立った花ではないので採取される心配は少ない。森林伐採で明るくなれば枯死する。

【保護対策】森林伐採は林床植物が絶滅しない配慮をして計画的に進めることが大切である。

(山路武夫・宮島美栄)

(写真：尾鷲市，2022年，池田博撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ノカンゾウ

被子植物 ワスレグサ科

Hemerocallis fulva L. var. *disticha* (Donn ex Ker Gawl.) M.Hotta

【選定理由】既知の生育地点数は20以上で、各生育地の個体数は50未満。開発圧の強い環境に生育している。

【種概要】溝の縁、池畔、棚田の縁等の地下水位の高いところに生える多年草。7～8月頃50～80 cmの茎頂に橙赤色の花を10個前後つける。

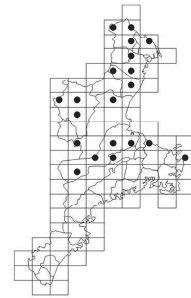
【分布】台湾、中国。国内では本州から沖縄。県内では桑名市、いなべ市、菰野町、四日市市、鈴鹿市、津市、伊賀市、名張市、松阪市、明和町、伊勢市、鳥羽市などから記録されている。

【現況・減少要因】池の改修、水田と水路の隔離、乾燥化等の要因で地下水位が下がり、至る所で絶滅の危機に瀕している。池の改修によって絶滅したところも多い。

【保護対策】いなべ市、四日市市、鈴鹿市等では水環境の保全策を講じているが、他地域の行政もこのことを認識して保護すべきである。

(加田勝敏)

(写真：鈴鹿市，2013年，市川正人撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

ハマカンゾウ

被子植物 ワスレグサ科

Hemerocallis fulva L. var. *littorea* (Makino) M.Hotta

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。各生育地の個体数はそれほど多くはない。

【種概要】海岸の日当たりのよい斜面に生える多年草。葉は常緑で、濃緑色、厚い。花期は7～10月、暗橙赤色の花が総状につく。花茎は高さ70～90 cm、上部に長さ3～10 cmの苞がある。

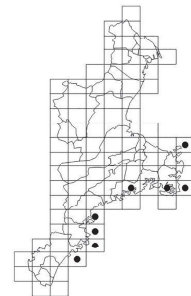
【分布】国内では本州（関東以西）、四国、九州に分布。県内では鳥羽市、志摩市、南伊勢町、紀北町、尾鷲市、熊野市等の海岸の岸壁や斜面での記録がある。

【現況・減少要因】志摩地方から南の海岸線は、人が近づけないようなところもあり、分布の詳細は不明である。鳥羽市の離島のように、斜面に大きな群落が発達しているところもみられるが、他はおよそ50前後の個体が分散し、生育しているところが多い。

【保護対策】本種が生育できるような自然度の高い海岸線を、広い範囲で保全することが重要である。

(山本和彦)

(写真：尾鷲市，2019年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

ハマオモト

被子植物 ヒガンバナ科

Crinum asiaticum L. var. *japonicum* Baker

【選定理由】県内には点々と分布するが、各生育地の個体数は少なく、いずれも50個体未満。さまざまな要因により減少傾向にある。

【種概要】海岸にはえる多年草。鱗茎は長さ30～50 cm、径3～7 cm。葉は带状で長さ30～70 cm、幅4～10 cm、やや多肉で光沢がある。花期は7～9月。

【分布】国内では本州（関東南部以南）から沖縄。国外では中国（南部、台湾）、マレーシア、インドに分布。県内では鳥羽市以南の熊野灘沿岸の海岸に点々と生育する。ただし元来の生育地であっても、一度消滅した後には人為的に増殖され、植栽された個体が多い。

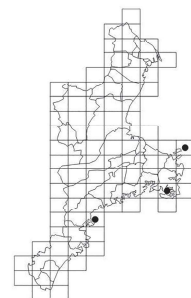
【現況・減少要因】本種の生育地そのものが開発や海岸浸食により減少している。また、外来植物の繁茂により、生育環境が悪化している地域もみられる。

【保護対策】生育地の環境保全が重要であり、人為増殖は好ましい行為でない。外来植物対策として、志摩市ではアツバキミガヨランの駆除活動が行われているが、根絶には莫大な時間と予算を必要とする。海岸への外来植物の植栽には厳重な監視が必要である。

【特記事項】別名ハマユウの名で親しまれ、群生地である志摩市の和具大島は県の天然記念物に指定されている。

(岡 与一・半田俊彦)

(写真：紀北町，2010年，山本和彦撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

ケイビラン

被子植物 クサスギカズラ科

Comospermum yedoense (Maxim. ex Franch. et Sav.) Rausch.

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- 維管束植物
- 蕨類
- 藻類
- キノコ

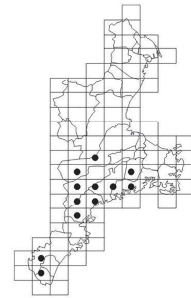
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

【選定理由】 既知の生育地点数は比較的多いが，採取圧はきわめて強い。
 【種概要】 山地の崖や岩上に生育する草本。葉は左右扁平，鎌状形で，この形が雄鶏の尾に似ていることから和名が「鶏尾蘭（ケイビラン）」とついた。花期は7～8月で，高さ20～40 cmの花茎を伸ばし，白から淡紫色の花をつける。
 【分布】 国内では本州（奈良県，和歌山県，三重県），四国，九州。県内では中勢地域（津市美杉町，松阪市飯高町），南勢地域（度会町，大紀町，大台町），紀州地域（熊野市）に分布。
 【現況・減少要因】 道路工事，園芸採取が主な減少要因となるであろう。
 【保護対策】 採取防止の対策が必要である。



(花尻 薫)

(写真：大台町，2018年山本和彦撮影)



三重県 2025
NT
三重県 2015
NT
環境省 2020
—

ミズギボウシ

被子植物 クサスギカズラ科

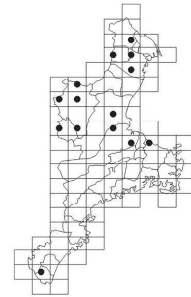
Hosta longissima Honda ex F.Maek.

【選定理由】 既知の生育地点数は比較的多いが，小川の岸辺や林縁の湿地などの生育地は減少している。
 【種概要】 溝の縁などで雑草に混じって生育する多年草。葉は細長い。8～9月に長い花茎をのぼし，先に筒状で淡紫色の花を数個横向きにつける。
 【分布】 国内では本州（愛知県以西），四国，九州。県内ではいなべ市，四日市市，菰野町，伊賀市，名張市，津市，松阪市，多気町，熊野市で記録がある。
 【現況・減少要因】 生育地，個体数はまだ多い。しかし，小さな溝の岸や山際の湿地などの生育地は改良工事などで減少している。
 【保護対策】 雑草の生える小さな溝を必要以上にコンクリート化しないことが大切である。



(山路武夫)

(写真：熊野市，2015年，池田博撮影)



三重県 2025
NT
三重県 2015
NT
環境省 2020
—

マイヅルソウ

被子植物 クサスギカズラ科

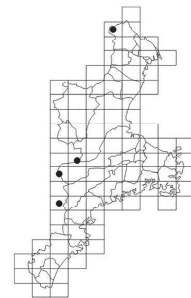
Maianthemum dilatatum (Alph.Wood) A.Nelson et J.F.Macbr.

【選定理由】 既知の生育地点は5以下。いずれの個体群も開花個体は非常に少ない。ニホンジカの食害により衰退している。
 【種概要】 山地や亜高山帯の針葉樹林下にはえる多年草。地下茎は長く横に這う。茎は高さ10～25 cm，基部は葉鞘で包まれ，2葉をつける。葉は卵心形で長さ3～7 cm，基部は深い心形で，先は尖る。花は5～7月，総状に20個ほどつき，白色で花被片は4個。
 【分布】 北海道，本州，四国，九州。国外では朝鮮，中国東北部，千島，樺太，シベリア東部，カムチャッカ，北アメリカに分布する。県内ではいなべ市，津市，松阪市および大台町の深山から記録されている。
 【現況・減少要因】 自生地のはほとんどは国立公園等に指定され，保護区になっているが，いずれの自生地もニホンジカの食害により以前に比べ，激減している。開花個体を確認できなかった生育地もある。
 【保護対策】 保護区ではニホンジカへの対策，保護区に指定されていない生育地ではニホンジカの対策および森林伐採の規制が必要。



(山本和彦)

(写真：大台町，2019年，川竹守撮影)



三重県 2025
NT
三重県 2015
NT
環境省 2020
—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ナガエミクリ

被子植物 ガマ科

Sparganium japonicum Rothert

【選定理由】 既知の生育地点数は20程度であるが、不安定な環境である水辺の植物のため、減少する可能性がある。

【種概要】 湖沼や水路などに生育する多年草の抽水植物。草丈は70～130 cmであるが、流水中では浮葉状態となり、もっと長くなることもある。下の方の雌性頭花には柄がある。花期は6～9月、花序は分枝しない。

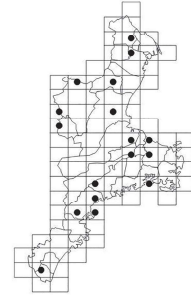
【分布】 国外ではアジア、極東地域。国内では北海道西南部、本州から九州。県内ではいなべ市、四日市市、菰野町、伊賀市、亀山市、名張市、津市、松阪市、多気町、明和町、伊勢市、南伊勢町、大紀町、紀北町、紀宝町で記録がある。

【現況・減少要因】 ミクリ属の中では最も多産し、県内各地の水路等に生育している。個体数やその増減については不明な点が多いが、池の改修時に消滅したところもある。

【保護対策】 生育地の水辺にかかわる工事の際には、保全のための配慮が必要である。

(山路武夫・宮島美栄)

(写真：南伊勢町，2016年，半田俊彦撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

コガマ

被子植物 ガマ科

Typha orientalis C.Presl

【選定理由】 既知の生育地点数は10程度であり、その個体数は少ない。また開発圧が強く、減少傾向にある。

【種概要】 湿地に生える高さ1～1.5 mの多年草。葉の幅は1 cm未満と狭い。6～8月に茎頂に円柱の花序をつけ、雌花群の上に接して雄花群をつける。

【分布】 東アジアの温帯から熱帯。国内では本州、四国、九州。県内ではいなべ市、桑名市、四日市市、鈴鹿市、津市、伊賀市、松阪市、鳥羽市で記録がある。

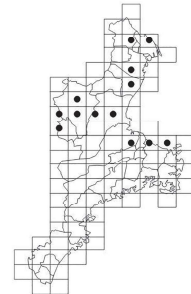
【現況・減少要因】 休耕田、池畔、川岸等で確認されているが、耕地整理による埋め立て、管理放棄、乾田化により減少している。

【保護対策】 継続的な生育状況の把握が必要である。

【文献】 28, 29.

(加田勝敏)

(写真：いなべ市，2018年，池田博撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

ミノボロスゲ

被子植物 カヤツリグサ科

Carex albata Boott ex Franch. var. *albata*

【選定理由】 既知の生育地点数は5以下であり、個体数は250未満である。今後の調査で新たな生育地が発見される可能性は高い。

【種概要】 山地に生える多年草。根茎は叢生して株になる。葉は幅2～3 mm。花茎は約20～50 cmでざらつく。花序は小穂を無柄円柱状に密に着け4 cm内外。果胞は卵状披針形で長さ4～5 mmである。固有種。

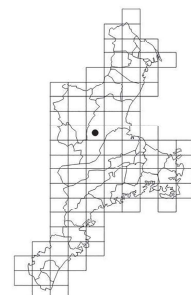
【分布】 北海道、本州（南千島、関東以北、中部、近畿高所）。県内では津市。

【現況・減少要因】 遷移により減少傾向にある。

【保護対策】 道路拡幅など土地造成を避けると共に生育環境の変化に注意したい。

【特記事項】 大峰山系弥山産を含め、近畿高所産は移入種の可能性がある。

(市川正人)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

ヒゲスゲ

被子植物 カヤツリグサ科

Carex boottiana Hook. et Arn.

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。各生育地の個体数も限られているが、今後の調査により新たな生育地が発見される可能性がある。

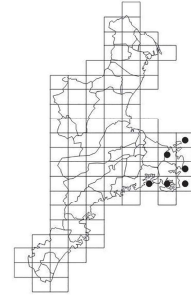
【種概要】海岸の岩上にはえる多年草。匍枝がなく、大きな株をつくる。葉や花茎の長さ30～80 cm、葉は硬く光沢があり深緑色。雌鱗片の先端は長さ1.5 cmほどの芒となる。

【分布】国内では本州（石川県、千葉県以西）から沖縄。国外では台湾、朝鮮半島に分布。県内では鳥羽市、志摩市、南伊勢町で記録がある。

【現況・減少要因】現在の分布は伊勢志摩地域から南伊勢町に限定されている。生育地への開発圧が減少の主要因となる。

【保護対策】生育状況を把握する必要がある。また、目立たない植物であるので、関係機関への周知や地域住民への啓発も大切である。

(岡 与一・半田俊彦)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

ミセンアオスゲ

被子植物 カヤツリグサ科

Carex horikawae K.Okamoto

【選定理由】既知の生育地点数は2。個体数は250未満であるが、シカ食害が認められる。新産地が期待される。

【種概要】乾燥した樹林内や林縁に生える高さ15～40 cmで叢生する多年草。花茎はきわめて細く、最上部に長い柄（5～10 mm）を持つ雄小穂、下側に数個の花からなる1～3個の離れた雌小穂を付ける。葉は幅1～2 mmで花茎より短い。果胞は2.5～3 mmで毛がある。固有種。

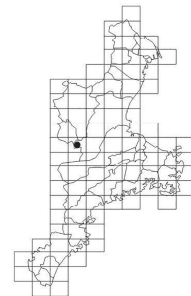
【分布】本州（長野、愛知、三重、瀬戸内海沿岸）、四国（瀬戸内海沿岸）。県内では津市で記録されている。

【現況・減少要因】津市の2か所に点在する。比較的安定した岩壁や山の斜面に生育している。シカ食害と植生遷移が減少要因である。

【保護対策】遷移が進みにくい安定した環境に生育しているが、シカ食害防護と個体数管理が待たれる。

【特記事項】イトアオスゲに類似するが、ミセンアオスゲは雄小穂の柄が長く目立つ。

(市川正人)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

マメスゲ

被子植物 カヤツリグサ科

Carex pudica Honda

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。個体数は比較的多い。新産地が期待される。

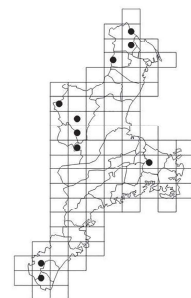
【種概要】丘陵地や山地の林内、とくに湿地周辺に生育する多年草で植物体サイズの変異は大きい。葉は密に叢生し、幅2～3 mmである。花期は4～5月頃。稈は短く葉の中に隠れて目立たない。雌小穂は根生状であり、雄小穂には細い柄がある。果胞は卵形で毛があり、長さは約3 mmである。固有種。

【分布】本州（関東地方から近畿地方）。県内ではいなべ市、桑名市、菰野町、津市、伊賀市、名張市、伊勢市、熊野市、紀宝町で記録がある。

【現況・減少要因】丘陵地の湿地周辺に生育する。シカ食害が認められる。

【保護対策】生息地の環境を現状のまま維持する。

(市川正人)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

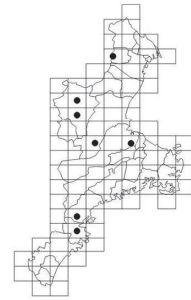
エゾハリイ

被子植物 カヤツリグサ科

Eleocharis congesta D.Don var. *thermalis* (Hultén) T.Koyama

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。総個体数は500未満である。
 【種概要】湿地や溜池の縁に生え、稈の高さ5～15cmで叢生する1年草、または多年草。稈は細く、ハリイに比べてやや外向きに曲がる傾向がある。基部の鞘は淡赤褐色。小穂は頂生し、花はハリイやオオハリイに比べて少ない。果実の長さはハリイ(0.7～0.8mm)より大きく、オオハリイほどで1～1.2mmである。成熟果実は濃い鶯色で、黄緑色のハリイやオオハリイとの識別点の1つとなる。なお、鱗片は両者に比べて濃く、濃褐色が目立つ。
 【分布】北海道、本州、四国、九州。県内では菰野町、伊賀市、玉城町、紀北町、尾鷲市で記録されている。国外ではカムチャッカ、アムール、満州。
 【現況・減少要因】少なくとも菰野町と伊賀市の2地点では現存している。減少要因は溜池改修などの湖沼開発である。
 【保護対策】溜池改修や湖沼開発にあたっては保護に配慮した工法とする。
 【特記事項】エゾハリイはハリイやオオハリイに類似する。3種は混生することが多い。

(市川正人)



三重県 2025
NT
三重県 2015
NT
環境省 2020
—

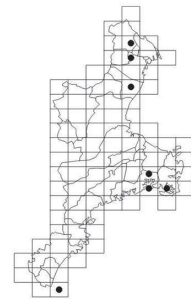
アンペライ (ネビキグサ)

被子植物 カヤツリグサ科

Machaerina rubiginosa (Sol. ex G.Forst.) T.Koyama

【選定理由】既知の生育地点数は10以下である。開発圧を受けやすい湿地に生育するが、今後の調査により新たな生育地が発見される可能性が高い。
 【種概要】湿地に生え、鱗片に被われた長い匍枝をつける。茎は高さ60～100cmで、円くて平滑。葉は大部分根生し、平滑円柱形で径2～3cm、粉白色をおびて光沢はない。
 【分布】国内では本州(東北地方以西)から沖縄。国外ではインド、セイロン、インドネシア、オーストラリアに分布。県内では北勢、南勢、紀州地域で記録がある。
 【現況・減少要因】南勢地域1か所と紀州地域の記録は古い標本によるものであり、現況は不明。他の地域は健在。生育環境である湿地は開発の影響を受けやすい。
 【保護対策】生育地の保全と、県内における生育状況の把握が必要である。
 【特記事項】志摩市の船越大池では地域住民がアンペライを刈り取り、草履や畑などで利用していたが、刈り取りが減少したことにより湿地環境が悪化した。そのため行政と地域住民により、アンペライの利用を促進することで、継続した刈り取りと湿地環境を保全する取り組みが始まっている。

(岡 与一・半田俊彦)



三重県 2025
NT
三重県 2015
NT
環境省 2020
—

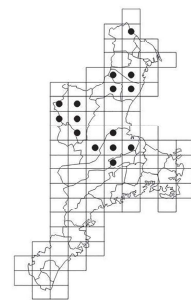
コシンジユガヤ

被子植物 カヤツリグサ科

Scleria parvula Steud.

【選定理由】既知の生育地点数はおおよそ20であり、生育地が減りつつある。
 【種概要】一年草で根茎はなく、高さ30～50cm。分花序は小さく、長さ1～3cm。果実には明らかな格子紋があり、7～10月に熟す。
 【分布】国外では朝鮮半島、中国、インドネシア、インド、アフリカ。国内では本州から九州の湿地に分布。県内では北勢地域、中勢地域、伊賀地域で記録がある。
 【現況・減少要因】山間・丘陵地の湿地や溜池の周囲にみられるが、開発による立地の減少が危惧される。
 【保護対策】生育地である湿地全体の保全が重要である。

(後藤稔治・岡田峰尚)



三重県 2025
NT
三重県 2015
NT
環境省 2020
—

ミヤマヌカボ

Agrostis flaccida Hack.

被子植物 イネ科

【選定理由】既知の生育地点数は3であり、個体数は少ないが新産地が期待される。

【種概要】高山や亜高山の岩礫地、北方の地では平地の岩場にも生える高さ15～30 cmの多年草。葉身は長さ4～10 cm、幅0.5～2 mmで内側に巻く傾向がある。長さ2.5～3 mmの小穂は円錐花序の枝先にまばらに着き、艶があつて紫色を帯びる。護穎基部のやや上に着く芒は3～5 mmでねじれて折れ曲がり、花から外出する。花期は6～8月。

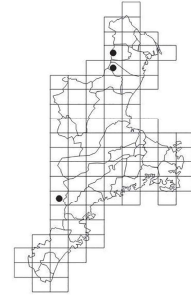
【分布】北海道、本州、四国、九州。県内では菰野町、大台町で記録がある。国外では朝鮮、南千島、サハリン、カムチャッカ。

【現況・減少要因】少なくとも菰野町の山地岩場で数株の生育を確認している。岩場の斜面崩壊が減少要因となる。

【保護対策】現在の環境を維持する。

【文献】90.

(市川正人)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

チョウセンガリヤス

Cleistogenes hackelii (Honda) Honda

被子植物 イネ科

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。各生育地の個体数は少ない。

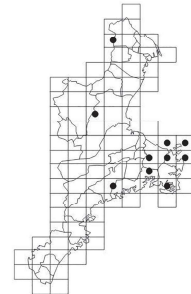
【種概要】やや乾いた地に生え、短い地下茎を持つ多年草。稈は立ち高さ40～100 cmで細い。葉身は長さ4～10 cm、幅3～7 mm、葉鞘にはまばらに開出毛が生える。花序は茎頂に灰緑色、ときに帯赤紫色の花穂を着ける。開放花と葉鞘から抜け出ない閉鎖花を着ける。

【分布】本州から九州。県内ではいなべ市、津市、伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町に記録がある。国外では朝鮮、中国。

【現況・減少要因】各生育地の生育個体数は極少なく、崖崩れや開発により絶滅する危険性がある。

【保護対策】イネ科の中でも目立たない、著しく地味な種である。個体を含む生育地域の保全が重要である。

(加田勝敏・市川正人)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

チャボチヂミザサ

Oplismenus undulatifolius (Ard.) Roem. et Schult. var. *microphyllus* (Honda) Ohwi

被子植物 イネ科

【選定理由】既知の生育地点数は10以下で、各生育地の個体数は250未満である。

【種概要】やや薄暗い林内に生育し、全体小形で花序の枝が短いので穂状の観がある。葉の長さ1～3 cm。小穂の数は1～3個。

【分布】台湾、ニューギニア、オーストラリア。国内では本州（千葉県、東海地方以西）、九州、沖縄。県内ではいなべ市、伊勢市、大台町、南伊勢町、大紀町、尾鷲市で記録がある。

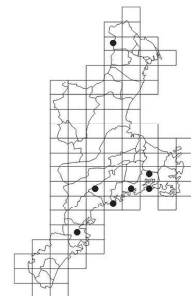
【現況・減少要因】微小で目立たない種なので、減少したり、絶滅していても気付かない。森林伐採や林道工事等で大きな影響があると考えられる。

【保護対策】より一層のデータ収集を行い、地域の行政機関に情報を提供しておくことも必要である。

【特記事項】標本は三重県総合博物館にある。

【文献】44.

(加田勝敏)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ナガミノオニシバ

被子植物 イネ科

Zoysia sinica Hance var. *nipponica* Ohwi

【選定理由】既知の生育地点数は20以下であり、未知の生育地はこれまで知られていない生育地点数に比べ多くはない。

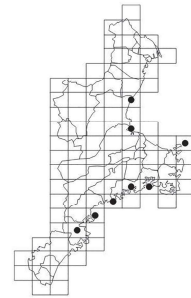
【種概要】海岸の砂地に生える多年草。走出枝は地下性で横走り、その節から稈を直立する。稈は高さ10~25 cm。オニシバに似るが、小穂は長さ4~7 mm、幅1.2~1.5 mm、披針形でやや細い。

【分布】国内では本州（関東以西）、四国、九州。国外では朝鮮半島、中国（東北）に分布。県内では中勢から南勢、紀州地域にかけての浜辺で記録されている。

【現況・減少要因】伊勢湾沿いの生育地では、海岸道路の整備や埋め立て等の開発圧が高く、減少傾向にある。紀州地域北東部も今後河川改修が予定されており、減少が懸念される。南伊勢町では、内湾の浜辺に多くの生育地が認められるが、一部では埋め立てが進んでいる。

【保護対策】本種だけでなく多くの海岸植物が、自生地を失わずに将来に渡って存続していけるような海岸部の保全策が必要である。

(山本和彦)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

マツモ

被子植物 マツモ科

Ceratophyllum demersum L.

【選定理由】既知の生育地点数は20以下であり、生育地は減少している。

【種概要】湖沼、ため池、水路などに生育する沈水性の多年草。多数分枝し5~10個の輪生葉を各節につける。根を持たず水面下を浮遊していることが多い。花期は5~8月。晩秋になると殖芽をつくり、これが水底に沈んで冬を越す。キンギョモとして知られる。

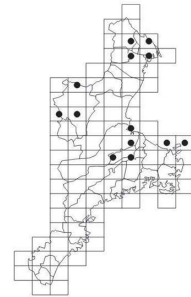
【分布】世界に広く分布。国内でも北海道から九州の琉球列島まで広く分布。県内では桑名市、東員町、いなべ市、津市、松阪市、多気町、玉城町、鳥羽市、伊賀市に記録がある。

【現況・減少要因】伊賀市の記録は最新でも1972年であり、それ以降については不明。生育地である水田やため池の管理放棄に伴い減少している。

【保護対策】健全な生育地の維持管理に努める。

(中 優・福田知子)

(写真：玉城町、2020年、池田博撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

ヘビノボラズ

被子植物 メギ科

Berberis sieboldii Miq.

【選定理由】既知の生育地点数は10以上であるが、未知の生育地数は既知の生育地に比べ多くはない。

【種概要】貧栄養の湿地とその周辺に生える落葉小低木。高さ50~70 cm。葉は倒披針状長楕円形で、短枝に輪生状につく。5月頃、黄色の花が総状花序をつくる。固有種。

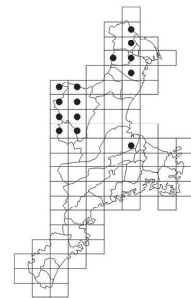
【分布】本州（中部地方南西部、近畿地方）、九州（宮崎県）に分布。県内では桑名市、東員町、いなべ市、菰野町、四日市市、鈴鹿市、亀山市、津市、多気町、伊賀市、名張市。

【現況・減少要因】主に伊勢平野や伊賀盆地の丘陵地に形成された湿地とその周辺に生育する。これらの丘陵地における土地開発等の影響を受けやすい。

【保護対策】本種が自生している湿地とその周辺の丘陵地を保全する必要がある。

(武田明正・市川正人)

(写真：菰野町、2020年、市川正人撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

ユキワリイチゲ

Anemone keiskeana T.Itô ex Maxim.

被子植物 キンポウゲ科

【選定理由】既知の生育地点数は10程度。各生育地の個体数はそれほど多くはなく、また開発圧が強い生育地もある。

【種概要】やぶ陰に生える多年草。根茎は横に這い、しばしば紫色を帯びる。先に1本の花茎と1~3枚の根出葉をつける。3月頃、径3~3.5 cmの花を1個花茎に頂生する。萼片は淡紫色。夏に地上部は枯れる。

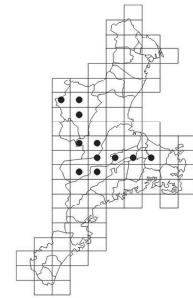
【分布】国内では本州西部から九州に分布。県内では津市、伊賀市、松阪市、多気町、度会町、大台町、伊勢市からの記録がある。

【現況・減少要因】県内では河畔林の林床やスギ林の林縁、神社の境内等に生育している。伐採や道路の拡幅工事等で減少した生育地もみられる。

【保護対策】河畔林の伐採や道路開発、土地造成には注意が必要。

(山本和彦)

(写真：津市，2009年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

イチリンソウ

Anemone nikoensis Maxim.

被子植物 キンポウゲ科

【選定理由】既知の生育地点数は10以下、各地点の生育個体数は250未満の個体数である。開発や採取などが懸念される。

【種概要】山の木陰に生える多年草。花茎は20~30 cmで4~5月頃、径約4 cmの花を茎頂に1個つける。花径には2回3出羽状の苞葉を3輪生する。早春植物である。固有種。

【分布】本州、四国、九州の暖帯上部~温帯。県内ではいなべ市、四日市市、菰野町、亀山市、津市、松阪市、伊賀市、名張市、大台町に記録がある。

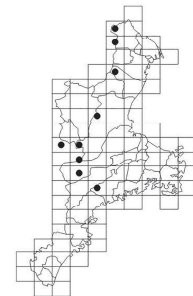
【現況・減少要因】開発圧・採取圧で減少傾向にある。

【保護対策】開発時には事前の環境影響調査を実施し、保全対策を行うこと。なお、調査の際には早春植物であることに注意を要する。

【文献】85。

(加田勝敏・市川正人)

(写真：いなべ市，2012年，山本和彦撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

クサボタン

Clematis stans Siebold et Zucc. var. *stans*

被子植物 キンポウゲ科

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。各生育地点の個体数は250未満、ニホンジカの食害で激減している。

【種概要】主に石灰岩地の山麓~山地の林縁や草地に生える雌雄異株の多年草。茎の下部は木質化する。葉は対生・3出複葉、小葉は広卵形~卵形で長さ8~13 cm、両面に毛があり、冬も残る。7~8月、茎頂や葉腋に円錐花序を着け、上部裂片が反り返る淡紫色の花を着ける。固有種。

【分布】本州。県内では、いなべ市、桑名市、菰野町、鈴鹿市、亀山市、津市、熊野市に記録がある。

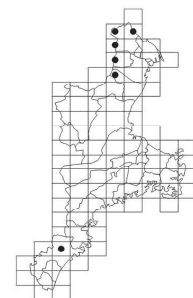
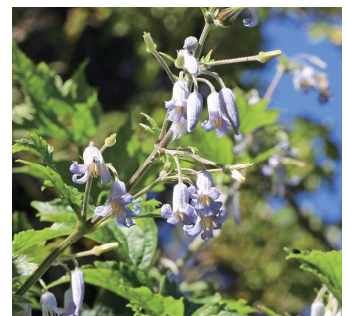
【現況・減少要因】生育地の多くは石灰岩採掘や土砂採取が行われている地域であり、工区範囲が拡大されている現状を憂慮する。シカ食害も顕著である。

【保護対策】食他の石灰岩植物への影響も含め採掘を中止すべきである。シカの個体数管理や防鹿柵設置も必要である。

【文献】34, 45, 85, 91。

(加田勝敏・市川正人)

(写真：いなべ市，2015年，池田博撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

トリガタハンショウヅル

被子植物 キンポウゲ科

Clematis tosaensis Makino

【選定理由】 既知の生育地点数は10以上であるが、各地点50未満の個体数しかない。

【種概要】 日当たりのよい林縁に生え、低木に絡んでいる。4～5月頃淡黄色の花をつける。

【分布】 日本固有種。本州、四国の暖帯から温帯に分布。県内ではいなべ市、菰野町、亀山市、伊賀市、名張市、津市、松阪市、伊勢市、大台町、紀北町、尾鷲市で記録がある。

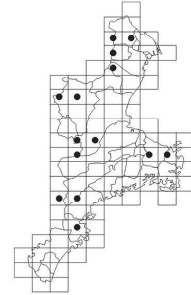
【現況・減少要因】 県内での記録はあるが、よく成長した個体は少なく、林道拡幅や土砂崩れで減少するおそれがある。

【保護対策】 各市町の土木担当者や関係業者に計画段階での調査を実施するように、啓発活動を行うことが望ましい。

【文献】 57.

(加田勝敏)

(写真：伊勢市，2015年，池田博撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

トウゴクサバノオ

被子植物 キンポウゲ科

Dichocarpum trachyspermum (Maxim.) W.T.Wang et P.K.Hsiao

【選定理由】 既知の生育地点数は10以上であるが、各生育地の個体数は50未満である。

【種概要】 暖帯林中に生える草本，地下茎は発達せず，茎は高さ10～20 cmで基部に数枚の根出葉は束生する。茎葉はすべて対生し，対になった葉の基部の梢は合着する。頂小葉は広卵形から倒卵形で3中裂し，鈍い鋸歯がある。花は全開せず，やや垂れ下がって咲き，径6～8 mm，萼片は5枚，花弁状で淡黄緑色から白色。萼片の内部にある花弁は小さく軍配形で黄色から橙黄色，先は多少内曲する。茎の基部に閉鎖花をつける。

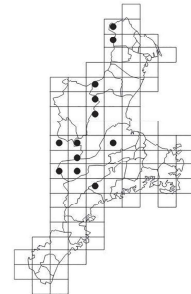
【分布】 国内では本州（宮城県以西），四国，九州。県内ではいなべ市，亀山市，伊賀市，津市，松阪市，大台町に分布する。

【現況・減少要因】 谷川沿いの湿地に生育するため，河川改修などで絶滅するおそれがあり，工事の際には注意が必要である。

【保護対策】 生育地域を保全する。

(中馬千鶴・福田知子)

(写真：津市，2013年，市川正人撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

タキミチャルメルソウ

被子植物 ユキノシタ科

Mitella stylosa H.Boissieu var. *stylosa*

【選定理由】 鈴鹿山脈北部一帯に分布するが，近年，登山者の増加により生育環境が狭められている。

【種概要】 山地の溪流沿いの湿った場所に生える多年草。花茎は高さ20～25 cm，腺毛を密生し，4月に多数の花を総状につける。花には花弁が5個あり，花弁が線形で羽裂しない。

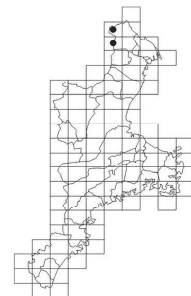
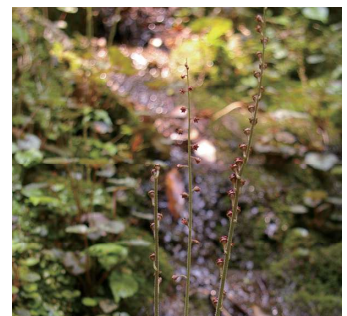
【分布】 国内では岐阜県，滋賀県，三重県にまたがる鈴鹿山脈の一部と伊吹山に分布する。県内ではいなべ市の藤原岳，御池岳に生育する。

【現況・減少要因】 ごく限られた地域のみで生育し，個体数も少ない。近年の登山者の増加により登山道周辺の環境が悪化し，生育環境が狭められている。

【保護対策】 藤原岳の鳴滝で発見された貴重な植物なので，地元との理解と協力を得て，生育地周辺の環境も含めて保護することが必要である。

(桐生定巳)

(写真：いなべ市，2013年，市川正人撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

ハマナタマメ

Canavalia lineata (Thunb.) DC.

被子植物 マメ科

【選定理由】既知の生育地点数は10以下である。開発圧力の強い海岸に生育していることが多い。

【種概要】外洋に面した海岸に生育する多年生のつる草。葉は丸い3小葉からなる。夏に淡桃色の花を咲かせ、秋には大きな豆果をつける。

【分布】本州（太平洋側千葉県以西、日本海側山形県以西）から九州。県内では鳥羽市、南伊勢町、志摩市、紀北町、尾鷲市、熊野市で記録がある。国外では台湾、中国。

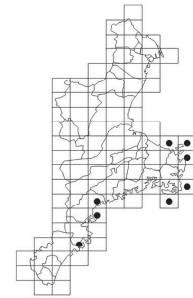
【現況・減少要因】県南部の海岸に生育している。海岸開発により生育地は狭められている。

【保護対策】海岸の工事にあたっては慎重に計画をすすめる。

【文献】139.

(市川正人)

(写真：志摩市，2018年，山本和彦撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

シバハギ

Desmodium heterocarpon (L.) DC.

被子植物 マメ科

【選定理由】既知の生育地点数は20以上であり、県内全般に点々と分布するが、開発や土地の整備により減少の可能性がある。

【種概要】道ばたや草原などのやや乾いた場所でみられる草本状の小低木。茎は根元でよく分枝し、地を這い、先が立ち上がる。また、灰白色のねた毛が生える。9～10月に紅紫色の花を咲かせる。果実は長さ1.5 cmぐらいいで、4～6個の節がある。

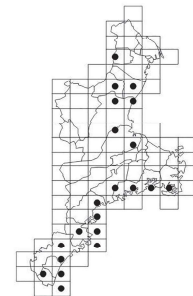
【分布】国内では本州（関東以西）から沖縄。県内では伊賀地域を除く県内全域。とくに紀州地域に多くみられる。

【現況・減少要因】草地の整備や開発による減少が懸念される。

【保護対策】できるだけ生育地を保護することが必要である。

(山脇和也)

(写真：志摩市，2019年，山本和彦撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ミヤマトバラ

Euchresta japonica Hook.f. ex Maxim.

被子植物 マメ科

【選定理由】既知の生育地点数は10以上であるが、未知の生育地数は既知の生育地に比べ多くはない。

【種概要】常緑低木。暖地の樹林林床に生える。茎は斜上して高さ30～80 cm。葉は互生で長い葉柄（3～6 cm）の先に楕円形から倒卵形の小葉を3枚つける。葉は革質で表面につやがある。

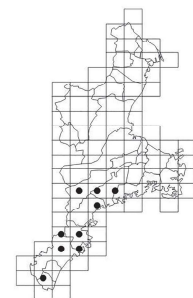
【分布】国内では本州（関東以西の太平洋側斜面、兵庫県、山口県）、四国、九州に分布。国外では朝鮮半島、中国に分布。県内では南勢地域（大台町、大紀町）と紀州地域（紀北町、尾鷲市、熊野市）で生育が確認されている。

【現況・減少要因】主に紀州地域の樹林地の林床にまれに生育する。本県では林業の盛んな地域に分布が限られているので、間伐や下刈りほか、保育作業の影響を受ける可能性が高い。

【保護対策】既知の生育地点での個体の保全が必要である。

(武田明正)

(写真：熊野市，2017年，池田博撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

フジカンゾウ

被子植物 マメ科

Hylodesmum oldhamii (Oliv.) H.Ohashi & R.R.Mill

【選定理由】既知の生育地点数は100以下であるが、個体数はシカ食害で激減しているため希少種として掲載した。

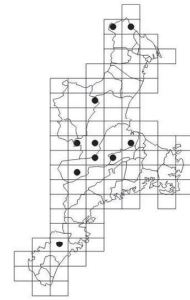
【種概要】山地に生える高さ50~120 cmの多年草。葉は5~7小葉からなる。小葉は長さ約8~16 cmの卵形~長楕円形で、7~8 mmの線形の托葉がある。花期は8~9月で長い総状花序になる。花は9 mm前後の淡紅色で、萼は小さく5浅裂する。果実は9 mm前後の柄があり、1~2節で表面には鈎毛がある。

【分布】本州、四国、九州。県内ではほぼ全域。国外では朝鮮、中国、ロシア。

【現況・減少要因】シカ食害で急減している。

【保護対策】防鹿柵の設置や個体数管理などシカ食害防止の対策を工夫する。
(市川正人)

(写真：大台町，2007年，池田博撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

ニワフジ

被子植物 マメ科

Indigofera decora Lindl.

【選定理由】既知の生育地点数は20以下で、各地点250未満の個体数しかない。生育地が人里近くであり、生育地そのものが突然消失してしまう可能性もある。

【種概要】本来は川岸の岸壁などに生育するが、栽培個体が逸出して人里の石垣などにもみられる。高さ30~40 cmの小形の低木。5~6月頃淡紅色花を総状につける。

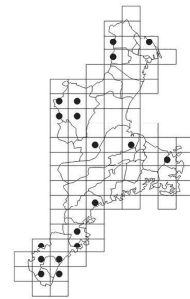
【分布】中国、台湾。国内では本州（中部、近畿地方）、四国、九州。県内では桑名市、いなべ市、菰野町、松阪市、伊勢市、伊賀市、紀北町、尾鷲市、熊野市、御浜町で記録があるが、本来の自生かどうか疑わしいものもある。

【現況・減少要因】生育地の大半が人里にあって、休耕、耕作放棄等で既に環境が変化し、絶滅に瀕しているところがあるかもしれない。また、花をつける時期に草刈が行われるので、生育地を正しく把握することも難しい。

【保護対策】過去に生育が確認されている市町はもとより、同様の環境が存在する市町でも現況を把握する必要がある。

(加田勝敏)

(写真：紀北町，2020年，山本和彦撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

ツルキンバイ

被子植物 バラ科

Potentilla rosulifera H.Lév.

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。各地点の生育個体数は50未満である。新産地発見の可能性もある。

【種概要】山地の夏緑広葉樹林の林床に生える多年草。細長い走出枝を延ばす。葉は3小葉、小葉は長さ1.5~4 cm、幅8~20 mmである。4~6月頃、10~25 cmの花径を出して、径15~20 mmの黄色花をまばらにつける。

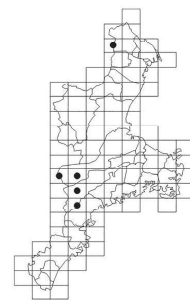
【分布】本州（関東地方以西）、四国、九州。県内ではいなべ市、松阪市、大台町、大紀町。国外では朝鮮、中国。

【現況・減少要因】採取圧、および石灰岩採掘など生育環境破壊による減少が懸念される。

【保護対策】個体保護を含めた生育地の保全に取り組むこと。

(加田勝敏・市川正人)

(写真：いなべ市，2017年，市川正人撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

バクチノキ

Prunus zippeliana Miq.

被子植物 バラ科

【選定理由】既知の生育地点数は10以上であるが、群落を形成することはない。いずれの生育地でも個体数は少ない。

【種概要】常緑高木、高さ15 m以上、径1 mになる。樹皮は灰黒色または灰褐色、外皮が鱗片状にはげて、その跡が紅黄色まだら状となる。花期は9月で、花は白色。バクチノキの名は、樹皮のはがれる様子を博打に負けた姿にたとえた。

【分布】国内では本州（関東以西）、四国、九州、沖縄。国外では朝鮮半島（済州島）に分布。県内では伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町、紀北町、尾鷲市、熊野市、御浜町、紀宝町で記録がある。

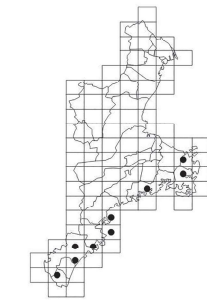
【現況・減少要因】浅山に所々生育しているが、一般にはよく社寺叢の中に残っている。また、庭木としても植栽されている。減少要因としては、樹林の乱伐や庭木用の採取がある。

【保護対策】生育地である樹叢全体を保護区に指定し、伐採や採取を防止する。

【特記事項】紀北町では本種の巨樹を見ることが出来、生育地は県の天然記念物に指定されている。

(岡 与一・半田俊彦)

(写真：尾鷲市，2013年，山本和彦撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

オオイタビ

Ficus pumila L.

被子植物 クワ科

【選定理由】既知の生育地点数は5以下。生育地は比較的安定しており現状が維持されれば絶滅の危険性は低い。未知の生育地はあまりないと思われる。

【種概要】海岸近くの岩場や崖、傾斜地に生える常緑の多年生つる植物。茎から出る気根で固着しながら木や岩にはい登る。花嚢は球形または倒卵形で、雄と雌の花嚢は同形、花期は5～7月。果嚢は長さ3.5～5 cmの倒卵形、10～11月に紫色に熟す。

【分布】国内では本州（房総半島以西）、四国、九州、沖縄。国外では台湾、中国。県内では多気町、伊勢市、鳥羽市、志摩市、尾鷲市で記録がある。

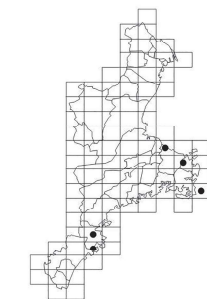
【現況・減少要因】生育地の崖が擁壁工事などの開発などによって失われることがある。また、落石防止網の設置により他種が侵入し、植生が遷移してしまう可能性がある。

【保護対策】生育地の崖などが開発を受けないよう、関係自治体や地域住民への啓発に努める。

【特記事項】鳥羽市の生育地は市の天然記念物に指定されている。緑化や観葉植物として利用され、栽培品種もある。

(半田俊彦)

(写真：志摩市，2024年，山本和彦撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

イヌブナ

Fagus japonica Maxim.

被子植物 ブナ科

【選定理由】既知の生育地点数は10以上であるが、山地に限られ。個体数は多くない。未知の生育地は既知の生育地に比べ多くはない。

【種概要】日本固有種。山地に生える落葉高木。樹高25 m、直径70 cmになる。樹皮は灰黒色で、いぼ状の皮目が目立つ。洋紙質の葉は、長さ5～10 cmで長楕円形から卵状楕円形。先は尖り基部はくさび形。

【分布】本州（岩手県以南）、四国、九州（熊本県以北）に分布。県内ではいなべ市（藤原岳）、菰野町（御在所岳）、鈴鹿市（入道ヶ岳）、伊賀市（奥山愛宕神社）、名張市、津市美杉町（三重大学演習林）ほか、暖帯上部の山地に生育する。

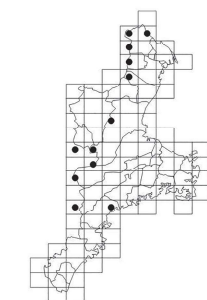
【現況・減少要因】主に山地の中間温帯林に点在する。生育地である山林の多くがスギ、ヒノキの単純林に転換されたことにより、個体数が減少している。

【保護対策】自生地の多くは国定公園域で山林の取り扱いに制限が加えられている。

【特記事項】自生地のひとつ奥山愛宕神社の社叢林は三重県指定の天然記念物として保護されている。

(武田明正)

(写真：松阪市，2018年，池田博撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

サクラバハノキ

被子植物 カバノキ科

Alnus trabeculosa Hand.-Mazz.

【選定理由】既知の生育地点数は10以上であるが、土地開発の対象となる可能性が高い湿地等に生育が限られている。

【種概要】湿地に生える落葉高木。樹高15~20 m程度、樹皮は暗灰褐色。葉は卵状楕円、長楕円形で細鋸歯があり、鋸歯の先に腺点がある。葉の先は急鋭頭~尖鋭頭。基部は円形から浅心形。側脈は9~12対。

【分布】国内では本州（茨城県、新潟県以西）、九州（宮崎県）。国外では中国（南東部）。県内では北勢地域（いなべ市、菰野町ほか）、南勢地域（鳥羽市、南伊勢町ほか）、伊賀市、名張市。

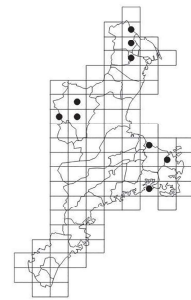
【現況・減少要因】ハノキ（*Alnus japonica*）と誤認されやすく、県内での本種の現状は不明のところが多い。北勢、南勢、伊賀の各地域で丘陵地の湿地周辺に生育する。これらの地域では土地開発により湿地が改変されることが多いため、個体数が減少している。

【保護対策】現在生育している湿地の保全が必要。また、現況把握の調査が必要。

【特記事項】ハノキの萌芽枝の葉や若木の葉が本種の葉と似ているため、同定に注意を要する。

（武田明正・市川正人）

（写真：いなべ市，2012年，市川正人撮影）



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

サワダツ

被子植物 ニシキギ科

Euonymus melananthus Franch. et Sav.

【選定理由】既知の生育地点は10以下である。

【種概要】暖温帯から冷温帯にかけ、やや湿った林内に見られる。枝はすべて緑色で平滑、細い4条線がある。葉は薄く、卵形。托葉は線形、羽状に切れ込む。花期は、6~7月。総花柄に1~3の花をつける。花は5数性で、花弁は暗紫色。

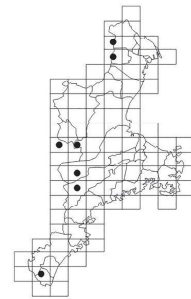
【分布】日本固有種で本州、四国、九州に生育する。県内では北から南まで点々と情報がある。

【現況・減少要因】比較的広い地域に生育するようだが、林道工事や森林の伐採や下刈りが減少要因となる。

【保護対策】森林の伐採や下刈りのとき気をつける。

（山脇和也）

（写真：菰野町，1976年，山本和彦採集，三重県総合博物館所蔵）



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

コミヤマカタバミ

被子植物 カタバミ科

Oxalis acetosella L. var. *acetosella*

【選定理由】既知の生育地点数は5以下で、未知の生育地は既知の生育地にくらべ多くはない。

【種概要】亜高山の林下に生える小型の多年草。地下茎は細長く横に這い、先に1~数個の葉を束生する。葉柄は3~10 cm、小葉は幅7~12 mmで両縁は円形。花は5~6月、白色、脈は紫色。蒴果は卵球形で長さ3~4 mm。

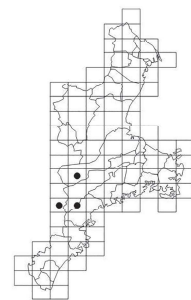
【分布】国内では北海道から九州。国外では朝鮮半島、千島、樺太、アジア等に分布。県内では松阪市と大台町からの記録がある。

【現況・減少要因】大杉谷の上部の落葉広葉樹林や大台ヶ原山の針葉樹林下に広くみられ、松阪市では林道の脇にも認められた。大台ヶ原、大杉谷は国立公園に指定されており、開発等による絶滅の心配はないが松阪市内の個体群は規制もなく、山地開発、林道開設等により消滅する可能性もある。

【保護対策】山地開発、林道開設、治山工事などの際には、保全に配慮する必要がある。

（山本和彦）

（写真：大台町，2015年）



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

イワタイゲキ

Euphorbia jolkinii Boiss.

被子植物 トウダイグサ科

【選定理由】既知の生育地点数は10程度、各生育地の個体数は50未満であるが、調査が進めば新たな生育地が発見される可能性がある。

【種概要】海岸の岩地や礫浜に生育する多年草。草丈は30~50 cm以上、互生葉を密につけ、茎頂に数葉を散状輪生する。花期は4~6月、杯状花序をつける。

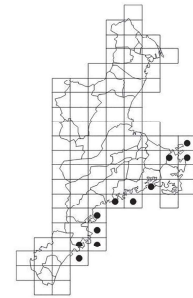
【分布】国内では本州（関東南部）から沖縄、国外では中国（台湾）、朝鮮半島南部に分布。県内では鳥羽市、志摩市、南伊勢町、大紀町、紀北町、尾鷲市、熊野市等で記録がある。

【現況・減少要因】護岸工事などで多くは消失し、わずかな個体が残存しているのを見ることがある。熊野灘沿岸の外海に面した海岸だけでなく、英虞湾などの内海にも点々と生育するが、分布の詳細については未解明である。

【保護対策】現生育地の保全が必要である。また、海岸の岩地という調査困難な環境に生育し、未調査の地域も多くあるので、組織だった調査を実施する必要がある。

(岡 与一・半田俊彦)

(写真：尾鷲市，2012年，山本和彦撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

ヒメミソハギ

Ammannia multiflora Roxb.

被子植物 ミソハギ科

【選定理由】既知の生育地点数は10以上であるが、各地点の個体数は50未満である。

【種概要】水田や湿地に生える1年草。茎は直立無毛、4稜があり、10~40 cmで枝を分ける。葉は広線形~披針状長楕円形でほとんど柄がなく、基部はやや耳状となって茎を抱き、長さ1.8~5 cm、幅2~12 mmである。9~11月頃、葉腋に淡紫色の花弁4個、径1.5 mmの花をつける。果実は約2 mmで萼より長く、光沢のある蒴果である。

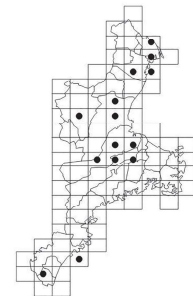
【分布】本州から九州。県内ではいなべ市、桑名市、菰野町、四日市市、亀山市、伊賀市、津市、松阪市、多気町、熊野市、紀宝町で記録がある。国外ではアジア、アフリカ、豪州の亜熱帯~熱帯。

【現況・減少要因】ほぼ県内全域にみられるが、農薬使用や圃場整備で減少傾向にある。

【保護対策】生育環境を回復し維持する。

(市川正人)

(写真：松阪市，2016年，池田博撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ミズマツバ

Rotala mexicana Cham. et Schtdl.

被子植物 ミソハギ科

【選定理由】既知の生育地点数は20程度であるが、農薬使用や乾田化により減少傾向にある。

【種概要】稲刈り後の水田などでみられる小さな1年草。草丈は3~10 cm。葉は線形~長披針形で6~10 mm。8~10月に小さな花を葉腋に着ける。

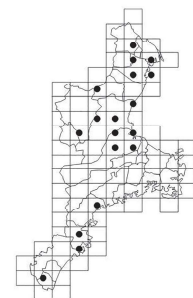
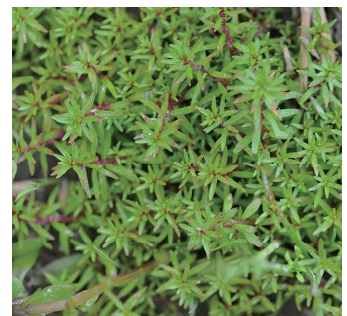
【分布】本州から九州。県内ではいなべ市、桑名市、菰野町、四日市市、亀山市、伊賀市、津市、松阪市、多気町、鳥羽市、尾鷲市、熊野市、御浜町、紀宝町で記録がある。国外では極東、東南アジア、中央アジア、アフリカ。

【現況・減少要因】県内分布域の各所で生育するが、圃場整備された乾田ではあまりみられない。

【保護対策】すべてを乾田化せず、小さな湿性水田を各所に残しておく。

(市川正人)

(写真：熊野市，2014年，山本和彦撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

VU

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

シコクハタザオ

被子植物 アブラナ科

Arabis serrata Franch. et Sav. var. *sikokiana* (Nakai) Ohwi

【選定理由】既知の生育地点は1。県内には自生地と同様な生育環境が多いことから、今後の調査により生育地が増加する可能性が高い。

【種概要】暖温帯上部から冷温帯域の岩上に生育する多年草。茎の葉の基部は矢じり形または心形で茎を深く抱く。根出葉は広倒披心形で柄が長い。花茎は斜上し、長角果は長さ7~9 cm、開出~下垂する。花期は4~5月、花は白色。

【分布】関東以西の本州、四国、九州に分布する。県内では大紀町から記録されている。

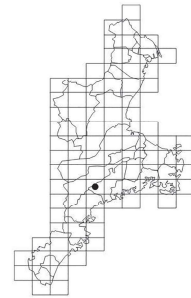
【現況・減少要因】落葉広葉樹林内の岩場に生育していることもあり、ニホンジカ等、野生獣の食害は免れている。個体数は少ないが開花個体も見られ、生育環境の激変がない限り個体群は維持されていくと思われる。

【保護対策】森林伐採の規制とニホンジカの食圧を軽減することが必要。

【文献】100.

(山本和彦)

(写真：大紀町，2007年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

ミズタガラシ

被子植物 アブラナ科

Cardamine lyrata Bunge

【選定理由】既知の生育地点数は10を越えるが、個体数は少なく、湿地開発などで減少傾向にある。

【種概要】水湿地に生える高さ30~60 cmの多年草。茎は花期に立っているが、後に倒れるとともに基部から長い走出枝を伸ばす。葉は小葉7~13枚の羽状複葉、頂小葉は幅6~20 mmの卵円形、側小葉は小さい。4~5月に花弁長8~10 mmのタネツケバナのような白花を咲かせる。果実は無毛で2~3 cm、果柄は長く、開出する。

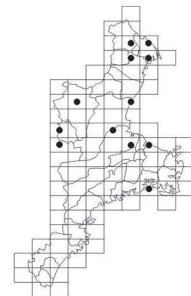
【分布】本州(関東以西)、四国、九州。県内ではいなべ市、桑名市、菟野町、亀山市、津市、伊賀市、名張市、松阪市、明和町、伊勢市、玉城町、南伊勢町で記録がある。国外では朝鮮、中国、東シベリア。

【現況・減少要因】個体数は比較的多いが、減少傾向が著しい。植生遷移と湿地開発が減少要因となる。

【保護対策】湿地開発の際には自然に優しい持続可能な計画・施工が必要である。

(市川正人)

(写真：伊勢市，2017年，池田博撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

ハマサジ

被子植物 イソマツ科

Limonium tetragonum (Thunb.) Bullock

【選定理由】既知の生育地点数は10程度であるが、生育地は開発されやすい海岸の砂泥地である。

【種概要】海浜の砂泥地に生育する越年草。葉は根ぎわに群生し、長楕円状へら形。花期は9~11月。群生する葉の中央から花茎をのぼす。花茎は分枝をくり返して、その先に黄色い頭花をつける。

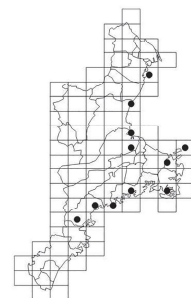
【分布】国外では朝鮮半島、中国東北部。国内では本州(三陸海岸以南の太平洋側)から九州。県内では四日市市、津市、松阪市、伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町、大紀町、紀北町で記録がある。

【現況・減少要因】伊勢湾中部から紀北町にかけての海岸に点在している。海岸の開発や工事で消滅したところもある。

【保護対策】海岸の開発は慎重に行う。

(山路武夫・宮島美栄)

(写真：松阪市，2012年，市川正人撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

モウセンゴケ

被子植物 モウセンゴケ科

Drosera rotundifolia L.

【選定理由】既知の生育地点数は100以下である。各生育地とも個体数は減少している。

【種概要】各地の山地・野原の日当たりのよい湿地に生える多年草の食虫植物。葉身は円形で、直径5～10 mm、基部は急に細くなり柄となる。葉面には多数の紅紫色の腺毛が生える。夏に葉の間から花茎をだし15～20 cm位で直立し、穂状の総状花序をつけ、数個から10数個の花を偏側に開く。

【分布】日本全土ならびに北半球の冷温帯及び亜寒帯。県内では北勢、中勢、南勢、伊賀の広い範囲に分布し、紀州地域では熊野市に点在する。尾鷲市では1960年代後半まで確認されていたが、自生地の埋め立てにより消滅している。

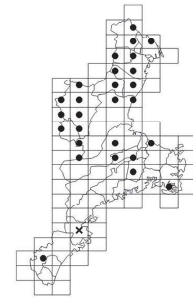
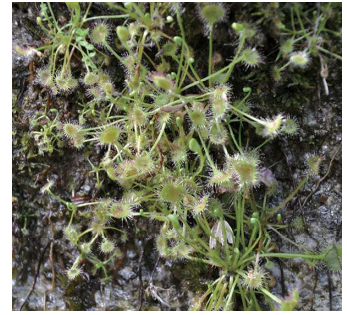
【現況・減少要因】生育地は耕地整理、溜池や林道の改修、土地開発等により消失したり、せばめられている。

【保護対策】生育地に対する土地改変などの人為圧を抑止することが急務である。

【文献】34, 43, 57, 69.

(葛山博次)

(写真：紀宝町，2016年，山本和彦撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

トウカイコモウセンゴケ

被子植物 モウセンゴケ科

Drosera tokaiensis (Komiya et C.Shibata) T.Nakam. et K.Ueda subsp. *tokaiensis*

【選定理由】既知の生育地点数はおよそ20であるが、開発圧力の強い湿地に生育している。

【種概要】日当たりのよい貧栄養な湿地周辺、湧水のある崖地などに生育する多年草。葉には多くの腺毛があり虫を捕える。葉はスプーン形～へら形で葉柄との境ははっきりしない。花期は夏で、根生葉の中心から伸びた花茎に淡紅色の花を順々に咲かせる。

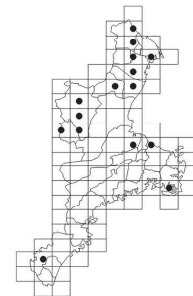
【分布】日本固有種。国内では本州（北陸地方、東海地方、近畿から中国地方東部）、四国。県内ではいなべ市、桑名市、四日市市、鈴鹿市、亀山市、伊賀市、名張市、松阪市、明和町、志摩市、熊野市で記録がある。

【現況・減少要因】明るい湿地に生育するが、生育地は限定されている。湿地の開発や草原の遷移、園芸目的の採集によって減少している。

【保護対策】湿地の開発は慎重に行う。

(山路武夫・半田俊彦)

(写真：明和町，2024年，池田博撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ヤナギイノコヅチ

被子植物 ヒユ科

Achyranthes longifolia (Makino) Makino

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。開発で消滅の可能性もある。

【種概要】山地の木陰に生える多年草。茎は高さ1 mほどになり、まばらに枝を分ける。葉は長さ10～20 cmで披針形で薄く、毛はほとんどない。花期は8～9月。

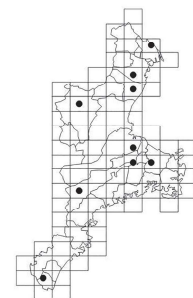
【分布】国内では本州（関東以西）から九州。国外では中国（本土、台湾）に分布。県内全域に記録がある。

【現況・減少要因】開発などによる環境の悪化が減少要因となる。

【保護対策】事前の詳細な調査など、開発時には配慮すべきである。

(山脇和也)

(写真：紀宝町，2016年，池田博撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ハママツナ

被子植物 ヒユ科

Suaeda maritima (L.) Dumort. subsp. *asiatica* H.Hara

【選定理由】既知の生育地点数はおよそ15であるが、生育地は開発圧力の強い汽水域の海岸である。

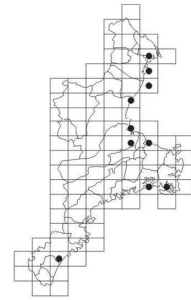
【種概要】海岸や河口の塩湿地に生育する一年草。茎は多く分枝して20～60 cmになる。葉は多く多肉質で無毛、秋に全草が赤くなる。花期は9～10月、葉腋に小さい花をつける。

【分布】北半球に広く分布。国内では本州（宮城県以南）から四国、九州、沖縄県。県内では桑名市、四日市市、津市、松阪市、明和町、伊勢市、志摩市、南伊勢町、熊野市で記録がある。

【現況・減少要因】各地の海岸に点々と生育しているが、埋め立てや護岸改修などで生育地が減少している。

【保護対策】海岸の開発や工事にあたっては、生物に配慮し、慎重に進める。
(山路武夫・半田俊彦)

(写真：伊勢市，2024年，半田俊彦撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

バイカアマチャ

被子植物 アジサイ科

Platycrater arguta Siebold et Zucc.

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、各地点の個体数は250未満である。

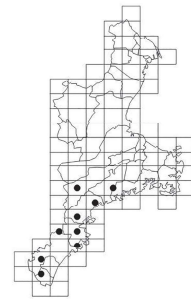
【種概要】落葉性の低木。茎は下部から分枝し、高さ1～2 mになる。葉は対生で長さ1～2.5 cmの柄がある。花期は7～8月、今年の枝の先端に直径5～10 cmの集散花序をつける。花は白色。

【分布】国内では本州（静岡県、愛知県、紀伊半島および中国地方）、四国、九州に分布。県内では南勢地域（大紀町、大台町）、紀州（紀北町、尾鷲市、熊野市、紀宝町）に分布。

【現況・減少要因】道路工事や急崖地の崩落などが減少の圧力になる。

【保護対策】林道工事や山林伐採の際、保護の啓発に努める必要がある。
(花尻 薫)

(写真：尾鷲市，2006年，山本和彦撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

ツリフネソウ

被子植物 ツリフネソウ科

Impatiens textorii Miq.

【選定理由】既知の生育地点数は100以下と多いが、近年ニホンジカの食害により消滅、あるいは消滅寸前の生育地が増加している。

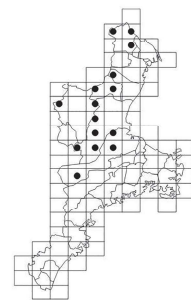
【種概要】山麓の水湿地に生える一年草。茎は高さ40～80 cm。葉は短柄があり葉身は長さ5～13 cm、幅2～6 cm、多数の鋸歯がある。7～9月頃茎の上部葉腋から紅褐色の腺毛の生えた花柄を上につき出して、紅色で径3 cm内外の花をつける。

【分布】国内では北海道から九州。国外では朝鮮半島、中国（東北）、ロシア（極東地方）に分布。県内ではいなべ市、桑名市、四日市市、鈴鹿市、亀山市、伊賀市、名張市、津市、松阪市、熊野市からの記録がある。

【現況・減少要因】ニホンジカの食害により、激減している現状である。

【保護対策】ニホンジカの食圧を軽減することが必要。
(山本和彦)

(写真：伊賀市，2022年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

カラタチバナ

被子植物 サクラソウ科

Ardisia crispa (Thunb.) A.DC.

【選定理由】既知の生育地点数は10程度で、各地点の個体数も少なく、生育地間の交流が分断されている可能性が高い。

【種概要】疎林内に生育する高さ1m未満の小低木で、7月頃葉腋から出た4~7cmの柄の先に散形に花をつけ、赤色の果実をつける。

【分布】台湾、中国。国内では本州（千葉県、富山県以西）、四国、九州、沖縄。県内ではいなべ市、四日市市、鈴鹿市、津市、松阪市、伊賀市、大紀町、明和町、尾鷲市で記録がある。

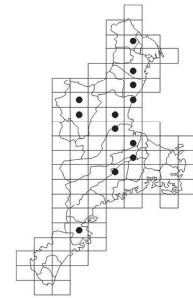
【現況・減少要因】過去に栽培されたこともあり、丘陵や山地の疎林、林縁に多いため、知らずに開発されて減少することが多い。また、いずれの生育地でも個体数は少ない。

【保護対策】各市町の開発部署が最新の情報を把握するとともに、絶えず開発に対して目を光らせる体制づくりが必要である。

【文献】30, 42, 57.

(加田勝敏)

(写真：いなべ市，2018年，池田博撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

ヒコサンヒメシヤラ

被子植物 ツバキ科

Stewartia serrata Maxim.

【選定理由】自生地が台高山脈に限られ、ニホンジカ食害の影響も懸念される。

【種概要】高さ15mになる落葉高木。ヒメシヤラに似るが本種の花は大きく、径3.5~4cm、花期は7月。子房、蒴果は無毛で冬芽は2枚の芽鱗よりなる。

【分布】神奈川県丹沢以西の本州、四国、九州、济州島に分布する。県内では台高山脈の大台ヶ原周辺、明神平、桧塚奥峰周辺から記録されている。

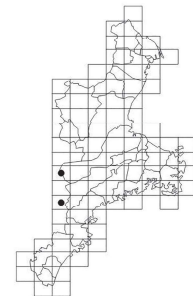
【現況・減少要因】大台ヶ原周辺では古くは1917年の標本記録が存在するが、当時の採集地が奈良県か三重県側かは不明である。台高山脈の奈良県側や大峰山脈からは自生が報告されているが、最近になり、三重県側にも生育することが確認された。ヒメシヤラとよく似ているので、これまで見過ごされてきたものと思われる。今後の調査により生育地が増加する可能性も高い。減少要因の一つとしてニホンジカの食害と森林伐採があげられる。

【保護対策】森林伐採の規制とニホンジカの食圧を軽減することが必要。

【文献】78, 79, 87, 100.

(山本和彦)

(写真：大台町，2013年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

クロミノニシゴリ

被子植物 ハイノキ科

Symplocos paniculata (Thunb.) Miq.

【選定理由】既知の生育地点数はおおよそ20であり、各生育地の個体数は50未満である。近年いくつかの新産地が確認されている。

【種概要】湿地近辺に生える落葉低木。樹皮は紙状に薄くはがれ、葉は長楕円形、先は急鋭尖頭、両面ほとんど無毛。花は白色で5~6月に開き、径約8mm。果実は卵球形で黒く熟し、長さ6~7mm。

【分布】国内では本州（中部地方以西）に分布。県内では北勢、伊賀、中勢および南勢の北部地域に散見されるが、それより南の南勢、紀州地域には記録がない。

【現況・減少要因】県内ではおもに溜池の周囲や湿地近辺に認められる。池の埋め立てや改修、あるいは里山の管理が放棄されたことによる遷移の進行等で衰退した生育地もみられる。

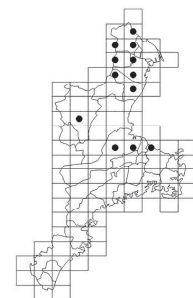
【保護対策】溜池の改修工事にあたっては、事前に保全策を講じる必要がある。また池の埋め立てに際しては、貴重な動植物がみられる池は保全すべきである。

【特記事項】本種は、東海丘陵要素とよばれる種群と同様な分布パターンを示すものとして注目される。

【文献】93.

(山本和彦)

(写真：四日市市，2016年，池田博撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ウメガサソウ

被子植物 ツツジ科

Chimaphila japonica Miq.

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、各生育地とも個体数は少ない。

【種概要】茎の高さは5~10 cm、直立して単一またはわずかに分枝する。葉は楕円形で長さ2~3.5 cm、幅6~10 mm、先がとがり、全体に鋸歯がある。6月頃、茎の先端に花茎を出し、頂に1個の白色花を下向きにつける。

【分布】日本全土。国外ではアジア東部の温帯、亜寒帯に広く分布する。県内ではいなべ市、菰野町、亀山市、伊賀市、名張市、大台町、伊勢市、鳥羽市に分布する。

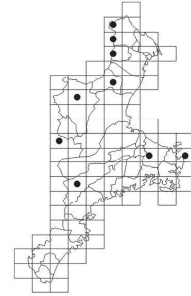
【現況・減少要因】山中に生える草のような常緑の小低木で、もともと生育個体数は少なく、踏みつけや採取圧による影響を受けてさらに減少している。

【保護対策】採取圧や踏みつけなどの人為圧を排除するとともに、生育地の植生の変化による消失も防ぐ必要がある。

【文献】34, 45, 69, 92.

(葛山博次)

(写真：いなべ市，2016年，池田博撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

カイナンサラサドウダン

被子植物 ツツジ科

Enkianthus sikokianus (Palib.) Ohwi

【選定理由】既知の生育地点数は10以上であるが、野生植食動物の摂食により個体数の減少が著しい。

【種概要】日本固有種。落葉低木。よく分枝し枝先に葉を輪生状につける。葉は倒卵形から広楕円形。長さ2.5~5 cm。花は5~6月に咲き、鐘形の花冠は8~20個(類似種サラサドウダンは10個内外)。細長い総状花序(花軸長4~9 cm)をつくる。

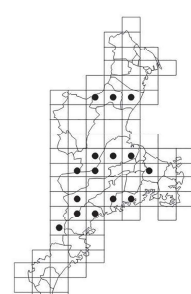
【分布】本州(愛知県、三重県、和歌山県)、四国に分布。県内では鈴鹿市、亀山市の北勢地域から紀州地域の山地や丘陵地に分布。

【現況・減少要因】北勢地域から紀州地域にかけて、山地、丘陵地に生育しているが、野生植食動物の食害による枯損や園芸目的の採取によって個体数が減少している。

【保護対策】過度に繁殖した野生植食動物(ニホンジカ等)の個体数管理が必要である。

(武田明正・山本和彦)

(写真：大台町，2018年，池田博撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

イワナシ

被子植物 ツツジ科

Epigaea asiatica Maxim.

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。各生育地点の個体数は少なく、総個体数は250未満である。

【種概要】山地林縁の斜面や崖に生育する常緑小低木で地上を這う。茎には赤褐色の長毛が生える。葉は長さ4~10 cmで先の尖った卵形。5~6月頃、長さ約1 cmの鐘形、白~淡紅色の花を3~8個、総状につける。固有種。

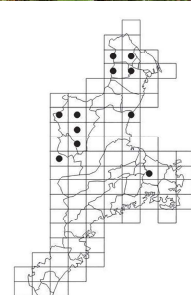
【分布】北海道(西南部)、本州(主に日本海側)。県内では桑名市、いなべ市、菰野町、四日市市、津市、伊賀市、名張市、伊勢市に記録がある。

【現況・減少要因】生育地の多くは人里に近い里山であり、開発圧が高い。伊賀市では湿地や溜池の周辺部にも生育する。

【保護対策】生育適地の意外性や花期が短いため目立たない種である。調査時には特に注意を要する。

(加田勝敏・市川正人)

(写真：伊賀市，2012年，市川正人撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

シャクジョウソウ

被子植物 ツツジ科

Monotropa hypopithys L.

【選定理由】既知の生育地点は10以下、近年生育情報が増えている種で、今後未知の生育地が発見されるものと推測される。

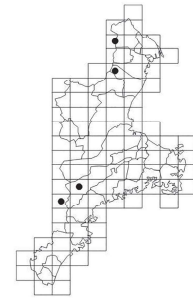
【種概要】森林内のやや暗いところに生える淡黄褐色の菌従属栄養植物。茎は高さ10~20 cm、上部に剛毛が生える。葉は鱗片状で広卵形で先がとがる。6~8月、茎の先に総状花序をつくり、4~8個の下向きの花をつける。

【分布】国内では北海道、本州、四国、九州。国外ではアジアから北アメリカ、ヨーロッパの温帯に広く分布する。県内ではいなべ市、伊賀市、名張市、津市、大台町、伊勢市からの記録がある。

【現況・減少要因】里地、里山の管理放棄等により遷移が進行し、森林環境が増加するに従い本種も増加傾向にあるように推測される。

(山本和彦)

(写真：大台町，2023年，井元俊介撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

アカヤシオ

被子植物 ツツジ科

Rhododendron pentaphyllum Maxim. var. *nikoense* Komatsu

【選定理由】既知の生育地点数は20程度である。採取の対象となる花木である。

【種概要】深山に生える高さ3~6mの落葉低木。アケボノツツジの一変種で、花柄に腺毛があるのでアカヤシオとして区別できる。萼、子房、花柱は無毛。雄しべ10本のうち5本の基部に白毛がある。花は淡紅色。4~5月に開花する。

【分布】国内では本州（福島以西から三重県の太平洋側）に分布。県内では鈴鹿山脈の中・南部および津市、紀北町、大台町などに生育する。

【現況・減少要因】園芸用花木としての採取圧や林道改修などの人為圧により減少している。また、生育地の環境変化圧、特に土石、岩などの崩壊の影響もみのがせない。

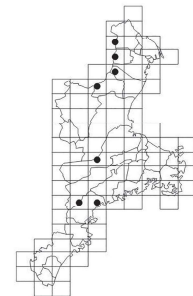
【保護対策】採取圧や林道改修などの人為圧を排除することが必要である

【特記事項】母種アケボノツツジは温帯上部1,400m~1,800mが分布の中心。近畿地方以西、四国、九州に分布する。県内では菰野町、伊賀市、松阪市、大台町、紀北町、熊野市に生育。

【文献】35, 57, 139.

(葛山博次)

(写真：菰野町，2014年，池田博撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ミサオノキ

被子植物 アカネ科

Aidia henryi (E.Pritz.) T.Yamaz.

【選定理由】既知の生育地点数は約10であり、未知の生育地もほとんどないと思われる。

【種概要】照葉樹林に生える常緑低木。高さ2~5m。開花期は5~6月。対生の葉の片方が退化して線形葉となることが多く、その葉腋に集散花序をつける。花は淡黄色。果実は液果で、冬に黒熟する。

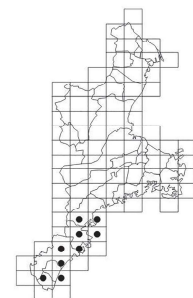
【分布】国内では紀伊半島、四国、九州、沖縄。国外では台湾、中国大陸南部、東南アジア、インド、オーストラリア、ポリネシア。県内では紀北町、尾鷲市、熊野市、御浜町で記録がある。和歌山県とともに三重県は本種の分布北限をなす。

【現況・減少要因】紀北町、尾鷲市、熊野市、御浜町の照葉樹の残る社寺林などに点在。開発等による照葉樹林の消失にともない減少したと推測される。

【保護対策】本種の生育地である照葉樹の残る社寺林の保全が望まれる。

(平山大輔)

(写真：尾鷲市，2012年，山本和彦撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

イナモリソウ

被子植物 アカネ科

Pseudopyxis depressa Miq.

【選定理由】 既知の生育地点数は20で、未知の生育地もほとんどないと思われる。

【種概要】 山地に生える多年生草本。高さ3～5cm。開花期は5～6月。径2～3cmで花冠の5裂した淡紫色の花をつける。

【分布】 日本固有種。本州（関東以西）、四国、九州。県内では北勢、中勢、伊賀、南勢、紀州地域などで記録がある。

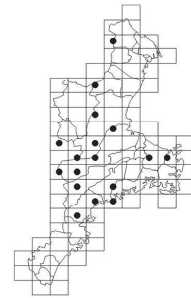
【現況・減少要因】 南勢、紀州地域では確認されている生育地点は僅かである。開発および植生遷移の進行により減少していると思われる。

【保護対策】 生育地の保全が望まれる。

【文献】 48.

(平山大輔)

(写真：いなべ市，2013年，市川正人撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

ハルリンドウ

被子植物 リンドウ科

Gentiana thunbergii (G.Don) Griseb. var. *thunbergii*

【選定理由】 県内に広く分布するが、丘陵地の大規模開発や圃場整備事業、また、アカマツ林など里山林の荒廃などで安定した生育地が狭められた。

【種概要】 日当たりのよいやや湿り気のあるところに生える二年草。高さ約10cmの茎の上部に青紫色の花を咲かせる。

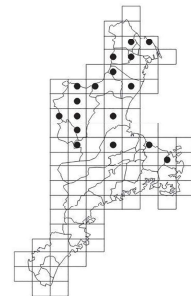
【分布】 国内では北海道、本州、四国、九州。県内では北勢、中勢、南勢、伊賀地域などの丘陵地から山地の日当たりのよい湿性の原野、池畔、地下水がにじみ出ている斜面などに生育する。

【現況・減少要因】 本種は丘陵地から山地の湿地に多く分布している。これらの地域は大規模な開発が進み、一方では里山林の荒廃もみられ、その生育地に大きな影響が出ている。

【保護対策】 生育地の確認と荒廃した里山林の再生による生育地環境の保全が必要である。

(桐生定巳)

(写真：松阪市，2016年，池田博撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

ハウライカズラ

被子植物 マチン科

Gardneria nutans Sieb. et Zucc.

【選定理由】 既知の生息地点数は10以下。各生息地の個体数は50未満である。

【種概要】 暖地の林内に生える常緑のつる性木。葉は角質で対生し、葉身は長楕円形。6～7月上旬の葉腋から長さ1～2cmの花序をのぼして淡黄白色の1～2個の花をつける。腋果は球形で、約1cmで赤熟する。

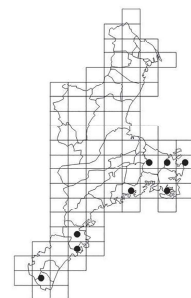
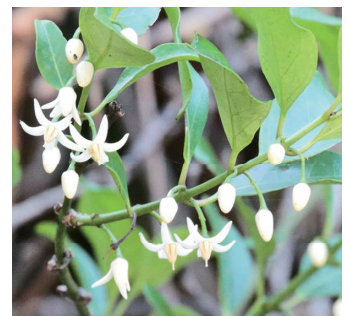
【分布】 国内では本州（千葉県以西）、四国、九州の暖帯に分布。県内では南勢、紀州地域の林内。

【現況・減少要因】 南勢地域以南の林内に点々と分布。国立公園内に位置する生息地もあるが、照葉樹林の伐採などにより減少する可能性もある。

【保護対策】 暖地林の伐採や開発に注意を要する。

(山脇和也)

(写真：伊勢市，2023年，池田博撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

コカモメヅル

被子植物 キョウチクトウ科

Tylophora floribunda Miq.

【選定理由】既知の生育地点は100以下、県下ほぼ全域に分布するが、減少傾向にある。

【種概要】野原に生えるつる性の多年草。葉は対生し、三角状の卵形～卵状披針形で、尾状鋭尖頭。長さ2.5～8 cm、幅1～3 cm、5～20 mmの柄がある。花期は7～8月、花序はよく分枝して葉より長く、花は暗紫色で径約4～5 mm。

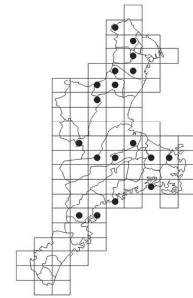
【分布】国内では本州、四国、九州、国外では朝鮮半島、中国に分布。県内ではほぼ全域からの記録がある。

【現況・減少要因】里地、里山の管理放棄により遷移が進行し、生育環境が変わってきていることや太陽光発電施設設置等の開発により自生地が消失していることが減少要因の一つとなっている。

【保護対策】本種が自生している草地とその周辺の適切な管理や保全が望まれる。

(山本和彦)

(写真：四日市市，2022年，池田博撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

タチカモメヅル

被子植物 キョウチクトウ科

Vincetoxicum glabrum (Nakai) Kitag. var. *glabrum*

【選定理由】既知の生育地点数はおよそ20であるが、生育地の湿った草地は減少傾向にある。

【種概要】湿気のある草地にはえる多年草。茎ははじめ立ち上がるが先はつる状に他の植物に絡む。夏に暗紫色で径1 cmほどの花を葉腋につける。

【分布】国内では本州（近畿地方以西）から九州。県内ではいなべ市、桑名市、四日市市、鈴鹿市、伊賀市、名張市、津市、松阪市、多気町、玉城町で記録がある。

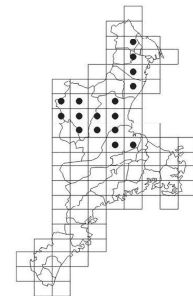
【現況・減少要因】県北中部には点々と生育しているが、開発等で生育地が減少している。また、遷移の進行による環境変化で消滅したところもある。

【保護対策】開発は慎重にすすめること、また、生育地の除草も必要である。

【文献】147.

(山路武夫)

(写真：津市，2014年，山本和彦撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ツルガシワ

被子植物 キョウチクトウ科

Vincetoxicum macrophyllum Siebold et Zucc. var. *nikoense* Maxim.

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。ニホンジカの嗜好植物でもあり、近年生育地が増加傾向にあることからVUからNTに変更となった。

【種概要】山の木陰に生える多年草。茎は下部直立し高さ50～100 cmとなり上部はつる状となる。下部の葉は大きい。暗紫色の花は径6～8 mmで、7～8月頃葉腋にむらがつき、花柄はごく短い。果実は毛が多い。

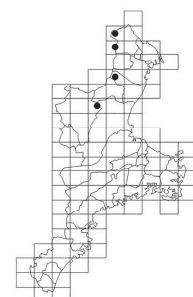
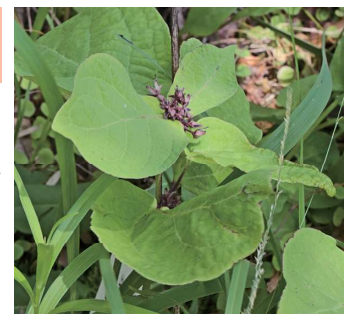
【分布】国内では本州、四国。県内では中部、北勢地域の鈴鹿山系に分布。

【現況・減少要因】鈴鹿山系の北から南にかけてみられる。自然林の伐採などによる減少が考えられる。

【保護対策】石灰岩採取や植林など、自然林の伐採時には生育地を保護する。

(山脇和也)

(写真：いなべ市，2024年，池田博撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

コバノカモメヅル

被子植物 キョウチクトウ科

Vincetoxicum sub lanceolatum (Miq.) Maxim. var. *sub lanceolatum*

【選定理由】既知の生育地点数は100以下であり、各地点の個体数は50未満である。従前はVUと評価したが、今回新規掲載種のコカモメヅル（評価：NT）に比べ、生育地点数・個体数が同程度と判断し、NTとした。

【種概要】山野に生える蔓性の多年草。葉は7～15 mmの柄を持ち、葉は3～11 cm、幅1～2.5 cmで基部は円形またはわずかに心形で、両面はほとんど無毛。花期は7～9月。葉腋に生じて1～3 cmの花柄を持ち、5～13 mmの小花柄がある。花冠は7～9 mm、暗紫色で星形に5裂する。5～7 cmの袋果ができる。固有種。

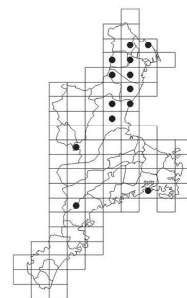
【分布】本州（関東、中部、近畿）の暖帯域。県内では桑名市、いなべ市、四日市市、菰野町、亀山市、津市、南伊勢町、大台町で記録されている。

【現況・減少要因】里山に近い水田の土堤や林縁などに多い。圃場整備・改良による土堤のコンクリート化などが問題となる。

【保護対策】定期的な草刈等を行い、現在の里山の環境を保全する。

(市川正人)

(写真：鈴鹿市，2013年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

イヌノフグリ

被子植物 オオバコ科

Veronica polita Fr. subsp. *lilacina* (T.Yamaz.) T.Yamaz.

【選定理由】既知の生育地点数は10程度。各生育地の個体数は50未満である。

【種概要】道ばたや石垣の間などに生える高さ5～20 cmの2年草。3～4月に花が咲き、淡紅白色に、紫紅色のすじのある小さな花を咲かせる。オオイヌノフグリは花が大きく、色もコバルト色をしている。

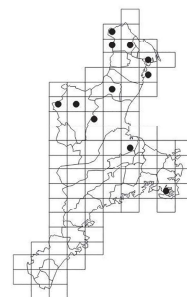
【分布】国内では本州、四国、九州、沖縄。国外では東南アジアの温帯から暖帯にかけて広く分布。県内では北勢、中勢、伊賀、南勢の各地域にみられる。

【現況・減少要因】県内に点々とみられるが、環境により他の種に押されがちな傾向がある。

【保護対策】他の種が進出できない荒れたところに生育しているため、駐車場の空き地や垣根の草取りなどの時には注意を要する。

(山脇和也)

(写真：いなべ市，2015年，池田博撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

VU

オウギカズラ

被子植物 シソ科

Ajuga japonica Miq.

【選定理由】既知の生育地点数は10以上。やや個体数が少なく、各自生地の個体数はおよそ50未満である。

【種概要】山の木陰に生える多年草。花が終わる前後から長い走出枝を出して、地表を這いまわる性質がある。葉は対生で、ほぼハート形でへりには波形の大きな鋸葉がまばらにある。花は4～5月に咲き、淡紫色で長さ2 cm。

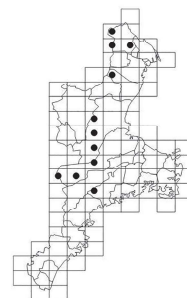
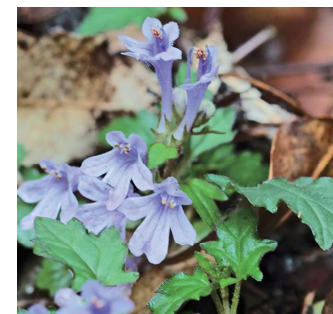
【分布】国内では本州、四国、九州。県内では北勢から南勢地域の山地において、木陰に点々と生育する。

【現況・減少要因】個体数は少ないが、県内に点々と分布しているのでとくに急激に減少することはないと考えられる。

【保護対策】むやみな開発や樹木の伐採は避ける。

(山脇和也)

(写真：大紀町，2019年，池田博撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

スズコウジュ

Perillula reptans Maxim.

被子植物 シソ科

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、生育地の環境は不安定である。

【種概要】低山地の林内の木陰に生える多年生草本。茎はまばらに分枝し、高さ20～30 cm。葉は卵形。地下茎には塊状に膨れる部分がある。開花期は9～11月、花は鐘形。花冠は直径5～6 mmで白色。

【分布】日本固有種。本州（東海地方以西）、四国、九州、沖縄。県内では伊勢市、大紀町、熊野市で記録がある。

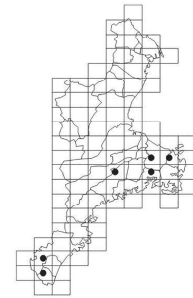
【現況・減少要因】低山地を生育地とするため開発により減少したと思われるが、生育地の調査はまだ十分ではないため、今後の調査で新たな生育地が確認される可能性がある。

【保護対策】生育地の保全が望まれる。

【文献】48.

(平山大輔)

(写真：伊勢市，2014年，池田博撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

ウスギナツノタムラソウ

Salvia lutescens (Koidz.) Koidz. var. *lutescens*

被子植物 シソ科

【選定理由】既知の生育地点数はおよそ20であるが、生育地の中心が三重県にあるので継続的な調査が必要である。

【種概要】山地や川岸の林下に生える多年草。草丈は10～60 cm。葉は対生で1～2回羽状複葉。5～6月に淡黄色の花を穂状につける。

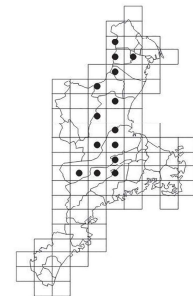
【分布】国内では本州（岐阜県、三重県、滋賀県）。県内ではいなべ市、菰野町、四日市市、伊賀市、亀山市、鈴鹿市、津市、松阪市、多気町、大台町、大紀町で生育の記録がある。

【現況・減少要因】宮川流域以北の川岸や山地に点々と生育している。減少しているかどうかは不明な点が多い。

【保護対策】川岸の工事や森林伐採の時に生育地に配慮する。

(山路武夫)

(写真：松阪市，2016年，池田博撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ヒメナミキ

Scutellaria dependens Maxim.

被子植物 シソ科

【選定理由】既知の生育地点数は10程度であるが、開発されやすい湿地に生育している。

【種概要】湿った草地、湿地に生育する繊細な多年草。茎は四角で細く20～60 cm。葉は狭卵状三角形で対生、長さ1～2 cm。6～8月に小さな白い花を葉腋につける。

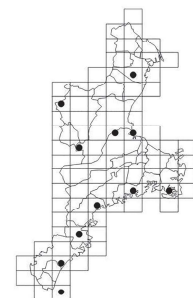
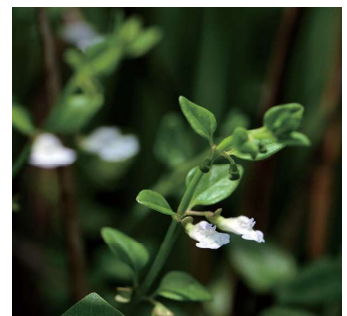
【分布】国外では朝鮮半島、中国東北部、シベリア。国内では北海道、本州、九州。県内では四日市市、伊賀市、津市、志摩市、南伊勢町、紀北町、尾鷲市、熊野市、紀宝町で記録がある。

【現況・減少要因】中・南勢、紀州に点在している。湿地の開発や遷移の進行で減少している。

【保護対策】湿地の開発は慎重に進める。また、生育地の草刈りを時々することも必要である。

(山路武夫・宮島美栄)

(写真：南伊勢町，2017年，半田俊彦撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

オオヒキヨモギ

Siphonostegia laeta S.Moore

被子植物 ハマウツボ科

【選定理由】既知の生育地点数は10以下。各地点の個体数は50未満で減少傾向にある。

【種概要】日当たりの良いやや乾いた草地や丘陵地に生える高さ30～70 cm、半寄生の1年草。葉は深裂し、翼のある柄を持つ。花は8～9月頃葉腋に生じ、萼は長い筒状で隆起する肋があり、先は5裂片となる。花冠は約2.8 cmの2唇形で下唇は3裂する。ヒキヨモギに似ているが、開出する腺毛を持つこと、花冠上唇の先が切形であるなどの違いがある。固有種。

【分布】本州（関東地方、中部地方、近畿地方、中国地方）、四国（瀬戸内沿岸）。県内では四日市市、鈴鹿市、亀山市、伊賀市、松阪市、伊勢市、大台町、熊野市、御浜町で記録されている。

【現況・減少要因】最近飯南町粥見の高所で群落を見た。丘陵地の土地造成が減少要因であろう。

【保護対策】工業団地や宅地のための草地開発・土地造成を止めない限り減少は続くであろう。

(市川正人)

テイショウソウ

Ainsliaea cordifolia Franch. et Sav. var. *cordifolia*

被子植物 キク科

【選定理由】既知の生育地点数は10以上であるが、森林伐採等で減少傾向にある。

【種概要】山地の林下に生育する多年草。葉はほこ形で白い模様があり裏は紫色を帯びる。9～11月に花茎をのぼし数個の頭花を横向きにつける。

【分布】日本固有種。本州（千葉県から近畿地方南部）、四国に分布。県内では伊勢市、大台町、大紀町、紀北町、尾鷲市、熊野市、紀宝町で記録がある。

【現況・減少要因】宮川流域以南の山地に生育している。しかし、森林伐採や自然災害などによる環境変化で減少傾向にある。

【保護対策】森林伐採は慎重にかつ計画的に実施する必要がある。

(山路武夫)

(写真：尾鷲市，2012年，山本和彦撮影)

クサヤツデ

Ainsliaea uniflora Sch. Bip.

被子植物 キク科

【選定理由】県内での分布は広いが、いずれの生育地でも個体数は少なく、開発圧が強い。

【種概要】多年草。地下茎は短く這い、前年の花茎の基部を節として連なる。茎の高さ40～110 cm、葉身の長さ6～14 cm、葉形はウコギ科のヤツデに似ている。花期は9～11月。

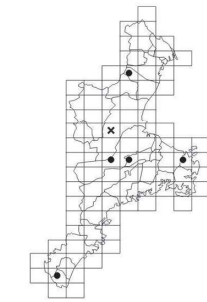
【分布】日本固有種。国内では本州（神奈川県以西から近畿地方の太平洋側）、四国、九州に分布。県内では中勢地域以南に分布。

【現況・減少要因】溪流沿いの林床にみられるが、いずれの生育地でも個体数は少ない。減少の要因は、開発による生育環境の悪化とニホンジカによる食害である。

【保護対策】関係者への周知と、開発立案にあたっては適切な保全策を講じる。また生育地周辺の開発によってニホンジカの行動範囲が変化し、新たに食害が発生する可能性があることにも留意する。

(岡 与一・半田俊彦)

(写真：大台町，2024年，井元俊介撮影)



三重県 2025

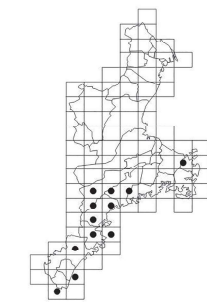
NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

VU



三重県 2025

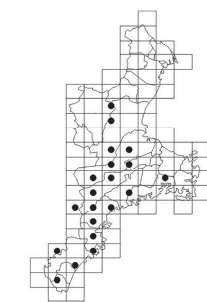
NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

サワシロギク

被子植物 キク科

Aster rugulosus Maxim. var. *rugulosus*

【選定理由】既知の生育地点数はおおよそ20か所であり、生育地が減りつつある。

【種概要】日当たりのよい湿地に生える多年草で、高さ50 cm、地下茎は細長く這う。8～10月に開花し、白色でのちに紅色を帯びる。

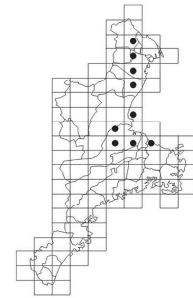
【分布】国内では本州、四国、九州に分布。県内では北勢、中勢、南勢地域の丘陵地や溜池の周囲の湿地に生育する。

【現況・減少要因】開発により、生育地が減少しつつある。

【保護対策】生育地は湿地であるので、湿地全体の保全が重要である。

(後藤稔治・岡田峰尚)

(写真：菰野町，2012年，市川正人撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

キノクニシオギク

被子植物 キク科

Chrysanthemum kinokuniense (Shimot. et Kitam.) H. Ohashi et Yonek.

【選定理由】既知の生育地点数は10程度。海岸改修工事などの開発圧により減少している。

【種概要】海岸の崖地などに生える多年草。下部の葉は長柄であり、開花期には枯れてない。花は11～12月に黄色頭花をつける。頭花は近縁のシオギクより少し小さい。

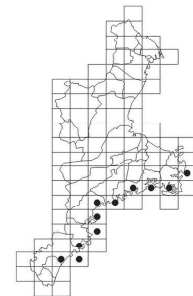
【分布】紀伊半島の固有種で、三重県の鳥羽市国崎町から太平洋岸に沿って和歌山県の日ノ岬まで分布する。県内では鳥羽市、志摩市、南伊勢町、大紀町、紀北町、尾鷲市、熊野市に生育する。

【現況・減少要因】いずれの生育地でも個体数は少ない。海岸の崖地などに生育するため、開発により消滅した生育地もある。

【保護対策】生育環境の保全が必要である。

(岡 与一・半田俊彦)

(写真：熊野市，2008年，山本和彦撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ワタムキアザミ

被子植物 キク科

Cirsium tashiroi Kitam. var. *tashiroi*

【選定理由】既知の生育地点数は10を超える。各生育地点の個体数は50未満である。開発圧がやや強く、シカ食害も認められる。

【種概要】山地や丘陵地の林下・林縁に生えるアザミ類の多年草。9～10月頃、30～50（～100）cmの花茎を伸ばし、横向きに少数の頭花を點頭する。花時にも根出葉（葉は深裂するタイプ）があるタイプのアザミ類である。固有種。

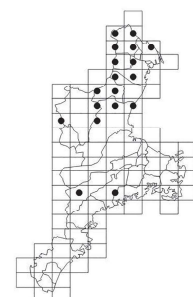
【分布】本州（近畿～東海）。県内ではいなべ市、桑名市、菰野町、四日市市、鈴鹿市、亀山市、伊賀市、大台町、大紀町に記録されている。

【現況・減少要因】開発やシカ食害で減少傾向が強い。

【保護対策】開発時に生育地の回避・低減を図る。また、個体数管理などシカ食害防止対策も必要である。

(加田勝敏・市川正人)

(写真：桑名市，2015年，市川正人撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

VU

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

オグルマ

被子植物 キク科

Inula britannica L. subsp. *japonica* (Thunb.) Kitam.

【選定理由】 既知の生育地点数は10以上であるが、生育地の荒廃などで減少している。

【種概要】 やや湿った草地に生育する多年草。草丈は20～60 cm、花茎は広披針形。7～10月に黄色い頭花をつける。

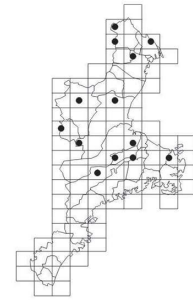
【分布】 国外では中国、朝鮮半島。国内では北海道から九州。県内ではいなべ市、桑名市、伊賀市、名張市、津市、松阪市、鳥羽市、多気町、大台町、度会町で生育の記録がある。

【現況・減少要因】 県の北中部に点々と生育している。比較的乾燥した裸地に生育している個体もあるが、本来の生育地である湿った草地は開発や遷移の進行で減少している。

【保護対策】 適当に草刈をして草地を守っていくことが必要。

(山路武夫)

(写真：大台町，2018年，池田博撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

ハマニガナ

被子植物 キク科

Ixeris repens (L.) A.Gray

【選定理由】 既知の生育地点数は10以下。地下茎をひいて繁殖するため個体数は不明。

【種概要】 砂浜に生える多年草。長く地下茎をひいて、葉を砂上に出す。葉は長柄があって厚く、3～5裂し、径3～5 cm。花は4～10月、頭花は径3 cm内外。

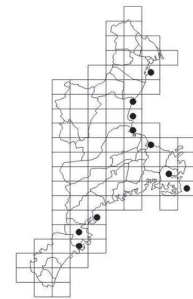
【分布】 国内では北海道から沖縄。国外では中国、ベトナム、朝鮮半島、カムチャッカに分布。県内では伊勢湾沿いの砂浜や南勢、紀州地域の砂浜から記録がある。

【現況・減少要因】 県内を精査すれば、さらに新生育地が増えるものと思われるが、海浜の埋め立て等による改変により、個体数は減少傾向にある。尾鷲市や紀北町では、砂浜の埋め立てや公園化により、生育地がなくなり、絶滅に瀕している。

【保護対策】 海浜にむやみに人工物を造らないこと、本来の自然のまま保全することが重要である。

(山本和彦)

(写真：津市，2015年，北川祐衣撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

オオモミジガサ

被子植物 キク科

Miricacalia makinoana (Yatabe) Kitam.

【選定理由】 既知の生育地点は4。個体数は各生育地とも20未満と推測される。

【種概要】 深山の木陰に生える多年草。茎はやや太く高さ60～80 cm。全体にちぢれた毛があり2～3の葉を互生。下部の葉が最も大きく、掌状に中裂して、径30 cmほどになる。7～9月頃総状に横向きの頭花をつけ、総苞は密にちぢれ毛があり、基部にがくのような小苞がある。

【分布】 日本固有種。福島県以南の本州、四国、九州に分布する。県内では松阪市および大台町の深山から記録されている。

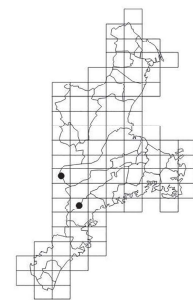
【現況・減少要因】 確認できた生育地はいずれも溪流沿いの岩上で、ニホンジカの食害からは免れることができる立地である。大台ヶ原日出ヶ岳からの記録もあるが、確認することができなかった。ニホンジカの食害により消滅したのかもしれない。

【保護対策】 森林伐採の規制およびニホンジカの食圧を軽減することが必要。

【文献】 48, 57, 90, 139.

(山本和彦)

(写真：松阪市，2013年，市川正人撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

オカオグルマ

被子植物 キク科

Tephroseria integrifolia (L.) Holub subsp. *kirilowii* (Turcz. ex DC.) B.Nord.

【選定理由】既知の生育地点数はおよそ20であり、各生育地の個体数は250未満である。

【種概要】日当たりのよい乾いた草原に生える多年草。茎は高さ20～65 cm、下部は根出葉とともに密にくも毛がある。花期は5～6月。頭花は黄色で、3～9個、散房状またはやや散状につく。

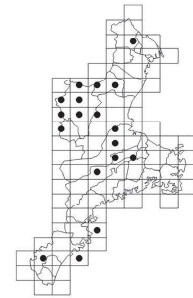
【分布】国内では本州、四国、九州。国外では朝鮮半島、中国に分布。県内では北勢、中勢、伊賀、南勢、紀州地域からの記録がある。

【現況・減少要因】日当たりのよい農道沿いの草地の斜面などにみられ、ときに群生するが、どこにでもみられるというものではない。道路の拡幅や放置により消滅する可能性が高い。

【保護対策】草地の定期的な草刈りにより草地状態を維持することが必要である。また道路の拡幅の際には注意が必要。

(山本和彦)

(写真：亀山市，2016年，市川正人撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

アシタバ

被子植物 セリ科

Angelica keiskei (Miq.) Koidz.

【選定理由】既知の生育地点数は6。しかし、多くは栽培逸出の可能性が高い。自生品が一部に含まれている可能性があるため、NTとしてリストする。

【種概要】海岸の岩場に生育する高さ1 mほどになる多年草。1～2回3出羽状複葉で、小葉は広卵形、革質で光沢があり、あらい不整の鋸歯がある。葉柄下部は葉鞘状となって膨らむ。開花は晩秋で、花は黄色。葉や茎をちぎると濃黄色の汁が出る。各地で食用としてしばしば栽培される。

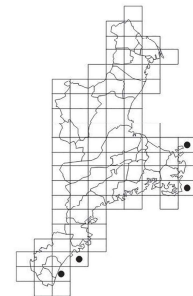
【分布】国内では、関東、東海、紀伊半島、伊豆諸島、小笠原諸島に分布。県内では、いなべ市、鳥羽市、志摩市、紀北町、熊野市、紀宝町からの記録がある。和歌山県の潮岬旭之森展望所付近には自生ではなかいと思われる集団が見られる。

【現況・減少要因】真の自生かどうか不明のため、今後の調査が必要。

【保護対策】海岸環境の保全。

(藤井伸二)

(写真：熊野市，2018年，池田博撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

イブキボウフウ

被子植物 セリ科

Libanotis ugoensis (Koidz.) Kitag. var. *japonica* (H.Boissieu) T.Yamaz.

【選定理由】既知の生育地点数は10以下であり、開発圧が強い。

【種概要】日当たりのよい草地に生育する多年草。茎は高さ30～120 cm。葉は2～3回羽状複葉で長さ5～30 cm、小葉はこまかく切れ込む。複散形花序は径3～6 cmで白色、花期は8～9月。

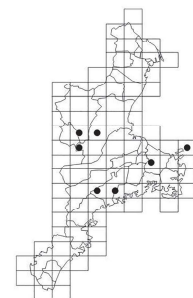
【分布】日本固有種。北海道、本州（近畿以東）に分布。県内では津市、名張市、伊勢市、鳥羽市、大紀町などで記録がある。

【現況・減少要因】現況も増減の傾向については不明である。この植物の生育環境は日当たりのよい草地で、人間の生活圏と競合する。そのため、人が気を付けないと本種の減少につながる。

【保護対策】生育環境の日当たりのよい草地を守る事が大切である。宅地造成など土地改変を行う時には調査を行って、こうした植物への配慮をする必要がある。また、生育状況に関する調査も必要である。

(山路武夫)

(写真：伊勢市，2010年，市川正人撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

哺乳類

ウミヒルモ

被子植物 トチカガミ科

Halophila ovalis (R.Br.) Hook.f.

三重県 2025

DD

三重県 2015

—

環境省 2020

NT

鳥類

本分類群についてはリストに掲載すべきものがあると考えられるが分類と同定が混乱しているので保留とする。

(山本和彦)

爬虫類

ヒメナベワリ

被子植物 ビャクブ科

Croomia japonica Miq.

三重県 2025

DD

三重県 2015

DD

環境省 2020

—

両生類

汽水・淡水魚類

1957年尾鷲市採集の標本記録はあるが、評価できるほどの生育情報がない。標本は京都大学総合博物館に収蔵。

(山本和彦)

昆虫類

キイヒメシライトソウ

被子植物 シュロソウ科

Chionographis cordifolia N.Tanaka

三重県 2025

DD

三重県 2015

DD

環境省 2020

—

クモ類

貝類

大台町大杉谷で文献記録、および標本記録がある(KANA, KYO, TEU)。新産地が期待される。

【文献】120.

(市川正人)

甲殻類

その他動物

クゲヌマラン

被子植物 ラン科

Cephalanthera longifolia (L.) Fritsch

三重県 2025

DD

三重県 2015

DD

環境省 2020

VU

維管束植物

南伊勢町で1か所の生育が確認されているが、現況不明。

(吉田國二)

蘚苔類

藻類

コイチヨウラン

被子植物 ラン科

Ehippianthus schmidtii Rchb.f.

三重県 2025

DD

三重県 2015

CR

環境省 2020

—

キノコ

標本記録がなく、これまでに県内での確認情報もないことからDDと評価した。

(山本和彦)

EX

EW

CR

ツルクサシュスラン

被子植物 ラン科

Goodyera foliosa (Lindl.) Benth. ex C.B.Clarke var. *foliosa*

三重県 2025

DD

三重県 2015

DD

環境省 2020

—

EN

熊野市、紀和町で標本(OSA)があるが、評価できるほどの生育情報がない。

(大洞浩一)

VU

NT

ヒメカンガレイ

被子植物 カヤツリグサ科

Schoenoplectiella mucronata (L.) J.Jung et H.K.Choi var. *mucronata*

三重県 2025

DD

三重県 2015

—

環境省 2020

VU

DD

最近の生育情報が無く、現状不明。

(山本和彦)

アカヒダボタン

被子植物 ユキノシタ科

Chrysosplenium nagasei Wakab. et H.Ohba var. *porphyranthes* Wakab. et H.Ohba

三重県 2025

DD

三重県 2015

—

環境省 2020

—

鈴鹿山系の三重県側はすべてスズカボタンでアカヒダボタンは今のところ確認されていない。

(山本和彦)

シモツケ

被子植物 バラ科

Spiraea japonica L.f. var. *japonica*

三重県 2025

DD

三重県 2015

DD

環境省 2020

—

いなべ市、菰野町、松阪市、熊野市などに生育が確認されているが、評価できるほどの生育情報がない。

【文献】57, 81.

(山本和彦)

オオツルコウジ <i>Ardisia walkeri</i> Yuen P.Yang	被子植物 サクラソウ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 EN
--	-------------	----------------	----------------	----------------

尾鷲市，紀伊長島町で4か所に確認されているが，認識の低い種で，既知生育地の他にもあると考えられる。

【文献】35，36，66.

(吉田國二)

マルバノイチヤクソウ <i>Pyrola nephrophylla</i> (Andres) Andres	被子植物 ツツジ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 —
---	-----------	----------------	----------------	---------------

いなべ市，伊賀市，名張市，松阪市からの標本記録があるが，評価できるほどの生育情報がない。

【文献】163.

(山本和彦)

フジツツジ (メンツツジ) <i>Rhododendron tosaense</i> Makino	被子植物 ツツジ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 —
---	-----------	----------------	----------------	---------------

熊野市紀和町で目視情報，KPM所蔵の1959年尾鷲市採取標本がある．近年の生育情報がなく現況不明である。

(市川正人)

シロバナイナモリソウ <i>Pseudopyxis heterophylla</i> (Miq.) Maxim.	被子植物 アカネ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 —
--	-----------	----------------	----------------	---------------

紀勢で絶滅の可能性が高いとの文献情報があるが，評価できるほどの生育情報がない。

【文献】171.

(山本和彦)

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- 維管束植物
- 蕨類
- 藻類
- キノコ
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD